

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事設計図

A-00	図面リスト	A-21	改修後トイレ1階（職員用）天井伏図	M-01	機械設備工事特記仕様書1
A-01	改修工事特記仕様書1	A-22	改修後トイレブース配置図・姿図	M-02	機械設備工事特記仕様書2
A-02	改修工事特記仕様書2	A-23	部分詳細図	M-03	衛生設備器具リスト
A-03	改修工事特記仕様書3	A-24	仮設計画図	M-04	衛生設備 1階平面図(改修)
A-04	改修工事特記仕様書4			M-05	衛生設備 職員用トイレ1階平面詳細図(改修)
A-05	改修工事特記仕様書5			M-06	衛生設備 職員用トイレ1階平面詳細図(現況)
A-06	改修工事特記仕様書6			M-07	換気設備 職員用トイレ1階平面詳細図(改修)
A-07	改修工事特記仕様書7			M-08	換気設備 職員用トイレ1階平面詳細図(現況)
A-08	改修工事特記仕様書8				
A-09	改修工事特記仕様書9				
A-10	改修工事特記仕様書10				
A-11	メーカーリスト				
A-12	設計概要・外部仕上表・内部仕上表	E-01	電気設備工事特記仕様書1		
A-13	附近見取図	E-02	電気設備工事特記仕様書2		
A-14	配置図	E-03	電灯盤改修		
A-15	校舎1階平面図	E-04	平面図		
A-16	改修前トイレ1階(職員用)平面図	E-05	職員用トイレ撤去改修図		
A-17	改修前トイレ1階(職員用)展開図1				
A-18	改修後トイレ1階(職員用)展開図2				
A-19	改修後トイレ1階(職員用)平面詳細図				
A-20	改修後トイレ1階(職員用)展開図				

特記事項	令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図				設計・監理	一級建築士事務所
	図面リスト				野中建築設計事務所	
	DW.	CK.	NO.	DATE	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408	

建築改修工事特記仕様書		章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																																														
<p>【1】 工 事 概 要</p> <p>1. 工 事 場 所 <u>京都府船井郡京丹波町大井ノ埒内6番地</u></p> <p>2. 敷 地 面 積 _____ m²</p> <p>3. 建築物概要</p> <table border="1"> <tr> <th>棟 名</th> <th>構 造</th> <th>階 数</th> <th>建築面積(m²)</th> <th>延べ面積(m²)</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>管理棟・教室棟</td> <td>RC造</td> <td>3</td> <td></td> <td>1747.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>4. そ の 他</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>【2】 適 用 範 囲</p> <p>現場説明書（質疑回答書を含む）、本特記仕様書、図面、改修標準仕様書に示す範囲とする。すべての設計図書は相互に補充するものとし、相違がある場合は、上記の順番を優先順位とする。上記の標準仕様書とは、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）をいう。（以下、これを「改修標準」という。）本書に特に記載のない事項にあっても、すべて、「改修標準」の適用を受けるものとする。</p> <p>【3】 工 事 区 分</p> <p>設計図書による。 別契約の施工上密接に関連する工事との取合い部分が発生する場合は、別紙工事区分表による。</p> <p>【4】 工 事 仕 様</p> <p>1. 設計図書による。設計図書に記載されていない事項は、「改修標準」のほか別記の適用基準による。 2. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 3. 特記事項は、●印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ※印と●印の付いた場合は、共に適用する。※印が抹消された場合は、●印のみ適用する。 4. 項目及び特記事項に記載の（ ）内表示番号は「改修標準」の当該項目、当該図又は当該表を示す。</p>		棟 名	構 造	階 数	建築面積(m ²)	延べ面積(m ²)	備 考	管理棟・教室棟	RC造	3		1747.8																										<p>1 一般共通事項</p> <p>③ 特別な材料の工法 設計図書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。</p> <p>④ 風圧力及び積雪に対する性能 建築基準法に基づき定められた風速及び地表面粗度区分等 風速 (Vo) ● 3 2 ○ (平成12年5月31日建設省告示第1454号) 地表面粗度区分 ○ I ○ II ● III ○ IV 多雪地域の指定 ● なし ○ あり</p> <p>⑤ 現場代理人 本工事の施工にあたっては、工事請負契約書第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任しなければならない。</p> <p>⑥ 工事工程報告 月報は毎月末日に定め、翌月5日までに提出する。 日報は監督職員の指示による。 週報は毎週（ ）曜日に提出する。</p> <p>⑦ 工事実績情報の登録 (1.1.4) 適用する（適用事項は、現場説明書による） ○ 適用しない</p> <p>⑧ 設備工事との取合い 施工範囲 ● 図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強 ● 図示した壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ○ 駆動装置が電動による建具類の二次配線及び操作スイッチ ○ 自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 施工図 設備機器の位置、取合等の検討できる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける。</p> <p>⑨ 施工図等の取扱い (1.2.3) 施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲される。</p> <p>⑩ 工事写真 (1.2.4) 工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編（最新版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）によるほかは監督職員の指示による。 下記のもの監督職員に提出する。</p> <table border="1"> <tr> <th>着 工 前</th> <th>部 数(※ガ1棟につき)</th> <th>分 類 ・ 規 格</th> <th>原版の大きさ (mm)</th> </tr> <tr> <td>工 事 中</td> <td>● 1 ○</td> <td>● カラーサービス版</td> <td>○ 24×36以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">完 成 時</td> <td rowspan="2">内 部 ()箇所</td> <td>● カラーサービス版</td> <td>○ 24×36以上</td> </tr> <tr> <td>○ カラーキャビネ版</td> <td>○ 60×70以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">外 観 ()箇所</td> <td>○ 2 ○</td> <td>○ カラーキャビネ版</td> <td>○ 24×36以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ カラーパネル半切</td> <td>○ 60×70以上</td> </tr> </table> <p>写真をデジタル写真で撮影する場合には、完成写真については有効画素数300万画素程度、工事写真は有効画素数130万画素程度とし、黒板の文字等の内容が判読できる精度を確保するものとする。 完成写真撮影場所は、監督職員の指示による。 ○ 完成写真撮影業者は、監督職員の承諾する撮影業者（建築写真専門業者）とする。適用する</p> <p>⑪ 電気保安技術者 (1.3.3) 現場説明書による</p> <p>⑫ 施工条件 (1.3.5) ○ 引渡しを要するもの（ ） ○ 工事現場において再利用を図るもの、再資源化を図るもの（ ） ○ 指定副産物の搬出（詳細は現場説明書による） ○ アスファルトコンクリート塊 ○ セメントコンクリート塊 ● 建設発生木材 ○ 指定副産物の処分地（詳細は現場説明書による） ● 指定地処分（京都環境保全公社） ○ 自由処分（最寄りの再資源化施設へ搬出すること） ○ 指定副産物以外の搬出 ○ 構外搬出適切処理 ○（ ） ○ 特別管理産業廃棄物</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>処 理 方 法</th> </tr> <tr> <td>○ 廃石綿等</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ PCBを含む機器類</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ PCB含有シーリング</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 廃油</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 廃酸・廃アルカリ（臭化リチウム）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 廃酸・廃アルカリ（蓄電池電解液）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ SF6ガス使用機器</td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 廃石綿の処分地（ 株式会社環境保全公社瑞穂センター）</p> <p>せつこうボードの処理方法 ○ 石綿含有せつこうボードの処理 改修標準9.1.5による ○ ひ素・カドミウム含有のせつこうボードの処理 ○ 製造業者にて処分 ○ 埋立処分 ○ その他のせつこうボードの処理 ○ 最終処分 ○ 再資源化</p>	着 工 前	部 数(※ガ1棟につき)	分 類 ・ 規 格	原版の大きさ (mm)	工 事 中	● 1 ○	● カラーサービス版	○ 24×36以上	完 成 時	内 部 ()箇所	● カラーサービス版	○ 24×36以上	○ カラーキャビネ版	○ 60×70以上	外 観 ()箇所	○ 2 ○	○ カラーキャビネ版	○ 24×36以上		○ カラーパネル半切	○ 60×70以上	種 類	処 理 方 法	○ 廃石綿等		○ PCBを含む機器類		○ PCB含有シーリング		○ 廃油		○ 廃酸・廃アルカリ（臭化リチウム）		○ 廃酸・廃アルカリ（蓄電池電解液）		○ SF6ガス使用機器		<p>1 一般共通事項</p> <p>14 調査のための破壊部分の補修 (1.5.3) 既存破壊部分の補修方法 ○ 図示による ○ _____</p> <p>15 技能士 (1.6.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>工事種別</th> <th>適用する技能士の技能検定における選択作業</th> </tr> <tr> <td>仮設工事</td> <td>○ とび作業</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工事</td> <td>○ 鉄筋組立作業</td> </tr> <tr> <td>コンクリート工事</td> <td>● 左官作業 ○ 型枠組立作業 ○ コクリート圧送工事作業</td> </tr> <tr> <td>鉄骨工事</td> <td>○ 構造用鉄工作業 ○ とび作業</td> </tr> <tr> <td>ブロック及びALC工事</td> <td>○ コクリートブロック工事作業 ○ ALC工事作業</td> </tr> <tr> <td>カーテンウォール工事</td> <td>○ 金属製カーテンウォール施工作業 ○ ビル用サッシ施工作業 ○ ガラス工事作業</td> </tr> <tr> <td>防水工事</td> <td>○ 757防水工事作業 ○ シーリング防水工事作業 ○ 417防水工事作業 ○ 防水工事作業 ○ フルコート防水工事作業 ○ FRP防水工事作業 ○ 合成ゴム系防水工事作業 ○ 塩化ビニル系防水工事作業 ○ 改質757防水シート防水工事作業</td> </tr> <tr> <td>石工事</td> <td>○ 石張り作業</td> </tr> <tr> <td>タイル工事</td> <td>○ タイル張り作業</td> </tr> <tr> <td>木工工事</td> <td>● 大工工事作業</td> </tr> <tr> <td>屋根及びといた工事</td> <td>○ 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事作業</td> </tr> <tr> <td>金属工事</td> <td>● 鋼製下地工事作業 ○ 内外装板金作業</td> </tr> <tr> <td>左官工事</td> <td>● 左官作業</td> </tr> <tr> <td>塗装工事</td> <td>● 建築塗装作業</td> </tr> <tr> <td>建具工事</td> <td>○ ビル用サッシ施工作業 ○ ガラス工事作業 ○ 自動ドア施工作業</td> </tr> <tr> <td>内装工事</td> <td>○ フラット床仕上げ工事作業 ○ ボード仕上げ工事作業 ○ カーペット系仕上げ工事作業 ○ 壁装作業</td> </tr> <tr> <td>排水工事</td> <td>● 建築配管作業</td> </tr> <tr> <td>舗装工事</td> <td>○ 溶融型インドールマーカー工事作業 ○ 加熱型インドールマーカー工事作業</td> </tr> <tr> <td>植栽工事</td> <td>○ 造園工事作業</td> </tr> </table> <p>ただし技能士に代わる者による施工の場合は監督職員の承諾を得ること。</p> <p>16 施工の検査等 (1.6.5) 見本施工の実施 ○ 適用する（ ） ○ 適用しない</p> <p>17 化学物質の濃度測定 (1.6.9) 適用する（適用事項は、現場説明書による）</p> <p>18 完成図 (1.8.2) 作成する（提出部数● 2部 ○ 部） 詳細は監督職員の指示による。 完成図等の電子データによる提出については、現場説明書による。</p> <p>19 保全に関する資料 (1.8.3) 作成する（提出部数● 2部 ○ 部） ○ 敷地、建物の構造規模、主要な設備構成等の建物概要 ○ 建物を使用する上での注意事項 ○ 建物に設置されている家具、機器等及び部位毎の仕上げの概要説明 ○ 建物、工作物、植栽等を管理する上での保全業務の要点 ○ 主要材料の製造所名、所在地、連絡先、非常時の連絡体制一覧表 建設大臣官房官庁営繕部監修「管理者のための建築物保全の手引き」及び「建築物保全業務共通仕様書」を参考として作成すること。</p>	工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業	仮設工事	○ とび作業	鉄筋工事	○ 鉄筋組立作業	コンクリート工事	● 左官作業 ○ 型枠組立作業 ○ コクリート圧送工事作業	鉄骨工事	○ 構造用鉄工作業 ○ とび作業	ブロック及びALC工事	○ コクリートブロック工事作業 ○ ALC工事作業	カーテンウォール工事	○ 金属製カーテンウォール施工作業 ○ ビル用サッシ施工作業 ○ ガラス工事作業	防水工事	○ 757防水工事作業 ○ シーリング防水工事作業 ○ 417防水工事作業 ○ 防水工事作業 ○ フルコート防水工事作業 ○ FRP防水工事作業 ○ 合成ゴム系防水工事作業 ○ 塩化ビニル系防水工事作業 ○ 改質757防水シート防水工事作業	石工事	○ 石張り作業	タイル工事	○ タイル張り作業	木工工事	● 大工工事作業	屋根及びといた工事	○ 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事作業	金属工事	● 鋼製下地工事作業 ○ 内外装板金作業	左官工事	● 左官作業	塗装工事	● 建築塗装作業	建具工事	○ ビル用サッシ施工作業 ○ ガラス工事作業 ○ 自動ドア施工作業	内装工事	○ フラット床仕上げ工事作業 ○ ボード仕上げ工事作業 ○ カーペット系仕上げ工事作業 ○ 壁装作業	排水工事	● 建築配管作業	舗装工事	○ 溶融型インドールマーカー工事作業 ○ 加熱型インドールマーカー工事作業	植栽工事	○ 造園工事作業	<p>2 仮設工事</p> <p>① 足場その他 (2.1.3) (2.2.1) 労働安全衛生法、建築基準法、建設工事公衆災害防止対策要綱その他関係法令に従い、適切な材料及び構造のものとし、適切な保守管理を行う。 外部足場 ○ 施行箇所面に枠組足場を設ける。 ○ 施行箇所面にくさび緊結式足場を設ける。 ○ 施行箇所面に単管本足場を設ける。 ○ 仮設ゴンドラを使用する。 ○ 移動式足場を使用する。 内部足場 ※ 脚立、足場板等 ○ _____ 防護シート等 ○ 防音パネル ○ 防音シート ○ 養生シート ○ ネット及び養生シート 材料、撤去材等の選搬方法 ○ A種 ● B種 ○ C種 ○ D種 ○ E種 (表2.2.1)</p> <p>足場は、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省 基発第0424001号）」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づき「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中核及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立、解体又は変更の作業は「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり専用足場方式を採用すること。屋根工事及び小屋組の建方工事における墜落事故防止対策は、JIS A 8971（屋根工事用足場及び施工方法）の施工標準に基づく足場及び装備機材を設置すること。</p> <p>② 既存部分の養生 (2.3.1) 既存部分の養生 ※ 行う（※ ビニールシート、合板 ○ _____） ○ 行わない 既存家具・既存設備等の養生 ※ 行う（※ ビニールシート ○ _____） ○ 行わない 既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管 ○ 行う ○ 行わない 養生の方法 ○ 取り外しの上で清掃 ○ _____ 保管場所 ○ 室内にてカバー掛の上、適切保管 ○ _____ 家具の移動 ○ 行う（図示） ○ 行わない</p> <p>③ 仮設間仕切り (2.3.2) ○ 設ける（図示）</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>仕上げ(厚さmm)</th> <th>塗装</th> <th>充填</th> </tr> <tr> <td>○ A種</td> <td>● せつこうボード 種類 ○ GB-R 厚さ ○ mm ● 9.5mm</td> <td>● なし ○ 片面 ○</td> <td>グラスウール ○ 24kg/m³ ○ _____ 厚さ ○ 50mm</td> </tr> <tr> <td>● B種</td> <td>○ 合板 材質 ○ 珪藻土合板 ○ _____ 厚さ ○ mm ○ 9mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>※ C種</td> <td>全面シート張り</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 設けない</p> <p>4 監督職員事務所 (2.4.1) 規模 ○ 10m²程度 ○ 20m²程度 ○ 35m²程度 ○ 65m²程度 ○ 100m²程度 仕上床 ○ 合板張り素地 ○ ビニル床シート敷き ○ パンクベア敷き 内壁、天井 ○ 合板又はせつこうボード張り、合成樹脂珪藻土ボード塗り 屋根 ○ 塗装溶融垂れめっき鋼板張り ○ 鉄板張り鋼合板塗り 休憩室 ○ 設けない ○ 設ける(畳敷き) ○ _____ 備品 ○ 机 ○ いす ○ 保護帽 ○ ゴム長靴 ○ 雨がっぱ ○ 衣類のか(上記6品、____人分程度) ○ 書棚 ○ 黒板 ○ 製図板 ○ 掛時計 ○ 温度計 ○ 消火器 ○ 掃除機 ○ 懐中電灯 ○ 湯沸器 ○ 加入電話機 ○ 冷暖房機器 ○ コピー機 ○ ネット回線 ○ 流し台 ○ _____ ○ 改修標準(平成31年版) ○ 建築改修工事監理指針(令和元年版) ○ 建築工事施工チェックシート ○ 建築工事標準詳細図(平成28年版) ○ 工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編(最新版)</p> <p>5 工事用水</p> <p>6 工事用電力</p> <p>7 仮囲い等</p> <p>8 設計GL ○ 図示による ○ _____ ○ 図示による ○ 設計GL=現状GL</p>	種別	仕上げ(厚さmm)	塗装	充填	○ A種	● せつこうボード 種類 ○ GB-R 厚さ ○ mm ● 9.5mm	● なし ○ 片面 ○	グラスウール ○ 24kg/m ³ ○ _____ 厚さ ○ 50mm	● B種	○ 合板 材質 ○ 珪藻土合板 ○ _____ 厚さ ○ mm ○ 9mm			※ C種	全面シート張り		
棟 名	構 造	階 数	建築面積(m ²)	延べ面積(m ²)	備 考																																																																																																																																
管理棟・教室棟	RC造	3		1747.8																																																																																																																																	
着 工 前	部 数(※ガ1棟につき)	分 類 ・ 規 格	原版の大きさ (mm)																																																																																																																																		
工 事 中	● 1 ○	● カラーサービス版	○ 24×36以上																																																																																																																																		
完 成 時	内 部 ()箇所	● カラーサービス版	○ 24×36以上																																																																																																																																		
		○ カラーキャビネ版	○ 60×70以上																																																																																																																																		
外 観 ()箇所	○ 2 ○	○ カラーキャビネ版	○ 24×36以上																																																																																																																																		
		○ カラーパネル半切	○ 60×70以上																																																																																																																																		
種 類	処 理 方 法																																																																																																																																				
○ 廃石綿等																																																																																																																																					
○ PCBを含む機器類																																																																																																																																					
○ PCB含有シーリング																																																																																																																																					
○ 廃油																																																																																																																																					
○ 廃酸・廃アルカリ（臭化リチウム）																																																																																																																																					
○ 廃酸・廃アルカリ（蓄電池電解液）																																																																																																																																					
○ SF6ガス使用機器																																																																																																																																					
工事種別	適用する技能士の技能検定における選択作業																																																																																																																																				
仮設工事	○ とび作業																																																																																																																																				
鉄筋工事	○ 鉄筋組立作業																																																																																																																																				
コンクリート工事	● 左官作業 ○ 型枠組立作業 ○ コクリート圧送工事作業																																																																																																																																				
鉄骨工事	○ 構造用鉄工作業 ○ とび作業																																																																																																																																				
ブロック及びALC工事	○ コクリートブロック工事作業 ○ ALC工事作業																																																																																																																																				
カーテンウォール工事	○ 金属製カーテンウォール施工作業 ○ ビル用サッシ施工作業 ○ ガラス工事作業																																																																																																																																				
防水工事	○ 757防水工事作業 ○ シーリング防水工事作業 ○ 417防水工事作業 ○ 防水工事作業 ○ フルコート防水工事作業 ○ FRP防水工事作業 ○ 合成ゴム系防水工事作業 ○ 塩化ビニル系防水工事作業 ○ 改質757防水シート防水工事作業																																																																																																																																				
石工事	○ 石張り作業																																																																																																																																				
タイル工事	○ タイル張り作業																																																																																																																																				
木工工事	● 大工工事作業																																																																																																																																				
屋根及びといた工事	○ 内外装板金作業 ○ かわらぶき作業 ○ スレート工事作業																																																																																																																																				
金属工事	● 鋼製下地工事作業 ○ 内外装板金作業																																																																																																																																				
左官工事	● 左官作業																																																																																																																																				
塗装工事	● 建築塗装作業																																																																																																																																				
建具工事	○ ビル用サッシ施工作業 ○ ガラス工事作業 ○ 自動ドア施工作業																																																																																																																																				
内装工事	○ フラット床仕上げ工事作業 ○ ボード仕上げ工事作業 ○ カーペット系仕上げ工事作業 ○ 壁装作業																																																																																																																																				
排水工事	● 建築配管作業																																																																																																																																				
舗装工事	○ 溶融型インドールマーカー工事作業 ○ 加熱型インドールマーカー工事作業																																																																																																																																				
植栽工事	○ 造園工事作業																																																																																																																																				
種別	仕上げ(厚さmm)	塗装	充填																																																																																																																																		
○ A種	● せつこうボード 種類 ○ GB-R 厚さ ○ mm ● 9.5mm	● なし ○ 片面 ○	グラスウール ○ 24kg/m ³ ○ _____ 厚さ ○ 50mm																																																																																																																																		
● B種	○ 合板 材質 ○ 珪藻土合板 ○ _____ 厚さ ○ mm ○ 9mm																																																																																																																																				
※ C種	全面シート張り																																																																																																																																				
特記事項				令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図		設計・監理 一級建築士事務所																																																																																																																															
				改修工事特記仕様書1		野中建築設計事務所																																																																																																																															
				DW. CK. NO. A-01		1級建築士第147931号 野中健一																																																																																																																															
				DATE 03-09		〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408																																																																																																																															

章	項目	特 記 事 項	章	項目	特 記 事 項	章	項目	特 記 事 項	章	項目	特 記 事 項																																																																																																																																																																								
2	土・鉄筋・コンクリート工事	<p>本章の項目及び特記事項の()内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁官庁補修部監修公共建築工事標準仕様書(平成31年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。 なお、耐震改修工事に係る「鉄筋・コンクリート」の取り扱いは、後述の章「8 耐震改修工事」によるものとする。</p> <p>1 埋め戻し及び盛土 (3.2.3) (8.28.3) ○ A種 砂質土(山砂の類)を水締め又は機器による締固め (表3.2.1) ○ B種 根切り土中の良質土を機器による締固め ○ C種 他現場の建設発生土中の良質土を機器による締固め ○ D種 再生コンクリート砂を水締め又は機器による締固め ○ その他(材料_____工法_____) ○ 建設発生土(盛土材)の外部からの受入土量(_____ m³) 発生場所(_____)</p> <p>2 建設発生土の処理 (3.2.5) 下記に定めるほかは、現場説明書による ○ 構外指示の受入場所に処分 受入場所 ○ (一財)城陽山砂利採取地整備公社 _____ 土壌調査 ○ 行う(受入場所指定の検査) _____ ○ 京都市土砂等による土地の立て等規制に関する条例施行規則第7条第3項1号及び第4項に規定する方法 仮置場所 _____ ○ 構内指示の場所に敷き均し ○ 構内指示の場所にたい積 ○ 構外搬出適切処理 ※ 中丹東土木事務所管内及び丹後土木事務所管内で、搬出土量が少量(500m³以内)かつ緊急の場合等 (表5.2.1)</p> <p>3 鉄筋の種類 (5.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>径(mm)</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>※SD295A</td> <td>D16以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※SD345</td> <td>D19以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>4 溶接金網 (5.2.2) 網目の形状、寸法 _____ #150 鉄線の径 _____ φ mm</p> <p>5 コンクリートの種類 (6.2.1) 種類 ※ 普通コンクリート ○ _____ (表6.2.1) 類別 ※ I類 ○ II類</p> <p>6 コンクリートの強度 (6.2.2) (6.2.4) (6.10.2) (6.14.1) 設計基準強度(Fc) <table border="1"> <tr> <th>打設部位</th> <th>Fc(N/mm²)</th> <th>スランプ(cm)</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">構造体</td> <td>○ 2.4</td> <td>○ 15</td> <td>○ 18</td> </tr> <tr> <td>● 2.4</td> <td>● 15</td> <td>○ 18</td> </tr> <tr> <td>土間コンクリート</td> <td>○ 1.8</td> <td>○ 15</td> <td>○ 18</td> </tr> <tr> <td>捨コンクリート</td> <td>○ 1.8</td> <td>○ 15</td> <td>○ 18</td> </tr> <tr> <td>軽量コンクリート</td> <td>○ 2.1</td> <td>※ 2.1</td> <td>○ 1.8</td> </tr> <tr> <td>無筋コンクリート</td> <td>※ 1.8</td> <td>○ 15</td> <td>○ 18</td> </tr> </table> 標仕6.14.1による</p> <p>※ 構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。 [Fc+構造体強度補正值(S)] N/mm² (6.14.1によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)</p> <p>7 セメントの種類 (6.3.1) ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○ 高炉セメントB種(適用箇所 _____) ○ シリカセメント ○ フライアッシュセメントB種(施工箇所 _____)</p> <p>8 骨材 (6.3.1) 粗骨材 ※ 砂利(JIS A5308)、砕石(JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 再生骨材H 細骨材 ※ 砂(JIS A5308)、砕砂(JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 銅スラグ ○ フェロニッケルスラグ ○ 再生骨材H アルカリシリカ反応性による区分 ※ A(無害) ○ _____</p> <p>9 混和材料 (6.3.1) ○ 混和剤 ※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のI種(JIS A 6204) 防錆剤 ※ 鉄筋コンクリート用防錆剤(JIS A 6025) ○ 混和材 ※ フライアッシュ(JIS A 6201) I種、II種若しくはIV種 ○ コンクリート用高炉スラグ微粉末(JIS A 6206) ○ コンクリート用シリカファーム(JIS A 6207) ○ コンクリート用膨張材(JIS A 6202)</p>	種類の記号	径(mm)	備 考	※SD295A	D16以下		※SD345	D19以上		○			打設部位	Fc(N/mm ²)	スランプ(cm)	備 考	構造体	○ 2.4	○ 15	○ 18	● 2.4	● 15	○ 18	土間コンクリート	○ 1.8	○ 15	○ 18	捨コンクリート	○ 1.8	○ 15	○ 18	軽量コンクリート	○ 2.1	※ 2.1	○ 1.8	無筋コンクリート	※ 1.8	○ 15	○ 18	2	土・鉄筋・コンクリート工事	<p>10 構造体強度補正值 (6.3.2) (表6.3.2) ※ 気温による構造体強度補正值(S) <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">予想平均気温(℃)</th> <th rowspan="2">補正值(S)</th> <th colspan="3">期 間 (打 設 日)</th> </tr> <tr> <th>普通</th> <th>早強</th> <th>補正值(S)</th> </tr> <tr> <td>8以上</td> <td>5以上</td> <td>3</td> <td>3/6 ~ 6/30</td> <td>3/11 ~ 7/20</td> <td>3/11 ~ 7/10</td> </tr> <tr> <td>0以上</td> <td>0以上</td> <td>6</td> <td>9/11 ~ 11/15</td> <td>9/1 ~ 11/5</td> <td>9/1 ~ 10/31</td> </tr> <tr> <td>8未満</td> <td>5未満</td> <td>N/mm²</td> <td>11/16 ~ 3/5</td> <td>11/6 ~ 3/10</td> <td>11/1 ~ 3/10</td> </tr> </table> 南部地域(京都市(一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村) 北部地域(宮津市、旧加悦町以北の市町) 中部地域(上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町含む)</p> <p>11 コンクリートの試験 (6.9.2) ~ (6.9.5)</p> <p>12 軽量コンクリート (6.10.1) ~ (6.10.3)</p> <p>13 寒中コンクリート (6.11.1)</p> <p>14 暑中コンクリート (6.12.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>地 域</th> <th>日平均気温が25度を超える期間(打設日)</th> <th>補 正 値</th> </tr> <tr> <td>北 部 地 域</td> <td>7月11日~8月31日</td> <td>※ 6N/mm²</td> </tr> <tr> <td>中 部 地 域</td> <td>7月21日~8月31日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>南 部 地 域</td> <td>7月1日~9月10日</td> <td>○ 3N/mm²</td> </tr> </table> <p>15 コンクリート車の過積載防止対策等 受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサ車1台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。</p>	予想平均気温(℃)	補正值(S)	期 間 (打 設 日)			普通	早強	補正值(S)	8以上	5以上	3	3/6 ~ 6/30	3/11 ~ 7/20	3/11 ~ 7/10	0以上	0以上	6	9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	9/1 ~ 10/31	8未満	5未満	N/mm ²	11/16 ~ 3/5	11/6 ~ 3/10	11/1 ~ 3/10	地 域	日平均気温が25度を超える期間(打設日)	補 正 値	北 部 地 域	7月11日~8月31日	※ 6N/mm ²	中 部 地 域	7月21日~8月31日		南 部 地 域	7月1日~9月10日	○ 3N/mm ²	3	防水改修工事	<p>3 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ~ (3.4.4)</p> <p>3 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ~ (3.4.4)</p> <p>4 合成高分子系M-フィンシート防水 (3.5.2) ~ (3.5.4)</p> <p>5 アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)程度 ○ _____</p> <p>6 断熱材(露出防水絶縁断熱工法) 厚さ _____ mm 種類 ○ _____</p> <p>7 断熱材(断熱工法) 厚さ ○ _____ mm 種類 ○ _____</p> <p>8 断熱材(屋根保護防水断熱工法) 厚さ _____ mm</p> <p>9 断熱材(屋根露出防水断熱工法) 厚さ _____ mm 種類 _____</p> <p>ルーフトレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※ 図示による ○ _____</p>	3	防水改修工事	<p>5 塗膜防水 (3.6.2) ~ (3.6.3)</p> <p>6 漏水試験</p> <p>7 保証書</p> <p>8 施工標識</p> <p>9 シーリング (3.7.2) ~ (3.7.8)</p> <p>10 とい(雨水) (3.8.2) (3.8.3)</p> <p>11 アルミニウム製 笠木 (3.9.2) (3.9.3)</p>	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">種 別 及 び 工 程</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> </tr> <tr> <td>○ P 0 X 工法</td> <td>※ X-1</td> <td>○ X-2</td> <td>表3.6.1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ L 4 X 工法</td> <td>○ X-1</td> <td>※ X-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ P 1 Y 工法</td> <td>※ Y-2</td> <td></td> <td>表3.6.2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ P 2 Y 工法</td> <td>○ _____</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>脱気装置(X-1) ○ 設ける 材 種 () 設置数量(1箇所/ _____ m²) 保護層 ○ 設ける ○ 設けない</p> <p>※ 水張り試験を行う (○ 屋内 ○ 屋外)</p> <p>※ 受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。(保証年限は工事目的物引渡しより10年間以上とする。)</p> <p>工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。 材質 ※ 真鍮製エッチング仕上 150×100 ○ _____ 設置数量() 箇所</p> <p>シーリング材の種類 ※ 改修標仕表3.7.1による</p> <table border="1"> <tr> <th>改修工法の種別</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ シーリング充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ シーリング再充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 拡張シーリング再充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ プリッジ工法</td> <td></td> </tr> </table> <p>目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びびびり割れ誘発目地 ※ 幅20mm以上、深さ10mm以上 ○ _____ ガラス回りの目地 ※ 幅5mm以上、深さ5mm以上 ○ _____ その他の目地 ※ 幅10mm以上、深さ10mm以上 ○ _____</p> <p>シーリングの試験 ※ 簡易接着性試験 (部位 _____) ○ 引張接着性試験 (部位 _____)</p> <p>※ 外とい(外気に接するとい)</p> <table border="1"> <tr> <th>材 種</th> <th>そ の 他</th> </tr> <tr> <td>ルーフトレン</td> <td>※ ルーフトレン (JWF 301) 取付け ○ ※ 水はけ良く、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する</td> </tr> <tr> <td>軒どい</td> <td>○ 硬質塩化ビニル製(角形) (前高) 巾120mm ○ 硬質塩化ビニル製(角形) (カラー) 巾150mm</td> </tr> <tr> <td>たてとい</td> <td>○ 硬質塩化ビニル管 (VP) (カラー) 径 75mm</td> </tr> <tr> <td>谷どい</td> <td></td> </tr> <tr> <td>とい受け金物、足金物</td> <td>※ 改修標仕表 3.8.2 により溶融垂鉛めつきを行ったもの ○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下</td> </tr> </table> <p>○ 内とい (V.P管は使用しない)</p> <table border="1"> <tr> <th>材 質</th> <th>そ の 他</th> </tr> <tr> <td>たてとい及び横走り管</td> <td>○ SGP ○ 径 75mm</td> </tr> <tr> <td>とい受け金物、足金物</td> <td>※ 改修標仕表 3.8.2 により溶融垂鉛めつきを行ったもの ○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下</td> </tr> <tr> <td>防露巻き</td> <td>※ 改修標仕表3.8.3による ※ F☆☆☆☆</td> </tr> </table> <p>※ 掃除口を設ける(開放性のある自転車置き場のといを除く) ○ 養生鉄管を設ける(径 _____ 厚さ _____ 長さ _____) ○ 既存といの撤去及び養生 () ○ 鋼管製といの防露巻 (※ 改修標仕表3.8.4による ○) ○ たてどい受金物 () (表3.9.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>幅</th> <th>板厚(mm)</th> <th>表面処理</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>○ 250形</td> <td>○ 240</td> <td>1.6</td> <td>○ AB-1種 ○ AB-2種</td> <td rowspan="6">隅角部及び突当たり部等の役物は本体製造の仕様による。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 250</td> <td></td> <td>○ AC-1種 ○ AC-2種</td> </tr> <tr> <td>○ 300形</td> <td>300</td> <td>1.8</td> <td>○ BA-1種 ○ BA-2種</td> </tr> <tr> <td>○ 350形</td> <td>350</td> <td>2.0</td> <td>○ BB-1種 ○ BB-2種</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○ BC-1種 ○ BC-2種</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○ C種</td> </tr> </table> <p>曲げ材 ○ _____ ※ 2.0 ○ オープン形 ○ _____ ○ シール形 ○ _____</p> <p>既存笠木等の撤去 ○ 行う (範囲 ○ 図示 ○) ○ 行わない 下地補修の工法 ※ 図示 ○ 板材折曲げ形の笠木取付方法 ※ 図示 ○ 建築基準法に基づく風圧力・積雪荷重に対応した工法 ※ 図示による ○ _____</p>	種 別 及 び 工 程		防水層	施工箇所	仕上塗料		○ P 0 X 工法	※ X-1	○ X-2	表3.6.1			○ L 4 X 工法	○ X-1	※ X-2				○ P 1 Y 工法	※ Y-2		表3.6.2			○ P 2 Y 工法	○ _____					改修工法の種別	施 工 箇 所	○ シーリング充填工法		○ シーリング再充填工法		○ 拡張シーリング再充填工法		○ プリッジ工法		材 種	そ の 他	ルーフトレン	※ ルーフトレン (JWF 301) 取付け ○ ※ 水はけ良く、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する	軒どい	○ 硬質塩化ビニル製(角形) (前高) 巾120mm ○ 硬質塩化ビニル製(角形) (カラー) 巾150mm	たてとい	○ 硬質塩化ビニル管 (VP) (カラー) 径 75mm	谷どい		とい受け金物、足金物	※ 改修標仕表 3.8.2 により溶融垂鉛めつきを行ったもの ○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下	材 質	そ の 他	たてとい及び横走り管	○ SGP ○ 径 75mm	とい受け金物、足金物	※ 改修標仕表 3.8.2 により溶融垂鉛めつきを行ったもの ○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下	防露巻き	※ 改修標仕表3.8.3による ※ F☆☆☆☆	種 類	幅	板厚(mm)	表面処理	備 考	○ 250形	○ 240	1.6	○ AB-1種 ○ AB-2種	隅角部及び突当たり部等の役物は本体製造の仕様による。		○ 250		○ AC-1種 ○ AC-2種	○ 300形	300	1.8	○ BA-1種 ○ BA-2種	○ 350形	350	2.0	○ BB-1種 ○ BB-2種	○			○ BC-1種 ○ BC-2種	○			○ C種
			種類の記号	径(mm)	備 考																																																																																																																																																																														
			※SD295A	D16以下																																																																																																																																																																															
			※SD345	D19以上																																																																																																																																																																															
			○																																																																																																																																																																																
			打設部位	Fc(N/mm ²)	スランプ(cm)	備 考																																																																																																																																																																													
			構造体	○ 2.4	○ 15	○ 18																																																																																																																																																																													
				● 2.4	● 15	○ 18																																																																																																																																																																													
			土間コンクリート	○ 1.8	○ 15	○ 18																																																																																																																																																																													
			捨コンクリート	○ 1.8	○ 15	○ 18																																																																																																																																																																													
軽量コンクリート	○ 2.1	※ 2.1	○ 1.8																																																																																																																																																																																
無筋コンクリート	※ 1.8	○ 15	○ 18																																																																																																																																																																																
予想平均気温(℃)	補正值(S)	期 間 (打 設 日)																																																																																																																																																																																	
		普通	早強	補正值(S)																																																																																																																																																																															
8以上	5以上	3	3/6 ~ 6/30	3/11 ~ 7/20	3/11 ~ 7/10																																																																																																																																																																														
0以上	0以上	6	9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	9/1 ~ 10/31																																																																																																																																																																														
8未満	5未満	N/mm ²	11/16 ~ 3/5	11/6 ~ 3/10	11/1 ~ 3/10																																																																																																																																																																														
地 域	日平均気温が25度を超える期間(打設日)	補 正 値																																																																																																																																																																																	
北 部 地 域	7月11日~8月31日	※ 6N/mm ²																																																																																																																																																																																	
中 部 地 域	7月21日~8月31日																																																																																																																																																																																		
南 部 地 域	7月1日~9月10日	○ 3N/mm ²																																																																																																																																																																																	
種 別 及 び 工 程		防水層	施工箇所	仕上塗料																																																																																																																																																																															
○ P 0 X 工法	※ X-1	○ X-2	表3.6.1																																																																																																																																																																																
○ L 4 X 工法	○ X-1	※ X-2																																																																																																																																																																																	
○ P 1 Y 工法	※ Y-2		表3.6.2																																																																																																																																																																																
○ P 2 Y 工法	○ _____																																																																																																																																																																																		
改修工法の種別	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																		
○ シーリング充填工法																																																																																																																																																																																			
○ シーリング再充填工法																																																																																																																																																																																			
○ 拡張シーリング再充填工法																																																																																																																																																																																			
○ プリッジ工法																																																																																																																																																																																			
材 種	そ の 他																																																																																																																																																																																		
ルーフトレン	※ ルーフトレン (JWF 301) 取付け ○ ※ 水はけ良く、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する																																																																																																																																																																																		
軒どい	○ 硬質塩化ビニル製(角形) (前高) 巾120mm ○ 硬質塩化ビニル製(角形) (カラー) 巾150mm																																																																																																																																																																																		
たてとい	○ 硬質塩化ビニル管 (VP) (カラー) 径 75mm																																																																																																																																																																																		
谷どい																																																																																																																																																																																			
とい受け金物、足金物	※ 改修標仕表 3.8.2 により溶融垂鉛めつきを行ったもの ○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下																																																																																																																																																																																		
材 質	そ の 他																																																																																																																																																																																		
たてとい及び横走り管	○ SGP ○ 径 75mm																																																																																																																																																																																		
とい受け金物、足金物	※ 改修標仕表 3.8.2 により溶融垂鉛めつきを行ったもの ○ 多雪地域の軒といの取付間隔 0.5m 以下																																																																																																																																																																																		
防露巻き	※ 改修標仕表3.8.3による ※ F☆☆☆☆																																																																																																																																																																																		
種 類	幅	板厚(mm)	表面処理	備 考																																																																																																																																																																															
○ 250形	○ 240	1.6	○ AB-1種 ○ AB-2種	隅角部及び突当たり部等の役物は本体製造の仕様による。																																																																																																																																																																															
	○ 250		○ AC-1種 ○ AC-2種																																																																																																																																																																																
○ 300形	300	1.8	○ BA-1種 ○ BA-2種																																																																																																																																																																																
○ 350形	350	2.0	○ BB-1種 ○ BB-2種																																																																																																																																																																																
○			○ BC-1種 ○ BC-2種																																																																																																																																																																																
○			○ C種																																																																																																																																																																																
特記事項			設計・監理 一級建築士事務所																																																																																																																																																																																
令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図			野中建築設計事務所																																																																																																																																																																																
改修工事特記仕様書2			1級建築士第147931号 野中健一																																																																																																																																																																																
DW.	CK.	NO.	A-02	DATE	03-09																																																																																																																																																																														
			〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-2-0 TEL. 0771-62-0288 FAX. 0771-62-0408																																																																																																																																																																																

4 外壁改修工事	1 施工数量調査 (1.5.2)	調査範囲 ○ 外壁改修範囲 ○ 図示の範囲 調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を確認する。 モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また既存塗膜と新規塗材との適合性を確認する。 既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ○ 図示 ○ _____ 調査報告書の部数 ○ 2部 ○ _____ ※ 施工に先立ち、建築士上診断技術者 (BELCA) による外壁劣化状況調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。																																							
	2 ひび割れ部改修 (4.1.4) (4.2.2)	○ コンクリート打放し仕上げ ○ 樹脂注入方法 <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※ 自動式低圧球状樹脂注入工法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200~300</td> <td>○130</td> </tr> <tr> <td>○ 手動式球状樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>○50~100</td> <td>○40</td> </tr> <tr> <td>○ 機械式球状樹脂注入工法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>○100~200</td> <td>○70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>○150~250</td> <td>○130</td> </tr> </table> エポキシ樹脂 ○ 低粘土形 ○ 中粘土形 コア抜き検査 ○ 行う ○ 行わない (注入状況確認方法 _____) 抜き個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 ○ _____ 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○ _____ ○ Uカットシール材充填方法 ○ シーリング材 充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ _____ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない ○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シール工法 ○ パテ状エポキシ樹脂 ○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ モルタル塗り仕上げ ○ 樹脂注入方法 <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※ 自動式低圧球状樹脂注入工法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200~300</td> <td>○130</td> </tr> <tr> <td>○ 手動式球状樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>○50~100</td> <td>○40</td> </tr> <tr> <td>○ 機械式球状樹脂注入工法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>○100~200</td> <td>○70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>○150~250</td> <td>○130</td> </tr> </table> エポキシ樹脂 ○ 低粘土形 ○ 中粘土形 コア抜き検査 ○ 行う ○ 行わない 抜き個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 ○ _____ 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○ _____ ○ Uカットシール材充填方法 ○ シーリング材 充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ _____ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない ○ 可とう性エポキシ樹脂 ○ シール工法 ○ パテ状エポキシ樹脂 ○ 可とう性エポキシ樹脂	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧球状樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130	○ 手動式球状樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40	○ 機械式球状樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70		0.5以上1.0未満	○150~250	○130	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧球状樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130	○ 手動式球状樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40	○ 機械式球状樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70		0.5以上1.0未満	○150~250
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																						
※ 自動式低圧球状樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130																																						
○ 手動式球状樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40																																						
○ 機械式球状樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70																																						
	0.5以上1.0未満	○150~250	○130																																						
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																						
※ 自動式低圧球状樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130																																						
○ 手動式球状樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40																																						
○ 機械式球状樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70																																						
	0.5以上1.0未満	○150~250	○130																																						

4 外壁改修工事	3 欠損部改修 (4.1.4) (4.2.2)	○ タイル張り仕上げ ○ 樹脂注入方法 <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※ 自動式低圧球状樹脂注入工法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200~300</td> <td>○130</td> </tr> <tr> <td>○ 手動式球状樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>○50~100</td> <td>○40</td> </tr> <tr> <td>○ 機械式球状樹脂注入工法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>○100~200</td> <td>○70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>○150~250</td> <td>○130</td> </tr> </table> エポキシ樹脂 ○ 低粘土形 ○ 中粘土形 ひび割れ部の注入状況の確認 ○ コア抜き検査 抜き個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 ○ _____ 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○ _____ ○ Uカットシール材充填方法 ○ シーリング材 充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ _____ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない ○ 可とう性エポキシ樹脂 タイル撤去後の補修 <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ タイル部分張替え工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル ○ 変成シリコン樹脂 ○ ウレタン樹脂</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ○ コンクリート打放し仕上げ <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ 充填工法</td> <td>※ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> </table> ○ モルタル塗り仕上げ <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ 充填工法</td> <td>※ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル</td> <td></td> </tr> </table> ○ モルタル塗替え工法 ※ 改修仕様表4.4.11による 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○ _____ ○ タイル張り仕上げ <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ タイル部分張替え工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による) ○ グル樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による) ○ グル樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> </table> 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ○ 改修標準仕様書4.5.1による ○ _____ タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験 ○ 行う ○ 行わない 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○ _____ ○ セメントモルタルによるタイル張り タイル張りの工法 外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り ○ 改良積上げ張り 外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り ○ 有機系接着剤によるタイル張り シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ○ _____ 伸縮調整目地その他の目地 ※ 変性シリコン系 ○ _____ タイルの種類 ○ 外装タイル ○ ユニットタイル	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧球状樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130	○ 手動式球状樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40	○ 機械式球状樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70		0.5以上1.0未満	○150~250	○130	工 法	材 料	施 工 箇 所	○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 変成シリコン樹脂 ○ ウレタン樹脂		○ タイル張替え工法			工 法	材 料	施 工 箇 所	○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル		工 法	材 料	施 工 箇 所	○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル		工 法	材 料	施 工 箇 所	○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による) ○ グル樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)		○ タイル張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による) ○ グル樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																									
	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																																								
※ 自動式低圧球状樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130																																																																																																																																									
○ 手動式球状樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40																																																																																																																																									
○ 機械式球状樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70																																																																																																																																									
	0.5以上1.0未満	○150~250	○130																																																																																																																																									
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																										
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 変成シリコン樹脂 ○ ウレタン樹脂																																																																																																																																											
○ タイル張替え工法																																																																																																																																												
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																										
○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																											
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																										
○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																											
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																										
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による) ○ グル樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																											
○ タイル張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による) ○ グル樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																											
4 外壁改修工事	4 浮き部改修工法 (4.4.10) ~(4.4.15)	○ モルタル塗り仕上げ <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>フカービン (本/m)</th> <th>注入口 (箇所/m)</th> <th>充填量 (箇所/ml)</th> <th>注入量 (箇所/ml)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>○ フカービン部分球状樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td>※25</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ フカービン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>○</td> <td>※12</td> <td>○</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>○ フカービン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※20</td> <td>○</td> <td>※20</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ フカービン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>○</td> <td>※12</td> <td>○</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>○ フカービン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※20</td> <td>○</td> <td>※20</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 注入口付フカービン部分球状樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※25</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> アンカーピン ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの ○ _____ 注入口付アンカーピン ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm 程度 ○ _____ ○ 充填工法 ○ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル ○ モルタル塗替え工法 既製目地材 ○ 使用する (形状 _____) 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○ _____ ○ タイル張り仕上げ <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>フカービン (本/m)</th> <th>注入口 (箇所/m)</th> <th>充填量 (箇所/ml)</th> <th>注入量 (箇所/ml)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>○ フカービン部分球状樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td>※25</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ フカービン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>○</td> <td>※12</td> <td>○</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>○ フカービン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※20</td> <td>○</td> <td>※20</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ フカービン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>○</td> <td>※12</td> <td>○</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>○ 注入口付フカービン部分球状樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※25</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※9</td> <td>○</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td>※16</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> アンカーピン ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの ○ _____ 注入口付アンカーピン ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm 程度 ○ _____ ○ 充填工法 ○ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル ○ モルタル塗替え工法 既製目地材 ○ 使用する (形状 _____) 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ 図示 ○ _____ ○ タイル張り仕上げ <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>1箇所の面積 (㎡)</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ タイル部分張替え工法</td> <td>0.25未満</td> <td>※ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による) ○ グル樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ タイル張替え工法</td> <td></td> <td>○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による) ○ グル樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> </table> 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ○ 改修標準仕様書4.5.1による ○ _____ タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗材塗りの接着力試験 ○ 行う ○ 行わない 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○ _____ ○ セメントモルタルによるタイル張り タイル張りの工法 外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り ○ 改良積上げ張り 外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り ○ 有機系接着剤によるタイル張り シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ○ _____ 伸縮調整目地その他の目地 ※ 変性シリコン系 ○ _____ タイルの種類 ○ 外装タイル ○ ユニットタイル	工 法	フカービン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所	○ フカービン部分球状樹脂注入工法	※16	○	※25	○		○ フカービン全面球状樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※25	○ フカービン全面球状樹脂注入工法	※20	○	※20	○		○ フカービン全面球状樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※50	○ フカービン全面球状樹脂注入工法	※20	○	※20	○		○ 注入口付フカービン部分球状樹脂注入工法	※9	○	※25	○		○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※25	○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※16	○	※16	○		○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※50	○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※16	○	※16	○		工 法	フカービン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所	○ フカービン部分球状樹脂注入工法	※16	○	※25	○		○ フカービン全面球状樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※25	○ フカービン全面球状樹脂注入工法	※20	○	※20	○		○ フカービン全面球状樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※50	○ 注入口付フカービン部分球状樹脂注入工法	※9	○	※25	○		○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※25	○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※16	○	※16	○		○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※50	○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※16	○	※16	○		工 法	1箇所の面積 (㎡)	材 料	施 工 箇 所	○ タイル部分張替え工法	0.25未満	※ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による) ○ グル樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)		○ タイル張替え工法		○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による) ○ グル樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)	
工 法	フカービン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所																																																																																																																																							
○ フカービン部分球状樹脂注入工法	※16	○	※25	○																																																																																																																																								
○ フカービン全面球状樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※25																																																																																																																																							
○ フカービン全面球状樹脂注入工法	※20	○	※20	○																																																																																																																																								
○ フカービン全面球状樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※50																																																																																																																																							
○ フカービン全面球状樹脂注入工法	※20	○	※20	○																																																																																																																																								
○ 注入口付フカービン部分球状樹脂注入工法	※9	○	※25	○																																																																																																																																								
○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※25																																																																																																																																							
○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※16	○	※16	○																																																																																																																																								
○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※50																																																																																																																																							
○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※16	○	※16	○																																																																																																																																								
工 法	フカービン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所																																																																																																																																							
○ フカービン部分球状樹脂注入工法	※16	○	※25	○																																																																																																																																								
○ フカービン全面球状樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※25																																																																																																																																							
○ フカービン全面球状樹脂注入工法	※20	○	※20	○																																																																																																																																								
○ フカービン全面球状樹脂注入工法	※13	○	※12	○	※50																																																																																																																																							
○ 注入口付フカービン部分球状樹脂注入工法	※9	○	※25	○																																																																																																																																								
○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※25																																																																																																																																							
○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※16	○	※16	○																																																																																																																																								
○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※9	○	※9	○	※50																																																																																																																																							
○ 注入口付フカービン全面球状樹脂注入工法	※16	○	※16	○																																																																																																																																								
工 法	1箇所の面積 (㎡)	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																									
○ タイル部分張替え工法	0.25未満	※ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による) ○ グル樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																										
○ タイル張替え工法		○ ポリマーセメントモルタル ○ 一液反応硬化形成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による) ○ グル樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																										

4 外壁改修工事	5 目地改修工法 (4.1.4) (4.5.16)	タイル張り仕上げ ○ 目地ひび割れ部改修工法 ○ 伸縮調整目地改修工法 位置 ※ 改修仕様表4.5.11による ○ 図示による 寸法 (幅×深さ) コナリ打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ 20mm以上×10mm以上 ○ _____ その他 ※ 10mm以上×10mm以上 ○ _____																																																																																								
	6 樹脂注入工法 (4.2.2) (4.3.4)	建築補修用注入エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ○ 中粘度形 ひび割れの幅 (mm) 0.2~0.3未満 0.3~0.5未満 0.5~1.0以下 注入孔の間隔 (mm) 200程度 300程度 300程度 注入量 (CC/mm) _____ ※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法 ひび割れ部の注入状況の確認 ○ コア抜き検査 抜き個数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個 ○ _____ 抜き部の補修方法 _____ ○ _____ ○ _____																																																																																								
4 外壁改修工事	7 Uカットシール材充填工法 (4.3.5)	シーリング材の上にポリマーセメントモルタル ○ 行う																																																																																								
	8 アンカーピン注入工法 (4.2.2)	アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼(SUS304)、呼び径4mm、全ネジ切り丸棒 ○ _____																																																																																								
4 外壁改修工事	9 注入口付アンカーピン注入工法 (4.2.2)	注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼(SUS304)、呼び径外径6mm程度 ○ _____																																																																																								
	10 モルタル塗替え工法 (4.2.2)	モルタル ○ 現場調査材料 ○ 既製調査材料 (_____) 既製目地材 ○ 使用する (形状 _____)																																																																																								
4 外壁改修工事	11 タイル部分張替え工法及びタイル張替え工法 (4.2.2) (4.5.8)	<table border="1"> <tr> <th>施工箇所及びタイルの種類</th> <th>形状寸法 (mm)</th> <th>生地</th> <th>釉薬</th> <th>役物</th> <th>色</th> <th>耐凍害性</th> <th>耐滑り性</th> <th>工法その他</th> </tr> <tr> <td>○ 図示</td> <td></td> <td>○ 磁器</td> <td>○ 無釉</td> <td>○ 有り</td> <td>※ 標準</td> <td>○ 有り</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○ セツ器</td> <td>○ 施釉</td> <td>○ 無し</td> <td>○ 特注</td> <td>○ 無し</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○ 陶器</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ○ 既製目地材 (_____) タイルの試験張り ※ 行わない ○ 行う タイルの見本焼き ※ 行わない ○ 行う 施工後の確認及び試験 (タイル部分張替え工法を除く) 浮きの確認 ※ 全面打診による確認を行う 接着力の試験 ※ 接着力試験機による接着力試験を行う ○ 行わない	施工箇所及びタイルの種類	形状寸法 (mm)	生地	釉薬	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	工法その他	○ 図示		○ 磁器	○ 無釉	○ 有り	※ 標準	○ 有り					○ セツ器	○ 施釉	○ 無し	○ 特注	○ 無し					○ 陶器																																																										
	施工箇所及びタイルの種類	形状寸法 (mm)	生地	釉薬	役物	色	耐凍害性	耐滑り性	工法その他																																																																																	
○ 図示		○ 磁器	○ 無釉	○ 有り	※ 標準	○ 有り																																																																																				
		○ セツ器	○ 施釉	○ 無し	○ 特注	○ 無し																																																																																				
		○ 陶器																																																																																								
12 窓下人研面台の補修	タイル張替え工法の伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ※ 改修仕様表4.5.11による ○ 図示による																																																																																									
4 外壁改修工事	13 仕上塗材 (4.1.5) (4.2.2) (4.6.5)	○ シール工法 (※ 仕上げ塗材は外壁仕上塗材の上塗り材とする。) ※ 塗膜防水 (※ 弾性ウレタン系 ○ エポキシ系) 薄付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4) <table border="1"> <tr> <th>種 類 (呼び名)</th> <th>仕 上 げ</th> <th>工 法</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>○ 外装薄塗材Si</td> <td>○ 砂壁状 ○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ゆず肌状 ○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 可とう形外装薄塗材Si</td> <td>○ 砂壁状 ○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ゆず肌状 ○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 外装薄塗材E</td> <td>○ 砂壁状 ○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 平たん状 ○ 凹凸状</td> <td>こて</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ゆず肌状 ○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 着色骨材砂壁状</td> <td>○ こて ○ 吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 可とう形外装薄塗材E</td> <td>○ 砂壁状 ○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 平たん状 ○ 凹凸状</td> <td>こて</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ゆず肌状 ○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 防水形外装薄塗材E (○ 増塗材)</td> <td>○ ゆず肌状 ○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 外装薄塗材S</td> <td>○ 凹凸状</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 砂壁状</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> </table> 厚付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4) <table border="1"> <tr> <th>種 類 (呼び名)</th> <th>仕 上 げ</th> <th>工 法</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>○ 外装厚塗材C</td> <td>○ 吹放し ○ 凸部処理</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 平たん状 ○ 凹凸状</td> <td>こて</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(○ 上塗材)</td> <td>○ ひき起し ○ かき落とし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 外装厚塗材Si</td> <td>○ 吹放し ○ 凸部処理</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 外装厚塗材E (○ 上塗材)</td> <td>○ 平たん状 ○ 凹凸状</td> <td>こて</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ひき起し</td> <td>○ ローラー</td> <td></td> </tr> </table>	種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考	○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け			○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー		○ 可とう形外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け			○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー		○ 外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け			○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて			○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー			○ 着色骨材砂壁状	○ こて ○ 吹付け		○ 可とう形外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け			○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて			○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー		○ 防水形外装薄塗材E (○ 増塗材)	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー		○ 外装薄塗材S	○ 凹凸状	吹付け			○ 砂壁状	吹付け		種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考	○ 外装厚塗材C	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け			○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて		(○ 上塗材)	○ ひき起し ○ かき落とし			○ 外装厚塗材Si	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け		○ 外装厚塗材E (○ 上塗材)	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて			○ ひき起し	○ ローラー	
	種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考																																																																																						
○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け																																																																																								
	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー																																																																																								
○ 可とう形外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け																																																																																								
	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー																																																																																								
○ 外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け																																																																																								
	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて																																																																																								
	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー																																																																																								
	○ 着色骨材砂壁状	○ こて ○ 吹付け																																																																																								
○ 可とう形外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け																																																																																								
	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて																																																																																								
	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー																																																																																								
○ 防水形外装薄塗材E (○ 増塗材)	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー																																																																																								
○ 外装薄塗材S	○ 凹凸状	吹付け																																																																																								
	○ 砂壁状	吹付け																																																																																								
種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考																																																																																							
○ 外装厚塗材C	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け																																																																																								
	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて																																																																																								
(○ 上塗材)	○ ひき起し ○ かき落とし																																																																																									
○ 外装厚塗材Si	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け																																																																																								
○ 外装厚塗材E (○ 上塗材)	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて																																																																																								
	○ ひき起し	○ ローラー																																																																																								

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図			設計・監理 一級建築士事務所		
改修工事特記仕様書3			野中建築設計事務所		
DW. CK. NO. A-03 DATE 03-09			1級建築士第147931号 野中健一		
			〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408		

項目	特記事項																																							
4	複層仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類(呼び名)</th> <th>仕上げ</th> <th>工法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 複層塗材CE</td> <td><input type="checkbox"/> 凸部処理</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 複層塗材S</td> <td><input type="checkbox"/> 凹凸状</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 複層塗材E</td> <td><input type="checkbox"/> 巾着肌状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 可とう形複層塗材CE</td> <td><input type="checkbox"/> 凸部処理</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 可とう形複層塗材E</td> <td><input type="checkbox"/> 巾着肌状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 防水形複層塗材CE</td> <td><input type="checkbox"/> 凸部処理</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 防水形複層塗材E</td> <td><input type="checkbox"/> 凹凸状</td> <td>(増塗材)</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 防水形複層塗材RE</td> <td><input type="checkbox"/> 巾着肌状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				種類(呼び名)	仕上げ	工法	備考	<input type="checkbox"/> 複層塗材CE	<input type="checkbox"/> 凸部処理	吹付け		<input type="checkbox"/> 複層塗材S	<input type="checkbox"/> 凹凸状			<input type="checkbox"/> 複層塗材E	<input type="checkbox"/> 巾着肌状	ローラー		<input type="checkbox"/> 可とう形複層塗材CE	<input type="checkbox"/> 凸部処理	吹付け		<input type="checkbox"/> 可とう形複層塗材E	<input type="checkbox"/> 巾着肌状	ローラー		<input type="checkbox"/> 防水形複層塗材CE	<input type="checkbox"/> 凸部処理	吹付け		<input type="checkbox"/> 防水形複層塗材E	<input type="checkbox"/> 凹凸状	(増塗材)		<input type="checkbox"/> 防水形複層塗材RE	<input type="checkbox"/> 巾着肌状	ローラー	
	種類(呼び名)	仕上げ	工法	備考																																				
	<input type="checkbox"/> 複層塗材CE	<input type="checkbox"/> 凸部処理	吹付け																																					
	<input type="checkbox"/> 複層塗材S	<input type="checkbox"/> 凹凸状																																						
<input type="checkbox"/> 複層塗材E	<input type="checkbox"/> 巾着肌状	ローラー																																						
<input type="checkbox"/> 可とう形複層塗材CE	<input type="checkbox"/> 凸部処理	吹付け																																						
<input type="checkbox"/> 可とう形複層塗材E	<input type="checkbox"/> 巾着肌状	ローラー																																						
<input type="checkbox"/> 防水形複層塗材CE	<input type="checkbox"/> 凸部処理	吹付け																																						
<input type="checkbox"/> 防水形複層塗材E	<input type="checkbox"/> 凹凸状	(増塗材)																																						
<input type="checkbox"/> 防水形複層塗材RE	<input type="checkbox"/> 巾着肌状	ローラー																																						
可とう形改修用仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類(呼び名)</th> <th>仕上げ</th> <th>工法</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 可とう形改修塗材E</td> <td><input type="checkbox"/> 平坦な状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 可とう形改修塗材RE</td> <td><input type="checkbox"/> さざ波状</td> <td>ローラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 可とう形改修塗材CE</td> <td><input type="checkbox"/> 巾着肌状</td> <td>吹付け</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				種類(呼び名)	仕上げ	工法	備考	<input type="checkbox"/> 可とう形改修塗材E	<input type="checkbox"/> 平坦な状	ローラー		<input type="checkbox"/> 可とう形改修塗材RE	<input type="checkbox"/> さざ波状	ローラー		<input type="checkbox"/> 可とう形改修塗材CE	<input type="checkbox"/> 巾着肌状	吹付け																						
種類(呼び名)	仕上げ	工法	備考																																					
<input type="checkbox"/> 可とう形改修塗材E	<input type="checkbox"/> 平坦な状	ローラー																																						
<input type="checkbox"/> 可とう形改修塗材RE	<input type="checkbox"/> さざ波状	ローラー																																						
<input type="checkbox"/> 可とう形改修塗材CE	<input type="checkbox"/> 巾着肌状	吹付け																																						
防火材料の指定 ※なし <input type="checkbox"/> 下地補修後の打直しコンクリート壁面の仕上げ補修 ※行う(参考工法: _____ 製造所: _____) <input type="checkbox"/> 行わない																																								
仕上塗材の耐候性 ※耐候形3種 <input type="checkbox"/> 仕上塗材の上塗材 溶媒 ※水系 <input type="checkbox"/> 弱溶剤系 <input type="checkbox"/> 溶剤系 樹脂 ※アクリル系 <input type="checkbox"/> 外観 ※つや有 <input type="checkbox"/> つやなし <input type="checkbox"/> メタリック																																								

項目	特記事項																						
5	7 アルミニウム製 建具 (5.2.2) ~ (5.2.5)																						
	外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (表5.2.1) <table border="1"> <thead> <tr> <th>性能等級</th> <th>A種</th> <th>B種</th> <th>C種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐風圧性</td> <td>※S-4 <input type="checkbox"/></td> <td>※S-5 <input type="checkbox"/></td> <td>※S-6 <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>気密性</td> <td>※A-3 <input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>※A-4 <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>水密性</td> <td>※W-4 <input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>※W-5 <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>枠見込み(mm)</td> <td>※図示 <input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>※図示 <input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>			性能等級	A種	B種	C種	耐風圧性	※S-4 <input type="checkbox"/>	※S-5 <input type="checkbox"/>	※S-6 <input type="checkbox"/>	気密性	※A-3 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	※A-4 <input type="checkbox"/>	水密性	※W-4 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	※W-5 <input type="checkbox"/>	枠見込み(mm)	※図示 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	※図示 <input type="checkbox"/>
	性能等級	A種	B種	C種																			
	耐風圧性	※S-4 <input type="checkbox"/>	※S-5 <input type="checkbox"/>	※S-6 <input type="checkbox"/>																			
気密性	※A-3 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	※A-4 <input type="checkbox"/>																				
水密性	※W-4 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	※W-5 <input type="checkbox"/>																				
枠見込み(mm)	※図示 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	※図示 <input type="checkbox"/>																				
表面処理 (表5.2.2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>色</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> BB-1種</td> <td><input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 特注</td> <td>※図示による <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> BB-2種</td> <td><input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 特注</td> <td>※図示による <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 特注</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 特注</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 特注</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>			種別	色	施工箇所	<input type="checkbox"/> BB-1種	<input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 特注	※図示による <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> BB-2種	<input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 特注	※図示による <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 特注	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 特注	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 特注	<input type="checkbox"/>			
種別	色	施工箇所																					
<input type="checkbox"/> BB-1種	<input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 特注	※図示による <input type="checkbox"/>																					
<input type="checkbox"/> BB-2種	<input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 特注	※図示による <input type="checkbox"/>																					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 特注	<input type="checkbox"/>																					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 特注	<input type="checkbox"/>																					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 特注	<input type="checkbox"/>																					
<input type="checkbox"/> 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 _____) <input type="checkbox"/> 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 _____) <input type="checkbox"/> 耐震ドアとする場合 (面内変形追随性の等級 _____) 結露水の処理方法 ※図示による <input type="checkbox"/> 水切り、ぜん板等 ※図示による <input type="checkbox"/> ※出入口のくつずりにステンレスを使用する場合は図示による。																							

項目	特記事項		
13	13 建具用金物 (5.7.2) ~ (5.7.4)		
	マスターキーの製作 ※作成する (_____ グループ、各グループ _____ 個) <input type="checkbox"/> 作成しない <input type="checkbox"/> 在来マスターキーに合わせる 鍵の制作本数 ※3本1組 <input type="checkbox"/> 開き戸 (表5.7.1)		
	金物の種類	見え掛り部の材質	その他
	<input type="checkbox"/> シリンダー錠	<input type="checkbox"/> 握り玉: ステンレス <input type="checkbox"/> In' -ハンドル: 7%ニッケル合金 (ステンレス、黄銅)	<input type="checkbox"/> 取付位置 (_____) 実用性能項目 ※グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具) <input type="checkbox"/> 耐じん性能のグレード <input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 本締り錠	シリンダー錠: ステンレス	実用性能項目 ※グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具) <input type="checkbox"/> 耐じん性能のグレード <input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 空錠	<input type="checkbox"/> 握り玉: ステンレス <input type="checkbox"/> In' -ハンドル: 7%ニッケル合金 (ステンレス、黄銅)	<input type="checkbox"/> 取付位置 (_____)

項目	特記事項														
15	15 自閉式上吊り引戸装置 (5.9.3)														
	性能値等の区分 (表5.9.1) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>〇40以下</th> <th>〇40を超えるもの</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通用戸の総質量(kg)</td> <td>※15以下 <input type="checkbox"/></td> <td>※20以下 <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>手動開き力(N)</td> <td>※15以下 <input type="checkbox"/></td> <td>※20以下 <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>手動閉じ力(N)</td> <td>※15以下 <input type="checkbox"/></td> <td>※20以下 <input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>				〇40以下	〇40を超えるもの	通用戸の総質量(kg)	※15以下 <input type="checkbox"/>	※20以下 <input type="checkbox"/>	手動開き力(N)	※15以下 <input type="checkbox"/>	※20以下 <input type="checkbox"/>	手動閉じ力(N)	※15以下 <input type="checkbox"/>	※20以下 <input type="checkbox"/>
		〇40以下	〇40を超えるもの												
	通用戸の総質量(kg)	※15以下 <input type="checkbox"/>	※20以下 <input type="checkbox"/>												
手動開き力(N)	※15以下 <input type="checkbox"/>	※20以下 <input type="checkbox"/>													
手動閉じ力(N)	※15以下 <input type="checkbox"/>	※20以下 <input type="checkbox"/>													
性能等 品質・規格 _____															
16 重量シャッター (5.10.2) ~ (5.10.4) 種類 <input type="checkbox"/> 管理用シャッター (シャッターケース取付ける) 耐風圧強度 (_____) <input type="checkbox"/> 外壁用防火シャッター (シャッターケース取付ける) 耐風圧強度 (_____) <input type="checkbox"/> 屋内用防火シャッター (シャッターケース取付ける) <input type="checkbox"/> 屋内用防煙シャッター (シャッターケース取付ける) 開閉方式 ※上部電動式 (手動併用) <input type="checkbox"/> 上部手動式 電動式シャッターには保護装置を設ける 設置箇所 ※図示による <input type="checkbox"/> スラット及びシャッターケース用鋼板 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材質</th> <th>めっきの付着量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> JIS G 3302</td> <td><input type="checkbox"/> Z12又はF12を満足するもの <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> JIS G 3312</td> <td><input type="checkbox"/> Z12又はF12を満足するもの <input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>			材質	めっきの付着量	<input type="checkbox"/> JIS G 3302	<input type="checkbox"/> Z12又はF12を満足するもの <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> JIS G 3312	<input type="checkbox"/> Z12又はF12を満足するもの <input type="checkbox"/>							
材質	めっきの付着量														
<input type="checkbox"/> JIS G 3302	<input type="checkbox"/> Z12又はF12を満足するもの <input type="checkbox"/>														
<input type="checkbox"/> JIS G 3312	<input type="checkbox"/> Z12又はF12を満足するもの <input type="checkbox"/>														

14	既存塗膜の除去及び下地処理 (4.6.3) (4.6.4) <input type="checkbox"/> サンダー工法 <input type="checkbox"/> 高圧水洗工法 (試験施工実施) (加圧力 <input type="checkbox"/> 30Mpa <input type="checkbox"/>) <input type="checkbox"/> 塗膜はく離工法 (製造所: _____) <input type="checkbox"/> 水洗い工法 (ノリ・剥離剤 <input type="checkbox"/> 高圧洗浄機 <input type="checkbox"/> 10~15pa) 既存塗膜の除去範囲 <input type="checkbox"/> ※既存仕上げ面全体 <input type="checkbox"/> 既存壁面の (_____ %) <input type="checkbox"/> 別図に示す範囲 下地処理 <input type="checkbox"/> 下地のひび割れ部等の補修 <input type="checkbox"/> 図示による 下地調整材 ※セメント系下地調整材 (JIS A 6916) <input type="checkbox"/> ホリマーセメントモルタル <input type="checkbox"/> 防水形仕上塗材主材 (JIS A 6910(複層仕上塗材))			
	15 マステック塗材塗り (4.7.2) 種類 <input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 (表4.6.7)			

8	8 網戸等 (5.2.3) (5.3.3) 防虫網 網の種類 <input type="checkbox"/> 合成樹脂製 <input type="checkbox"/> ガラス繊維入り合成樹脂製 <input type="checkbox"/> ステンレス製 (SUS316) 形式 ※外部可動式 <input type="checkbox"/> 固定式 線径、網目 ※0.25mm以上、16~18メッシュ <input type="checkbox"/> 防鳥網 <input type="checkbox"/> 設置する																						
	9 樹脂製建具 (5.3.2) ~ (5.3.4) 外部に面する樹脂製建具の性能等級 (表5.3.1) <table border="1"> <thead> <tr> <th>性能等級</th> <th>A種</th> <th>B種</th> <th>C種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐風圧性</td> <td>※S-4 <input type="checkbox"/></td> <td>※S-5 <input type="checkbox"/></td> <td>※S-6 <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>気密性</td> <td>※A-4 <input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>水密性</td> <td>※W-4 <input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>※W-5 <input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>枠見込み(mm)</td> <td>※図示 <input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>※図示 <input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>			性能等級	A種	B種	C種	耐風圧性	※S-4 <input type="checkbox"/>	※S-5 <input type="checkbox"/>	※S-6 <input type="checkbox"/>	気密性	※A-4 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	水密性	※W-4 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	※W-5 <input type="checkbox"/>	枠見込み(mm)	※図示 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	※図示 <input type="checkbox"/>
	性能等級	A種	B種	C種																			
耐風圧性	※S-4 <input type="checkbox"/>	※S-5 <input type="checkbox"/>	※S-6 <input type="checkbox"/>																				
気密性	※A-4 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																				
水密性	※W-4 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	※W-5 <input type="checkbox"/>																				
枠見込み(mm)	※図示 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	※図示 <input type="checkbox"/>																				
<input type="checkbox"/> 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 <input type="checkbox"/> T-1 <input type="checkbox"/> T-2 <input type="checkbox"/>) <input type="checkbox"/> 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 <input type="checkbox"/> H-4 <input type="checkbox"/> H-5 <input type="checkbox"/> H-6)																							

17	17 軽量シャッター (5.11.2) ~ (5.11.4) 開閉方式 <input type="checkbox"/> 上部電動式 (手動併用) <input type="checkbox"/> 手動式 電動式シャッターには保護装置を設ける 設置箇所 ※図示による <input type="checkbox"/> 耐風圧強度 _____ スラット <table border="1"> <thead> <tr> <th>材質</th> <th>めっきの付着量</th> <th>形状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> JIS G 3312</td> <td><input type="checkbox"/> Z06又はF06を満足するもの <input type="checkbox"/></td> <td rowspan="2"><input type="checkbox"/> インターロッキング形 <input type="checkbox"/> オーバーラッピング形</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> JIS G 3322</td> <td><input type="checkbox"/> A290を満足するもの <input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>			材質	めっきの付着量	形状	<input type="checkbox"/> JIS G 3312	<input type="checkbox"/> Z06又はF06を満足するもの <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> インターロッキング形 <input type="checkbox"/> オーバーラッピング形	<input type="checkbox"/> JIS G 3322	<input type="checkbox"/> A290を満足するもの <input type="checkbox"/>																				
	材質	めっきの付着量	形状																												
	<input type="checkbox"/> JIS G 3312	<input type="checkbox"/> Z06又はF06を満足するもの <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> インターロッキング形 <input type="checkbox"/> オーバーラッピング形																												
	<input type="checkbox"/> JIS G 3322	<input type="checkbox"/> A290を満足するもの <input type="checkbox"/>																													
	18 オーバーヘッドドア (5.12.2) ~ (5.12.4) セクション材 ※スチールタイプ <input type="checkbox"/> アルミニウムタイプ <input type="checkbox"/> フライングタイプ <input type="checkbox"/> 耐風圧性能 _____ 開閉方式 ※バラン式 <input type="checkbox"/> チェーン式 <input type="checkbox"/> 電動式 電動式シャッターには保護装置を設ける 設置箇所 ※図示による <input type="checkbox"/> 収納形式 <input type="checkbox"/> スタンダード形 <input type="checkbox"/> ローヘッド形 <input type="checkbox"/> ハイリフト形 <input type="checkbox"/> パーチカル形 ガイドレール等 ※溶融亜鉛めっき鋼板 <input type="checkbox"/> ステンレス鋼板																														
	19 ガラス (5.13.2) ~ (5.13.4) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>種類等</th> <th>種別</th> <th>種類等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> フロート板ガラス</td> <td><input type="checkbox"/> 強化ガラス</td> <td><input type="checkbox"/> 熱線吸収ガラス</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 型板ガラス</td> <td><input type="checkbox"/> 熱線吸収ガラス</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 網入板ガラス</td> <td><input type="checkbox"/> 複層ガラス</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 網入板ガラス</td> <td><input type="checkbox"/> 熱線反射ガラス</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 合わせガラス</td> <td><input type="checkbox"/> 倍強度ガラス</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			種別	種類等	種別	種類等	<input type="checkbox"/> フロート板ガラス	<input type="checkbox"/> 強化ガラス	<input type="checkbox"/> 熱線吸収ガラス	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 型板ガラス	<input type="checkbox"/> 熱線吸収ガラス			<input type="checkbox"/> 網入板ガラス	<input type="checkbox"/> 複層ガラス			<input type="checkbox"/> 網入板ガラス	<input type="checkbox"/> 熱線反射ガラス			<input type="checkbox"/> 合わせガラス	<input type="checkbox"/> 倍強度ガラス			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
	種別	種類等	種別	種類等																											
	<input type="checkbox"/> フロート板ガラス	<input type="checkbox"/> 強化ガラス	<input type="checkbox"/> 熱線吸収ガラス	<input type="checkbox"/>																											
<input type="checkbox"/> 型板ガラス	<input type="checkbox"/> 熱線吸収ガラス																														
<input type="checkbox"/> 網入板ガラス	<input type="checkbox"/> 複層ガラス																														
<input type="checkbox"/> 網入板ガラス	<input type="checkbox"/> 熱線反射ガラス																														
<input type="checkbox"/> 合わせガラス	<input type="checkbox"/> 倍強度ガラス																														
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																														
ガラス溝の大きさ (図5.13.1) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>面クリアランス</th> <th>エッジクリアランス</th> <th>掘り代</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> アルミニウム建具</td> <td>※建具製造所の仕様による</td> <td>※建具製造所の仕様による</td> <td>※建具製造所の仕様による</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 鋼製建具</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> ステンレス建具</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table> 熱線反射ガラスの映像調整 <input type="checkbox"/> 行わない <input type="checkbox"/> 行う			種別	面クリアランス	エッジクリアランス	掘り代	<input type="checkbox"/> アルミニウム建具	※建具製造所の仕様による	※建具製造所の仕様による	※建具製造所の仕様による	<input type="checkbox"/> 鋼製建具	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> ステンレス建具	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									
種別	面クリアランス	エッジクリアランス	掘り代																												
<input type="checkbox"/> アルミニウム建具	※建具製造所の仕様による	※建具製造所の仕様による	※建具製造所の仕様による																												
<input type="checkbox"/> 鋼製建具	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																												
<input type="checkbox"/> ステンレス建具	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																												
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																												
引戸 (表5.7.1) <table border="1"> <thead> <tr> <th>金物の種類</th> <th>見え掛り部の材質</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 引戸用錠</td> <td>木製建具の場合: シリンダー錠等はステンレス 取付位置: (_____)</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> クレセント</td> <td>建具製作所の仕様による。</td> <td>木製建具の場合: ステンレス (黄銅)</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 引手類</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 戸車 (上吊りの場合を除く)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> レール (上吊りの場合を除く)</td> <td>ステンレス、(〇7%ニッケル合金 <input type="checkbox"/> 黄銅)</td> <td>黄銅は木製建具用のみ</td> </tr> </tbody> </table>			金物の種類	見え掛り部の材質	その他	<input type="checkbox"/> 引戸用錠	木製建具の場合: シリンダー錠等はステンレス 取付位置: (_____)		<input type="checkbox"/> クレセント	建具製作所の仕様による。	木製建具の場合: ステンレス (黄銅)	<input type="checkbox"/> 引手類			<input type="checkbox"/> 戸車 (上吊りの場合を除く)			<input type="checkbox"/> レール (上吊りの場合を除く)	ステンレス、(〇7%ニッケル合金 <input type="checkbox"/> 黄銅)	黄銅は木製建具用のみ											
金物の種類	見え掛り部の材質	その他																													
<input type="checkbox"/> 引戸用錠	木製建具の場合: シリンダー錠等はステンレス 取付位置: (_____)																														
<input type="checkbox"/> クレセント	建具製作所の仕様による。	木製建具の場合: ステンレス (黄銅)																													
<input type="checkbox"/> 引手類																															
<input type="checkbox"/> 戸車 (上吊りの場合を除く)																															
<input type="checkbox"/> レール (上吊りの場合を除く)	ステンレス、(〇7%ニッケル合金 <input type="checkbox"/> 黄銅)	黄銅は木製建具用のみ																													
金属製建具用丁番 ※表 5.7.2 による <input type="checkbox"/> 樹脂製建具用丁番 ※表 5.7.3 による <input type="checkbox"/>																															

16	16 部分改修工法 (4.6.6) 仕上塗材の種類 <input type="checkbox"/> 薄付け仕上塗材 <input type="checkbox"/> 厚付け仕上塗材又は複層仕上塗材 <input type="checkbox"/> 防水形複層仕上塗材 <input type="checkbox"/> マステック塗材 施工箇所 <input type="checkbox"/> 別図に示す範囲 <input type="checkbox"/>			
	17 外壁用塗膜防水材塗り (4.1.5) (4.2.2) (4.8.2) 外壁用塗膜防水塗り 仕上げの形状 _____ 工法 _____ 外壁用仕上げ塗材の耐候性 ※JIS A 6909の耐候性I種相当 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 地下挙動緩衝材の適用 <input type="checkbox"/> 適用しない 吹付け工法の仕様材の種類 _____ 所要量 _____ (kg/m ²) 外壁用仕上げ塗材の種類 _____ 所要量 _____ (kg/m ²)			

10	10 鋼製建具 (5.4.2) ~ (5.4.4) 外部に面する建具の耐風圧性 <input type="checkbox"/> S-4 <input type="checkbox"/> S-5 <input type="checkbox"/> S-6 (表5.2.1) 簡易気密層の気密性、水密性 ※適用する <input type="checkbox"/> 適用しない (表5.4.1) <input type="checkbox"/> 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 _____) <input type="checkbox"/> 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 _____) <input type="checkbox"/> 耐震ドアとする場合 (面内変形追随性の等級 _____) JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は改修標仕による) ※製造所標準製作規定寸法許容差による 鋼板類の厚さ ※表5.4.2 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) <input type="checkbox"/> _____ mm		
	11 鋼製軽量建具 (5.5.2) ~ (5.5.4) 簡易気密型ドアセットの気密性 ※適用する <input type="checkbox"/> A-3 <input type="checkbox"/> 適用しない <input type="checkbox"/> 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 _____) <input type="checkbox"/> 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 _____) <input type="checkbox"/> 耐震ドアとする場合 (面内変形追随性の等級 _____) 鋼板 ※表面処理亜鉛めっき鋼板 <input type="checkbox"/> ビニル被覆鋼板 <input type="checkbox"/> カラー鋼板 <input type="checkbox"/> ステンレス鋼板 鋼板類の厚さ ※表5.5.1 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) <input type="checkbox"/> _____ mm 召合せ、縦小口包み材の材質 ※鋼板 <input type="checkbox"/>		
	12 ステンレス製建具 (5.6.2) ~ (5.6.5) 外部に面する建具の耐風圧性 <input type="checkbox"/> S-4 <input type="checkbox"/> S-5 <input type="checkbox"/> S-6 (表5.2.1) 簡易気密層の気密性、水密性 ※適用する <input type="checkbox"/> 適用しない (表5.4.1) <input type="checkbox"/> 防音ドア、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 <input type="checkbox"/> T-1 <input type="checkbox"/> T-2 <input type="checkbox"/> T-3) <input type="checkbox"/> 断熱ドア、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 <input type="checkbox"/> H-2 <input type="checkbox"/> H-3) <input type="checkbox"/> 耐震ドアとする場合 (面内変形追随性の等級 <input type="checkbox"/> D-1 <input type="checkbox"/> D-2) ステンレス鋼板の種類 <input type="checkbox"/> SUS304 <input type="checkbox"/> SUS430J1 <input type="checkbox"/> SUS443J1 <input type="checkbox"/>		

14	14 自動ドア開閉装置 (5.8.2) ~ (5.8.3) 駆動装置及び検出装置の性能 <input type="checkbox"/> 引き戸用駆動装置性能値 ※改修標仕 表5.8.1による (〇SSLD-1 〇SSLD-2 〇DSDL-1 〇DSDL-2) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類・開閉方式</th> <th>耐電圧</th> <th>温度上昇</th> <th>耐久性(サイクル)</th> <th>防錆</th> <th>電源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			種類・開閉方式	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源	<input type="checkbox"/>					
	種類・開閉方式	耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源									
<input type="checkbox"/>															
<input type="checkbox"/> 多機能トイレ出入口引き戸用駆動装置性能値 ※改修標仕 表5.8.2による <table border="1"> <thead> <tr> <th>耐電圧</th> <th>温度上昇</th> <th>耐久性(サイクル)</th> <th>防錆</th> <th>電源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源	<input type="checkbox"/>							
耐電圧	温度上昇	耐久性(サイクル)	防錆	電源											
<input type="checkbox"/>															

5	1 性能 ※「第1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。			
	2 施工数量調査 (1.5.2) ※行う(〇建具金物 <input type="checkbox"/> ガラス <input type="checkbox"/> ガラス止め材 <input type="checkbox"/>) ※施工に先立ち、施工数量調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。 <input type="checkbox"/> 行わない			
	3 改修工法 (5.1.3) 既存建具を新規建具に改修する場合 <input type="checkbox"/> かぶせ工法 (〇カバー工法 <input type="checkbox"/> 持出し工法 <input type="checkbox"/> ノンシート工法) <input type="checkbox"/> 撤去工法 (〇はつり工法 <input type="checkbox"/> 引き抜き工法) 新規に建具を設置する場合 新規建具を設ける壁の開口方法 ※図示による <input type="checkbox"/> 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※図示による <input type="checkbox"/>			
4 防火戸 (5.1.4) ※図示による <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動 <input type="checkbox"/> 連動させる (※建具表による <input type="checkbox"/>) <input type="checkbox"/> 連動させない				
5 見本の製作等 (5.1.5) (5.1.6) 建具見本の製作 <input type="checkbox"/> 行う (建具番号 _____) 特殊な建具の仮組 <input type="checkbox"/> 行う (建具番号 _____) <input type="checkbox"/> ブラインドボックス等の再使用 (_____)				
6 防犯建物部品 (5.1.7) 開口部の侵入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所 <input type="checkbox"/> ドア 適用箇所 (_____) <input type="checkbox"/> サッシ 適用箇所 (_____) <input type="checkbox"/> シャッター 適用箇所 (_____)				

特記事項 _____		
令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図 改修工事特記仕様書4		
DW.	CK.	NO.
	A-04	DATE 03-09

設計・監理 _____ 一級建築士事務所 <h1>野中建築設計事務所</h1> 1級建築士第147931号 野中健一 〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408			
SCALE		SCALE	
SCALE		SCALE	

章 項目	特 記 事 項
5 20 ガラス留め材 (5.13.2)	建 具 の 種 類 材 質 アルミニウム製 ※シーリング材(SR-1) ○ガasket ○グレイジングチャンネル 鋼製・軽量鋼製・ステンレス製 ※シーリング材(SR-1) ○パテ ※1種 ○2種 木製 ※パテ(木製用) ※防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 ※防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。
	21 ガラスブロック (5.13.5)
22 木製建具 (16.7.2) ※公共建築工事標準仕様 書(第3版)による。	建具材の含水率の種別 ○ A種 ※ B種 ○ C種 代用樹種の適用 ※ 可 ○ 不可 フラッシュ戸 表面材の合板の種類及び品質等 ○ メラミン化粧合板E=30 表面板の厚さ ※ 図示による ○ _____ かまち戸 かまち及び鏡板の樹種 ※ 図示による ○ _____ 見込み寸法 ※ 36mm ○ _____ ふすま 材料の種類 ○ I型 ○ II型 上張りの種類 ※ 図示による ○ _____ 見込み寸法 ※ 19.5mm ○ _____ 戸ぶすま 上張りの種類 ※ 図示による ○ _____ 見込み寸法 ※ 30mm ○ _____ 紙張り障子 見込み寸法 ※ 30mm ○ _____ 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____
	23 ポリカーボネイト 樹脂板

章 項目	特 記 事 項
6 ①揮発性有機化合物 対策 (6.5.2)～(6.5.4) (6.8.2)(6.9.2) (6.10.2)(6.11.2) (6.11.4)(6.11.5) (6.13.2)(6.14.2) (6.16.4)(9.5.3) (9.5.4)	木材、木れんが、ビニル床シート、タイル、ゴム床タイル、カーペット、合成樹脂塗床、フローリング、ボード類、 タイル、断熱材の接着に使用する 接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____ 木材塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放散量 ※ F☆☆☆☆ ○ _____
	2 他の部分との 取り合い等 (6.1.3)

章 項目	特 記 事 項
6 3 既存床の撤去等 (6.2.2)	種 別 工 法 施 工 箇 所 ○ビニル床シート等 ○ 下地タイルの除去 ※ 図示による ○ _____ ○ 合成樹脂塗床材 ○ 機械的除去工法 ※ 図示による ○ 目荒し工法 ○ _____ ○ フローリング張り床材 _____ ○ 床タイル _____ ○ 床組 _____
	4 既存壁の撤去等 (6.3.2)
⑤木下地等 (6.5.1) ～(6.5.9)	表面仕上げの種類 適用箇所 ○ A種 機械加工 ○ B種 ○ C種 ○ H-A種 手加工 ○ H-B種 ※ 内部造作 ○ H-C種 ※ 下地材 含水率 下地材 ※ A種(15%以下) ○ B種(20%以下) 造作材 ※ A種(15%以下) ○ B種(18%以下) 以下に規定されているものは、その規定による。 「製材の日本農林規格」による製材 ○ 下地用針葉樹製材 使用箇所 樹種 寸法 等級 形状 含水率 保存処理 ○ 1級 ※ 2級 ○ 造作用針葉樹製材 使用箇所 樹種 寸法 等級 形状 含水率 保存処理 ○ 無節 ○ 小節 ○ 小節 ○ 並 ○ 広葉樹製材 使用箇所 樹種 寸法 等級 形状 含水率 保存処理 ○ 特等 ※ 1等 ○ 2等 ※ 10%以下 ○ _____
	「製材の日本農林規格」以外の製材 (表12.2.2)

章 項目	特 記 事 項
6 「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 ○ 造作用集成材	使用箇所 品名 樹種 見付材面数 寸法 見付材面の品質 ※ 1等 ○ 2等 ○ 化粧ばり造作用集成材 使用箇所 品名 樹種 寸法 化粧板厚 見付材面数 見付材面の品質 化粧材 芯材 ※ 1等 ○ 2等 ○ 化粧ばり構造用集成柱 使用箇所 品名 樹種 寸法 化粧板厚 見付材面の品質 化粧材 芯材 ○ 1等 ○ 2等
	「合板の日本農林規格」による天然化粧合板 使用箇所 化粧板に使用する 単板の樹種名 厚さ 接着程度 防虫処理 ○ 1類 ○ 2類
「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 使用箇所 品目 厚さ 接着程度 単板の樹種名 化粧加工の方法 防虫処理 ○ 1類 ○ 2類	
パーティクルボード 使用箇所 厚さ 各種区分 ※ 15mm ○ _____ ※ 13Pタイプ又は13Mタイプ ○ _____	
構造用パネル 使用箇所 等級 厚さ	

章 項目	特 記 事 項
6 「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 ○ 造作用集成材	使用箇所 樹種 寸法 見付材面の品質 含水率 ※ 15%以下 ○ _____ ○ 化粧ばり造作用集成材 使用箇所 化粧樹種名 芯材樹種名 寸法 化粧板厚 見付材面の品質 含水率 ※ 15%以下 ○ _____ ○ 化粧ばり構造用集成柱 使用箇所 化粧樹種名 芯材樹種名 寸法 化粧板厚 見付材面の品質 含水率 ○ _____
	「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 ○ 造作用単板積層材 使用箇所 品名 寸法 表面の品質 防虫処理 ○ 表面化粧加工なし ○ 適用する ○ 1等 ○ 2等 ○ 3等 ○ 適用しない ○ 表面化粧加工あり ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工
「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 ○ 造作用単板積層材 使用箇所 寸法 表面の品質 含水率 防虫処理 ○ 表面化粧加工なし ○ 適用する ○ 表面化粧加工あり ○ 天然木化粧加工 ○ 塗装加工	
C L T (直行集成板) 施工箇所 品名 曲げ性能 (強度等級) 種別 接着性能 (使用環境) 樹種 寸法(mm)	
合板等 普通合板 使用箇所 品名 厚さ 樹種名 接着程度 板面の品質 その他処理 ※ 押入れ、 物入れ ※ 5.5mm ○ _____ ※ 1類 ○ 2類 広葉樹 ※ 2等以上 ○ 難燃処理 ○ 防虫処理 針葉樹 ※ C-D以上 ○ _____	
構造用合板 使用箇所 品名 等級 厚さ 樹種名 接着程度 板面の品質 保存処理 その他処理 ※ 畳床 地材、フ リッ 張り り下地材 ※ 2級以上 ○ _____ ※ 1類 ○ 特類 ※ C-D以上 ○ _____ ○ 防虫処理 ○ 強度等級	
「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 使用箇所 品名 厚さ 単板の樹種名 接着程度 防虫処理 ○ 1類 ○ 特類	
「合板の日本農林規格」による天然化粧合板 使用箇所 化粧板に使用する 単板の樹種名 厚さ 接着程度 防虫処理 ○ 1類 ○ 2類	
「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 使用箇所 品目 厚さ 接着程度 単板の樹種名 化粧加工の方法 防虫処理 ○ 1類 ○ 2類	
パーティクルボード 使用箇所 厚さ 各種区分 ※ 15mm ○ _____ ※ 13Pタイプ又は13Mタイプ ○ _____	
構造用パネル 使用箇所 等級 厚さ	

章 項目	特 記 事 項
6 MDF	使用箇所 厚さ 表面の状態 による区分 曲げ強さ による区分 接着剤 による区分 難燃性に よる区分
	造作材化粧面の釘打ち ※ 隠し釘打ち ○ 釘頭埋め木 ○ つぶし頭釘打ち ○ 釘頭現し
諸金物の形状、寸法及び材質 ※ かすがい、産金、箱金物及び短冊金物は、表6.5.5から表6.5.7までに示す程度の 市販品で、木材の寸法に応じた適切なものとし、コンクリート埋込部を除き、 表8.20.1【鉄鋼の亜鉛めっきの種別】のF種程度の亜鉛めっきを施したもの ○ _____	
○ 防蟻・防蟻処理を省略できる樹種による製材 適用部位 _____ ○ 薬剤の加圧注入による防蟻・防蟻処理 適用部位 保存処理性能区分 ○ K2 ○ K3 ○ K4 ○ K2 ○ K3 ○ K4	
○ 薬剤の塗布等による防蟻・防蟻処理 適用部位 _____ 適用部位 処理の方法 薬剤の種類 ※ 改修機仕6.5.5(1)(b)② ①～④による ○ _____ ○ _____	
○ 薬剤の接着剤への混入による防蟻・防蟻処理 適用部位 _____	
防虫処理 ※ 行う (範囲：ラワン材等 ※ 「製材の日本農林規格」による保存処理 K1) ○ 行わない	
野縁等の種別 屋内 ※ 19型 ○ 25型 (表6.6.1) 屋外 ○ 19型 ※ 25型	
野縁受け・吊りボルト・インサートの間隔 _____mm 周辺部の端からの寸法 _____mm 野縁の間隔 _____mm はずれ留め補強 ※ 有り ○ 無し 既存の埋込みインサートの使用 ※ 再利用しない ○ 再利用する あと施工アンカーの引抜き試験 ○ 行う (箇所以上、 ___N/箇所) ○ 行わない	
開口補強 吊りボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※ 図示による ○ _____ 天井のふとりの補強 (1.5m以上3m以下) ※ 行う (3mを超える) ※ 行う (図示による) 天井下地材における耐震性を考慮した補強 ○ 行う ○ 行わない 屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 ○ 行う ○ 行わない	
スタッド、ランナー等の種別 (表6.7.1) ※ 表6.7.1におけるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ○ _____ スタッドの高さが5mを超える場合 ※ 図示による ○ _____	
○ ビニル床シート 区分 種 類 記号 厚さ(mm) 色 柄 工 法 施工箇所 ○ 単層ビニル床シート T S ※ 複層ビニル床シート F S ○ 2.5 ※ 無地 ※ 熱溶接 ※ 仕上表に よる ○ 発泡複層ビニル床シート H S ○ ○ マーブル ○ ○ クッションフロア K S	
○ ビニル床タイル 区分 種 類 記号 厚さ(mm) 色 柄 寸 法 施工箇所 ※ コシ/ジョビニル床タイル K T ○ 単層ビニル床タイル T T ○ 2.5 ○ 複層ビニル床タイル F T ※ 2.0 ○ 置敷きビニル床タイル F O A ○ ○ 薄型置敷きビニル床タイル F O B	

特記事項			令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員トイレ改修工事 設計図			設計・監理 一級建築士事務所		
			改修工事特記仕様書5			野中建築設計事務所		
			DW. CK. NO. A-05 DATE 03-09			1級建築士第147931号 野中健一		
						〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20		
						TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408		

6 内装改修工事	○帯電防止床シート ○帯電防止タイル	6 内装改修工事	複合フローリング	6 内装改修工事	17 タイル張り (6.16.2) ~ (6.16.4)	7 塗装改修工事	4 塗装工程 (7.4.2) ~ (7.15.2)	8 鉄筋の種類 (8.2.1)	○ 帯電防止床シート ○ 帯電防止タイル	種 類 性 能 厚 さ (mm)	種 類 樹 種 厚 さ (mm) 工 法 種 別 備 考	伸縮調整目地等 床面 ※縦・横とも4m以内ごと ○ _____ 壁面 ※図示による ○ _____	種 別	種 別
	○視覚障害者用床タイル		種 類 樹 種 厚 さ (mm) 工 法 種 別 備 考		施工後の確認及び試験 浮きの確認 ※全面打診による確認を行う 接着力の試験 ※接着力試験機による引張接着強度の測定を行う ○行わない		種 別		種 別					
	○塩化ビニル系 ○レジンコンクリート系 ○磁器又はせつ器質タイル		種 類 樹 種 厚 さ (mm) 工 法 種 別 備 考		○磁器 ○無釉 ○有釉 ○有釉 ※標準 ○有釉 ○特注 ○陶器 ○施釉 ○無し ○無し ○特注 ○せつ器		種 別		種 別					
	○耐動荷重性床シート		種 類 樹 種 厚 さ (mm) 工 法 種 別 備 考		○磁器 ○無釉 ○有釉 ○有釉 ※標準 ○有釉 ○特注 ○陶器 ○施釉 ○無し ○無し ○特注 ○せつ器		種 別		種 別					
	○防滑性床シート ○防滑性床タイル		種 類 樹 種 厚 さ (mm) 工 法 種 別 備 考		○磁器 ○無釉 ○有釉 ○有釉 ※標準 ○有釉 ○特注 ○陶器 ○施釉 ○無し ○無し ○特注 ○せつ器		種 別		種 別					
	○ビニル幅木		種 類 樹 種 厚 さ (mm) 工 法 種 別 備 考		○磁器 ○無釉 ○有釉 ○有釉 ※標準 ○有釉 ○特注 ○陶器 ○施釉 ○無し ○無し ○特注 ○せつ器		種 別		種 別					
	○ゴム床タイル張り		種 類 樹 種 厚 さ (mm) 工 法 種 別 備 考		○磁器 ○無釉 ○有釉 ○有釉 ※標準 ○有釉 ○特注 ○陶器 ○施釉 ○無し ○無し ○特注 ○せつ器		種 別		種 別					
	○織じゅうたん		種 類 樹 種 厚 さ (mm) 工 法 種 別 備 考		○磁器 ○無釉 ○有釉 ○有釉 ※標準 ○有釉 ○特注 ○陶器 ○施釉 ○無し ○無し ○特注 ○せつ器		種 別		種 別					
	○タフテッドカーペット		種 類 樹 種 厚 さ (mm) 工 法 種 別 備 考		○磁器 ○無釉 ○有釉 ○有釉 ※標準 ○有釉 ○特注 ○陶器 ○施釉 ○無し ○無し ○特注 ○せつ器		種 別		種 別					
	○ニードルパンチカーペット		種 類 樹 種 厚 さ (mm) 工 法 種 別 備 考		○磁器 ○無釉 ○有釉 ○有釉 ※標準 ○有釉 ○特注 ○陶器 ○施釉 ○無し ○無し ○特注 ○せつ器		種 別		種 別					
9 カーペット敷き (6.9.3) ~ (6.9.4)	○織じゅうたん	7 塗装改修工事	種別 ○A種 ○B種 ○C種 ○D種 (KT-_____)	7 塗装改修工事	18 セルフレベリング材塗り (6.17.2)	8 鉄筋の種類 (8.2.1)	1 鉄骨の種類 (8.2.1)	○ 織じゅうたん	種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ セルフレベリング材 (GB-R) ※12.5(不燃) ○9.5(準不燃)	○ 織じゅうたん	種 別	種 別	
	○タフテッドカーペット		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ セルフレベリング材 (GB-D) ○杉根模様 ○12.5(不燃)		種 別	種 別						
	○ニードルパンチカーペット		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ セルフレベリング材 (GB-F) ○トラバーチン模様 (軽鉄下地は専用のものとする) ○12.5(不燃)		種 別	種 別						
	○タイルカーペット		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ セルフレベリング材 (GB-G) ○トラバーチン模様 ※9.5(不燃)		種 別	種 別						
	○厚膜型塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ セルフレベリング材 (GB-H) ○強化せつこうボード (GB-F) ○21(不燃) ○15(不燃) ○12.5(不燃)		種 別	種 別						
	○弾性ウレタン樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ セルフレベリング材 (GB-I) ○ロックウール吸音ボード (RW-B) ※25 ○		種 別	種 別						
	○エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ セルフレベリング材 (GB-J) ○グラスウール吸音ボード (GW-B) ※25 ○		種 別	種 別						
	○薄膜型塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ セルフレベリング材 (GB-K) ○吸音あなきせつこうボード (GB-P) ○9.5(準不燃)		種 別	種 別						
	○エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ セルフレベリング材 (GB-L) ○ロックウール化粧吸音板 (DR)		種 別	種 別						
	○エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ セルフレベリング材 (GB-M) ○けい酸カルシウム板 (0.8FK) タイプ2 (無石綿) ○8.0 ○6.0 ○		種 別	種 別						
10 合成樹脂塗床 (6.10.2) (6.10.3)	○弾性ウレタン樹脂系塗床材	7 塗装改修工事	○ 厚膜型塗床材	7 塗装改修工事	3 錆止め塗料塗り (7.3.2) (7.3.3)	8 鉄筋の種類 (8.2.1)	2 溶接金網 (8.2.2)	○弾性ウレタン樹脂系塗床材	種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	○ 弾性ウレタン樹脂系塗床材	種 別	種 別	
	○エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ 厚膜型塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ 弾性ウレタン樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ エポキシ樹脂系塗床材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
11 フローリング張り (6.11.2) ~ (6.11.6)	○1×6タイプ ○フローリングボードタイプ ○	7 塗装改修工事	○ 軽鋼骨下地ボード遮音壁の遮音シール材	7 塗装改修工事	3 錆止め塗料塗り (7.3.2) (7.3.3)	8 鉄筋の種類 (8.2.1)	2 溶接金網 (8.2.2)	○1×6タイプ ○フローリングボードタイプ ○	種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	○ 軽鋼骨下地ボード遮音壁の遮音シール材	種 別	種 別	
	○1×6タイプ ○フローリングボードタイプ ○		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ 軽鋼骨下地ボード遮音壁の遮音シール材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○1×6タイプ ○フローリングボードタイプ ○		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ 軽鋼骨下地ボード遮音壁の遮音シール材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○1×6タイプ ○フローリングボードタイプ ○		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ 軽鋼骨下地ボード遮音壁の遮音シール材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○1×6タイプ ○フローリングボードタイプ ○		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ 軽鋼骨下地ボード遮音壁の遮音シール材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○1×6タイプ ○フローリングボードタイプ ○		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ 軽鋼骨下地ボード遮音壁の遮音シール材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○1×6タイプ ○フローリングボードタイプ ○		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ 軽鋼骨下地ボード遮音壁の遮音シール材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○1×6タイプ ○フローリングボードタイプ ○		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ 軽鋼骨下地ボード遮音壁の遮音シール材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○1×6タイプ ○フローリングボードタイプ ○		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ 軽鋼骨下地ボード遮音壁の遮音シール材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				
	○1×6タイプ ○フローリングボードタイプ ○		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等		○ 軽鋼骨下地ボード遮音壁の遮音シール材		種 別 規 格 、 厚 さ (mm) 等	○ 錆止め塗料 (7.3.1) ~ (7.3.4)	種 別	種 別				

8-1 耐震補強工事 (鉄筋工事)

4 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5)

鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ
※ 構造図による ○表8.3.6による(次の2項目のかぶり厚さを除く。)
○ 軽量コンクリートで土に接する部分の鉄筋のかぶり厚さは下表による。
○ 塩害の受けるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。

施工箇所等	最小かぶり厚さ(mm)

機械式継手及び溶接継手のあき ○

試験方法
○ 超音波探傷試験を全圧接部で行う。

5 圧接完了後の試験 (8.3.8)

8-2 耐震補強工事 (コンクリート工事)

1 コンクリートの強度 (8.1.3) (8.1.4) (8.9.1) (8.9.2)

コンクリートの類別 ※ I類 ○ II類

○ 普通コンクリート

打設部位	Fc(N/mm ²)	スラブ(cm)	備	考
基礎	○ 24 ○	○ 18 ○		
上部	○ 24 ○	○ 18 ○		

○ 軽量コンクリート

打設部位(適用箇所)	Fc(N/mm ²)	スラブ(cm)	備	考
	○ 21 ○	※ 21 ○		

※ 構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。
[Fc + 構造体強度補正值(S)] N/mm²
(標仕6.14.11によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)

2 普通コンクリートの材料 (8.2.5)

※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種
○ 高炉セメントのB種 (施工箇所 _____)
○ シリカセメント
○ フライアッシュセメントのB種 (施工箇所 _____)

骨材

粗骨材 ※ 砂利(JIS A5308), 砕石(JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 再生骨材H
細骨材 ※ 砂(JIS A5308), 砕砂(JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 鋼スラグ ○ フロントガラス ○ 再生骨材H

アルカリシリカ反応性による区分 ※ A (無害) ○

混和材料 ○ 混和剤 ※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のI種(JIS A6204) ※ 鉄筋コンクリート用防錆剤(JIS A 6025)
○ 防錆剤 ※ 鉄筋コンクリート用防錆剤(JIS A 6025)
○ 混和材 ※ フライアッシュ(JIS A6201) I種、II種若しくはIV種
○ コンクリート用高炉スラグ微粉末(JIS A 6206)
○ コンクリート用シリカフェーム(JIS A 6207)
○ コンクリート用膨張材(JIS A 6202)

3 構造体強度補正值 (8.2.5)

※ 気温による構造体強度補正值(S) (表8.2.4)

予想平均気温(°C)	補正值(S)	期間(打設日)		
		南部地域	中部地域	北部地域
8以上	5以上	3 3/6 ~ 6/31	3/11 ~ 7/20	3/11 ~ 7/10
0以上	0以上	6 9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	9/1 ~ 10/31
8未満	5未満	6 11/16 ~ 3/5	11/6 ~ 3/10	11/1 ~ 3/10

南部地域(京都市(一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村)
北部地域(宮津市、旧加悦町以北の市町)
中部地域(上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町を含む)

4 構造体用モルタル (8.2.6)

モルタル圧縮強度 _____
フロー値 _____

5 型枠(せき板) (8.1.4) (8.2.7) (8.7.8)

合板の規格 ※ 「合板の日本農林規格」の「コンクリート型枠用合板の規格」による合板 ○
合板の材質 ※ 広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 ○
厚さ(mm) ※ 12 ○

打放し仕上げのせき板
※ 合板せき板を用いる場合 (表8.1.4)

種別	板面の品質	施工箇所
○ A種	※8.2.7(2)(7) ○	
○ B種	※8.2.7(2)(4) ○	
○ C種	※8.2.7(2)(4) ○	

○ 合板せき板を用いない場合
せき板の材料 _____

コンクリートの仕上りの平たんさ

種別	適用箇所
○ a種	
○ b種	
○ c種	

スリーブの材質

適用箇所	材質(規格その他)以上
水密を要する地中部分等	※ つば付き鋼管 (JIS G3452 の黒管に厚さ6mm つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの)
水密を要しない地中部分等	※ 硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K6741 のVU)
上記以外の円形スリーブ	※ 溶融亜鉛めっき鋼板 (径200mm以下は厚0.4mm以上、径200mmを超え350mm以下は厚0.6mm以上) ○

外部に面する打放し仕上げの打増し厚さ ※ 図示による ○ 20mm
シアコネクタとセパレーターの兼用 ○ 可 ○ 不可

6 コンクリートの試験 (8.8.2) ~ (8.8.5)

※ フレッシュコンクリートの試験
○ 省略する

7 軽量コンクリート (8.9.1)

常時土又は水に直接接する部分の使用 ○ 可 ○ 不可
種類 ○ 1種 ○ 2種
気乾単位容積質量 _____ t/m³

8 暑中コンクリート (8.10.2)

地域	日平均気温が25度を超える期間(打設日)	補正值
北部地域	7月1日~8月31日	※ 6N/mm ²
中部地域	7月21日~8月31日	○ 3N/mm ²
南部地域	7月1日~9月10日	

9 寒中コンクリート

※ 予想平均気温が表8.2.4に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第11節(寒中コンクリート)による。

10 無筋コンクリート (8.11.1) (8.11.2)

コンクリートの種類 ※ 普通コンクリート ○
設計基準強度 ※ 18N/mm² ○
スラブ ※ 15cm又は18cm ○

セメントの種類
※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種
○ 高炉セメントB種
○ フライアッシュセメントB種

適用箇所
※ 標準仕様書6.14.1(4)による箇所
○ 図示による ()

11 コンクリート車の過積載防止対策等

受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車1台毎の積載量が把握できる運搬管理表を検査時に提出しなければならない。

8-3 耐震補強工事 (あと施工アンカー工事)

1 あと施工アンカー (8.2.4) (8.12.4)

○ 金属系アンカー
引張耐力 _____ セン断耐力 _____
径 _____ 埋込み長さ _____
セット方式 ※ 本体打込み式改良型 ○
接合筋の種類 _____ 長さ _____
径 _____

○ 接着系アンカー
引張耐力 _____ セン断耐力 _____
種類 ※ カプセル型回転・打撃式 ○
アンカー筋 ※ 改修標準仕様書8.2.1の異形棒鋼の種類 _____
径 _____ 埋込み長さ _____
新設壁内への定着長さ _____

埋め込み配管等の探査
範囲 ※ あと施工アンカー施工部分全て
方法 ※ 鉄筋探知機(金属探知機)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。
○ 図示による

性能確認試験 ○ 行わない ○ 行う
施工確認試験 ※ 行う (引張試験機による引張試験 確認強度 _____)
○ 行わない

1 ロット ※ 1日に施工されたものの径及び仕様ごと ○
試験の箇所数 ※ 1ロットに対し3本、無作為に抜き取る ○

8-4 耐震補強工事 (鉄骨工事)

1 鉄骨の製作工場 (8.1.5)

○ 監督職員の承諾する工場
※ 建築基準法第77条の5第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鐵骨工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(OS OH OM OR OJ)グレード」として、国土交通大臣から認定を受けた工場もしくは同等以上の能力のある工場

2 鉄骨製作工場における施工管理技術者 (8.1.5)

○ 適用する ○ 適用しない

3 鋼材の種類 (8.2.8)

種類の記号	使用箇所	規格等
SS400		JIS G 3101
SM400A		JIS G 3106
SN400A		JIS G 3136

※ 図示による

4 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)

ボルトの種類 ○ トルシヤ形高力ボルト(建築基準法の認定品)
○ JIS形高力ボルト(JIS B 1186) 2種(F10T)
○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト(建築基準法の認定品、1種(F8T))

ねじの呼び
すべり係数試験 ○ 行わない
○ 行う 試験方法等 ○ 図示による ○

JIS形高力ボルトの本締めで、ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量 _____

5 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合 (8.20.5)

摩擦面の処理
○ プラスト処理(表面粗度50µmRz以上)
○ りん酸塩処理
○ 図示による ()
すべり耐力等の確認方法 ○
試験方法等 ○ 図示による ○

6 溶接材料 (8.2.10)

溶接材料
※ 改修標準仕様書8.2.10(1)(2)による
○ 図示による ○

7 スタッド (8.2.11)

種類等	呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
	・16		
	・19		
	・22		

8 工作図 (8.13.2)

高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等
※ 図示による (図に無い場合は鉄骨設計基準による)

9 ボルト孔 (8.13.8)

母屋又は間縁の取付けに使用する普通ボルトの孔型
※ ねじの呼び径 +1.0 mm ○

10 仮組 (8.13.10)

○ 実施する 部位 ()
○ 実施しない

8-4 耐震補強工事 (鉄骨工事)

11 溶接作業における技能資格者 (8.15.3)

溶接作業者の技量付加試験
※ 行わない
○ 行う 試験の要領 ○ 図示による ○

12 溶接接合 (8.15.4) (8.15.7)

開先の形状
○ 図示による ○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○
エンドタブの切断 ○ 有 ○ 無
切断する箇所及び切断範囲 ※ 図示による ○
切断面の仕上げ ※ グラインダーにより、粗さ100µm Rz程度以下及びノッチ深さ1mm程度以下に仕上げる

スカラップの形状
○ 図示による ○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○ 改良型スカラップ

H12建設省告示第1464号第二号に関する外観試験方法等
○ 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強」(独立行政法人建築研究所) 3.5.2による受入検査
○ 抜き取り検査① ※ 抜き取り検査②

JASS 6 付則 6 「鉄骨精度検査基準」の付則3「溶接」に関する試験方法等
○ JASS 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波深傷試験の試験箇所と同一とする。
外観試験の不適合箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。

13 溶接部の試験 (8.15.12)

○ 浸透探傷試験(JIS Z 2343-1)
○ 磁粉探傷試験(JIS Z 2320-1)
※ 超音波探傷試験 工場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 全数 ○
検査水準 ※ 第6水準 ○ 第水準
現場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 全数 ○

14 錆止め塗料 (7.3.2) (8.17.2) (8.17.4)

塗料の種類 ○ 鉄鋼面の錆止め塗料
○ 表7.3.1による ※ A種 ○ B種
○
○ 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料
○ 表7.3.2による ※ A種 ○ B種 ○ C種
○

鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る)
○ 表7.3.1による ※ A種 ○ B種
○

耐火被覆材の接着する面への塗装
○ 行わない ○ 行う
耐火被覆材の接着する面以外への塗装
○ 行わない ○ 行う (塗装範囲 ○ 図示による ○)

15 耐火被覆 (8.18.2) ~ (8.18.9)

種類

種類	材質・工法	適用箇所(部位・部分)
○ 耐火材吹付け	○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール ○	
○ 耐火板張り	○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○	
○ 耐火材巻付け	○ 高断熱ロックウール ○	
○ 5張りモルタル塗り	-	
○ 耐火塗料		

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

性能

性能	適用箇所(部位・部分)
○ 30分耐火	
○ 1時間耐火	
○ 2時間耐火	
○ 3時間耐火	

16 アンカーボルト (7.10.3) による。

適用
○ 構造用アンカーボルト
材質 ○ SNR400B ○
アンカーフレームの形状及び寸法
○ 図示による ○
○ 建方用アンカーボルト
材質 ○ SS400
アンカーボルトの保持及び埋め込み工法 (表7.10.1)
種別 ○ A種 ○ B種
柱底均しモルタルの厚さ ○ 50mm ○ 30mm

8-4 耐震補強工事 (鉄骨工事)

11 溶接作業における技能資格者 (8.15.3)

溶接作業者の技量付加試験
※ 行わない
○ 行う 試験の要領 ○ 図示による ○

12 溶接接合 (8.15.4) (8.15.7)

開先の形状
○ 図示による ○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○
エンドタブの切断 ○ 有 ○ 無
切断する箇所及び切断範囲 ※ 図示による ○
切断面の仕上げ ※ グラインダーにより、粗さ100µm Rz程度以下及びノッチ深さ1mm程度以下に仕上げる

スカラップの形状
○ 図示による ○ 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○ 改良型スカラップ

H12建設省告示第1464号第二号に関する外観試験方法等
○ 「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強」(独立行政法人建築研究所) 3.5.2による受入検査
○ 抜き取り検査① ※ 抜き取り検査②

JASS 6 付則 6 「鉄骨精度検査基準」の付則3「溶接」に関する試験方法等
○ JASS 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜き取り箇所は、超音波深傷試験の試験箇所と同一とする。
外観試験の不適合箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。

13 溶接部の試験 (8.15.12)

○ 浸透探傷試験(JIS Z 2343-1)
○ 磁粉探傷試験(JIS Z 2320-1)
※ 超音波探傷試験 工場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 全数 ○
検査水準 ※ 第6水準 ○ 第水準
現場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 全数 ○

14 錆止め塗料 (7.3.2) (8.17.2) (8.17.4)

塗料の種類 ○ 鉄鋼面の錆止め塗料
○ 表7.3.1による ※ A種 ○ B種
○
○ 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料
○ 表7.3.2による ※ A種 ○ B種 ○ C種
○

鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る)
○ 表7.3.1による ※ A種 ○ B種
○

耐火被覆材の接着する面への塗装
○ 行わない ○ 行う
耐火被覆材の接着する面以外への塗装
○ 行わない ○ 行う (塗装範囲 ○ 図示による ○)

15 耐火被覆 (8.18.2) ~ (8.18.9)

種類

種類	材質・工法	適用箇所(部位・部分)
○ 耐火材吹付け	○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール ○	
○ 耐火板張り	○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○	
○ 耐火材巻付け	○ 高断熱ロックウール ○	
○ 5張りモルタル塗り	-	
○ 耐火塗料		

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

性能

性能	適用箇所(部位・部分)
○ 30分耐火	
○ 1時間耐火	
○ 2時間耐火	
○ 3時間耐火	

16 アンカーボルト (7.10.3) による。

適用
○ 構造用アンカーボルト
材質 ○ SNR400B ○
アンカーフレームの形状及び寸法
○ 図示による ○
○ 建方用アンカーボルト
材質 ○ SS400
アンカーボルトの保持及び埋め込み工法 (表7.10.1)
種別 ○ A種 ○ B種
柱底均しモルタルの厚さ ○ 50mm ○ 30mm

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項		
8-5 耐震補強工事(グラウト)	1 グラウト材 (8.2.12) グラウト材 ※ 早強型特殊セメント系無収縮モルタル ○ _____ 無収縮モルタルの調査 ※ 製造所で調査されたプレミックスタイプ ○ 現場調査 無収縮グラウト材の品質 圧縮強度 (N/mm ²) ※ 30以上 ○ _____ ※ 一般部コンクリートと同等以上の強度(鉄筋コンクリート壁増設工事の壁部) コンシステンシー値(秒) ※ 6~10 ○ _____ 乾燥収縮 (10 ⁻⁴) ※ 0 ○ _____ ※ グラウト材の品質管理は次による 圧縮強度試験 ※ 行う ○ 行わない コンシステンシー試験 ※ 行う ○ 行わない 2 柱底等の均しモルタル(8.2.12) モルタルの種類 ※ 無収縮モルタル ○ _____ ※ 公共建築工事標準仕様書7.2.9(7)から(1)による。 材料の調査等 ○ _____ 厚さ ※ 図示による ○ _____ 工法 ※ A種 ○ B種	7-8 耐震補強工事(鉄骨ブレース設置工事)	1 補強工法 ○ 内側補強工法 ○ 枠付き鉄骨K型ブレース ○ 枠付き鉄骨X型ブレース ○ 枠付き鉄骨類付ブレース ○ 枠付き鉄骨マサード型ブレース ○ 枠付き有開口鉄板パネル ○ 枠付き無開口鉄板パネル 製造所及び専門業者 (_____) ○ 外側補強工法 ○ 枠付き鉄骨ブレース直付け工法 ○ 枠付き鉄骨ブレース架構増設工法 製造所及び専門業者 (_____) 2 既存部分の撤去 (8.22.2) 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 3 既存部分の処理 (8.22.3) 目荒しの程度 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 4 既存構造体との取合い (8.22.7) 割製補強筋 ※ 以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に纏うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40~60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチの1/3~1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する)。 ○ 図示による 5 仕上げ (8.22.9) ※ 図示による ○ _____	8-9 耐震補強工事(柱補強工事)	1 補強工法 ○ 新設耐震壁 ○ 増打ち耐震壁 ○ 開口部閉鎖壁 ○ 新設袖壁 製造所及び専門業者 (_____) 2 既存部分の撤去 (8.21.2) 既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示による ○ 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を露出させる。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ※ 図示による ○ _____ 既存構造体の撤去範囲 ※ 図示による ○ _____ はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。 ○ 図示による 3 既存部分の処理 (8.21.3) 目荒しの程度 既存柱・梁 ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による 壁(増打ち壁増設の場合) ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の10~15%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による 4 鉄筋の加工及び組立て (8.21.6) 割製補強筋 ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 ※ 4/8筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示による 開口部増設壁の開口部鉄筋及び増設壁の端部横筋 ※ ダブル配筋=閉鎖型配筋、シングル配筋=フック(3d)付き ○ 図示による 5 コンクリートの打込み工法(8.21.8) ○ 流込み工法 ○ 圧入工法 6 既存構造体との取合い (8.21.9) ※ 8.19.9の方法による他、以下に注意する ※ 開口周囲の既存壁をはつり、既存壁筋を露出させ、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。 ※ 開口周囲の既存壁にあと施工アンカーを打設し、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。(壁が厚く配筋の場合) ※ 開口打設部全てについてグラウト剤を注入する。(壁が薄い場合) ○ 図示による 7 仕上げ (8.21.10) ※ 図示による ○ _____	8-10 耐震補強工事(免震改修)	6 連続繊維補強工法 (8.2.13) (8.24.6) 工法 ○ (一財)日本建築防災協会の評価を受けた工法 ○ _____ 材料 ○ 炭素繊維 ○ アラミド繊維 ○ ガラス繊維 性能 引張強度 _____ N/mm ² ヤング係数 _____ N/mm ² 製造所 _____ 製品名 _____ 柱及び梁の隅部の面取りの大きさ 炭素繊維シート ※ 20mm以上 ○ _____ アラミド繊維シート ※ 10mm以上 ○ _____ 仕上げモルタルの除去 ※ 構造躯体まで除去する ○ もみり除去は行わない ひび割れ部改修 ○ コンクリート打放し仕上げ ※ 樹脂注入工法 ○ もみり塗り仕上げ ※ 樹脂注入工法 炭素繊維の目付量 ※ 図示による ○ _____ 炭素繊維シートの巻数 ※ 図示による ○ _____ 引張強度試験 ※ 行う 試験数量 (_____) ○ 行わない 付着強度試験 ※ 行う 試験数量 (_____) ○ 行わない 7 仕上げ (8.23.7) (8.24.7) ※ 図示による ○ _____	8-11 耐震補強工事(制振改修)	1 既存部分の撤去 (8.27.2) 既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存部分が鉄骨造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄骨の撤去範囲 ※ 図示による ○ _____ 方法 ※ 図示による ○ _____ 既存鉄骨の処置方法 _____ 2 既存部分の処理 (8.27.3) 既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁(増打ち壁増設の場合) ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 3 減衰材 (8.27.4) (8.27.6) 減衰材 材質 _____ 諸元 _____ 性能確認試験 項目 _____ 数量 _____ 製品検査 項目 _____ 内容 _____ 判定基準 _____ 検査頻度 _____ 防錆処置 _____ 設置位置の寸法許容差 _____ 既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割製補強筋 ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 ※ 4/8筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示による 既存部分が鉄骨造の場合 割製補強筋 ※ 以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に纏うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40~60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチの1/3~1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による 4 仕上げ (8.27.8) ※ 図示による ○ _____ 5 検査 (8.27.9) 項目 _____ 数量 _____
8-6 耐震補強工事(現場打ちRC壁の増設工事)	1 補強工法 ○ 新設耐震壁 ○ 増打ち耐震壁 ○ 開口部閉鎖壁 ○ 新設袖壁 製造所及び専門業者 (_____) 2 既存部分の撤去 (8.21.2) 既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示による ○ 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を露出させる。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ※ 図示による ○ _____ 既存構造体の撤去範囲 ※ 図示による ○ _____ はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。 ○ 図示による 3 既存部分の処理 (8.21.3) 目荒しの程度 既存柱・梁 ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による 壁(増打ち壁増設の場合) ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の10~15%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による 4 鉄筋の加工及び組立て (8.21.6) 割製補強筋 ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 ※ 4/8筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示による 開口部増設壁の開口部鉄筋及び増設壁の端部横筋 ※ ダブル配筋=閉鎖型配筋、シングル配筋=フック(3d)付き ○ 図示による 5 コンクリートの打込み工法(8.21.8) ○ 流込み工法 ○ 圧入工法 6 既存構造体との取合い (8.21.9) ※ 8.19.9の方法による他、以下に注意する ※ 開口周囲の既存壁をはつり、既存壁筋を露出させ、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。 ※ 開口周囲の既存壁にあと施工アンカーを打設し、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。(壁が厚く配筋の場合) ※ 開口打設部全てについてグラウト剤を注入する。(壁が薄い場合) ○ 図示による 7 仕上げ (8.21.10) ※ 図示による ○ _____	8-7 耐震補強工事(耐震スリット)	1 補強工法 ○ 溶接鋼巻き工法 ○ 溶接閉鎖フープ巻き工法 ○ 鋼板巻き工法 ○ 帯板巻き付け工法 ○ 連続繊維補強工法 ○ _____ 2 既存部分の撤去 (8.23.2) 既存仕上げの撤去範囲 ※ 本特記仕様書8-6-2による他、下記による。 垂れ壁・腰壁を撤去する場合には、風圧力等による安全性を確認の上、30mmのスリットを残して補強を行う。 ○ 図示による 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 3 既存部分の処理 (8.23.3) (8.24.3) 目荒しの程度 ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による 柱及び梁の成型(連続繊維補強工法) ※ 支障となる表面の不陸を調整し、コーナー部をグラインダー等により曲面に成型する。(※ 30R ○ _____) ○ 図示による 4 溶接鋼巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 (8.23.5) 柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 打ち込むコンクリート又はグラウト材の厚さ ○ _____ mm 打ち込みの工法 ○ 流込み工法 ○ 圧入工法 5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.23.6) 鋼板の加工 ○ 円形 ○ 角形 ○ _____ 柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚スリットを設ける場合のモミり剥落防止処理方法 ○ 小口塞ぎ鉄板溶接 ○ 鋼板曲げ加工 グラウト材 グラウト材の仕様 ※ 本特記仕様書8-5-11による ○ _____ グラウト材の厚さ ○ 20mm ○ _____ mm	8-8 耐震補強工事(柱補強工事)	1 耐震スリット新設工事 (8.25.2) 方 向 タ イ プ 耐火性能 防水性能 ○ 垂直方向 ※ 完全(全貫通型)スリット ○ 耐火型 ○ 有り ○ 水平方向 ○ セン断型部分スリット ○ 非耐火型 ○ 無し ○ _____ 品質・規格 _____ 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄筋の処理 ○ はつり出し ○ 切断 ○ 存置(部分スリット) スリットの幅及び深さ ○ 図示による ○ _____ スリットの充填材 耐火材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 ○ 図示による ○ _____ 遮音材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 ○ 図示による ○ _____ 既存部分の撤去の補修 ※ 図示による ○ _____	8-9 耐震補強工事(免震改修)	1 既存部分の撤去 (8.26.5) 既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造・既存杭の場合の仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 2 既存部分の処理 (8.26.6) 既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造・既存杭の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁(増打ち壁増設の場合) ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 3 支承材・減衰材 (8.26.7) (8.26.10) ○ 支承材 材質 _____ 諸元 _____ ○ 減衰材 材質 _____ 諸元 _____ 性能確認試験 項目 _____ 数量 _____ 製品検査 項目 _____ 内容 _____ 判定基準 _____ 検査頻度 _____ 防錆処置 _____ 設置位置の寸法許容差 _____ 既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割製補強筋 ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 ※ 4/8筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示による		

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項			
8 12 耐震補強工事(基礎工事)	既存部分の処理等 (8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () ○ ○杭頭部の処理 ○図示による () ○ ○既存杭の補強 ○図示による () ○ ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () ○	4 移動間仕切 (20.2.4)	パネル操作方法による種類 パネル表面材・仕上 パネル圧接装置の操作方法 遮音性能	14 カーテンレール (20.2.14)	材料 ※ アルミニウム又はアルミニウム合金の押し出し成形材 ○ ステンレス ○ 形式 ○ 片引き ○ 引分け (暗幕用は300 mm以上の召合せの重ね掛けとする。) 形状 ○ C型 ○ D型 ※ 角型 強さによる区分 ※ 10-90 ○ 仕上げ ※ アルマイト ○	10 排水工事	3 緑石 (21.3.1)	歩道境界ブロックのJISによる呼び名 ※ A ○ 地先境界ブロックのJISによる呼び名 ○ A ○ C ○ 砂利地盤の厚さ ※ 100mm ○	
	2 埋戻し及び盛土 (8.28.3)	埋戻し及び盛土の種類 ○A種 適用箇所 () ○B種 適用箇所 () ○C種 適用箇所 () 土質 () 受渡場所 () ○D種 (細粒分(75μm以下)の含有率(重量百分率)の上限を50%未満とする) 適用箇所 () ○その他(材料 工法) 地盤の変形を防止する適切な措置を講ずるための鋼矢板等の抜き処理 ○図示による () 山留め壁等の設置箇所 (※図示 ○)	9 ユニツト及びその他の工事	5 トイレブース (20.2.5)	表面材 ●メラミン樹脂系化粧板 ○ポリエステル樹脂系化粧板 脚部 ※ 幅木型 ○足金物型 パネル材料のホルムアルデヒド放散量 F☆☆☆☆ ドアエッジの材質 ※ トイレブース製造所の仕様による ○	4 コンクリート側溝 (21.2.1) (21.3.1)		鉄筋コンクリートL形のJISによる呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ コンクリート形のJISによる呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ 鉄筋コンクリートU形のJISによる呼び名 ○ 240 ○ 300A ○ 360A ○ 現場打ちコンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm ²) ※ 1.8 ○ スランプ(cm) ○ 1.5 ○ 1.8 ○ 現場打ちの鉄筋 種類の記号 ※ SD295A ○		
	3 杭地業 (8.2.15) (8.28.4)	支持層の位置、土質、杭の埋入長さ ○図示による () ○ 杭の材料、工法、寸法、施工方法等 ○図示による () ○ ○試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 ○図示による () ○ ○杭の継手の箇所数、材料、工法等 ○図示による () ○ ○杭の溶接継手 技能資格者の技量 ○図示による () ○ 溶接部の確認 ○図示による () ○ ○杭頭の処理 ○処理する ○処理しない 処理方法(切断にともなう補強方法含む) ○図示による () ○ ○杭頭の中詰め材料 ○基礎のコンクリートと同調合のもの ○ 杭の精度 水平方向の位置ずれ ○杭径の1/4かつ100mm以下 ○ 杭の傾斜 ○1/100以内 ○ 記録する施工状況等 ○図示による () ○	6 階段滑り止め (20.2.6)	材種 ○ ステンレス製 (SUS304) 幅 ○ 約 35 mm ○ 形状 ○ ビニルタイヤ入り 両端フット ○ あり (○ビニル ○ SUS304) 取付工法 ※ 接着工法 ○ 埋込み工法	15 ブラインドボックス カーテンボックス	○ 図示による ○ 市販品 (アルミニウム製 押し出し型材) 仕様等 溝幅×深さ (mm) ○ 90×150 ○ 150×80 ○ 120×80 ○ 表面処理 ○ C-1 (無着色) ○ C-2 (着色)		11 舗装工事	1 路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)	路床の構成 ○凍上抑制層 厚さ ○ 図示による ○ ○透水性舗装 フィルター層の厚さ 車道部 ○ 図示による ○ 150mm ○ 歩道部 ○ 図示による ○ 50mm ○ 盛土に用いる材料 ○ A種 ※ B種 ○ C種 ○ D種 (表3.2.1) 路床安定処理 ○ 行う ○ 行わない 路床安定処理用材料 ※ 添加材料による安定処理 (表22.2.2) 種類 ○ 地盤改良材 () ○ 高圧射撃B種 ○ 普通ポルトランドセメント ○ 生石灰 特号 ○ 生石灰 1号 ○ フライアッシュセメントB種 ○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号 添加量 kg/m ³ 路床土の支持力比(CBR)試験 ○ 行う (※ 乱した土 ○ 乱さない土) 路床締固め度の試験 ※ 行う(埋戻し部、盛土部) ○ 行わない
	4 砂利地業等 (8.2.15)	材料 ○再生クラッシュラン ○切込砂利 ○切込砕石 砂利厚さ ○60mm ○ 砂地業 ○山砂 ○川砂 ○砕砂 捨コンクリートの厚さ ※50mm ○	7 階段手すり	○ ステンレス製 (SUS304 H L 仕上) 径 mm (仕様は金属工事参照) ○ 集成材 径 mm ○ クリアラッカー仕上げ ○ ビニル製ハンドレール ※ 丸型 径 mm ○ 平型 幅 mm	16 くつふきマット	材種 ○ 塩化ビニル製 (コイル状 ステンレス製 (SUS304) 受枠) ○ 硬質アルミニウム合金 (受枠とも) ○ ○ ゴム製 (ステンレス製 (SUS304) 受枠)		2 路盤 (22.3.2) (22.3.3) (22.3.5)	路盤の厚さ mm 材料 ○ 再生クラッシュラン (RC-40, 30, 20) ○ クラッシュラン (C-40, 30, 20) ○ クラッシュ鉄鋼スチール (CS-40) 路盤締固め度の試験 ※ 行う	
	5 捨コンクリート地業 (8.28.4)		8 黒板及びホワイトボード (20.2.8)	区 分 種 類 色彩 備 考 ○ 黒板 ※ 焼付け ○ 鋼製黒板 ※ 緑 ○ 曲面 ○ ○ ○ ほうろう黒板 ○ 黒 ○ スクリーン付引分け ○ ホワイトボード ○ ほうろう白板 ※ 白 ○ 曲面 ○ ○ ○ スクリーン付引分け	17 鋼製書架及び棚	品質・規格		3 アスファルト舗装 (22.4.2) ~ (22.4.6)	舗装の種類 表層(mm) 基層(mm) カラー舗装の種類 ※ アスファルト舗装 ※ 顔料混入加熱アスファルト混合物 アスファルト ○ 再生アスファルト (○ 60~80 ○ 80~100) ○ ストレートアスファルト 再生加熱アスファルト混合物の種類 区分 ○ 一般地域 ○ 寒冷地域 表層 ○ 密粒度アスファルト混合物 (13) ※ 密粒度アスファルト混合物 (13F) ○ 細粒度アスファルト混合物 (13)	
9 ユニット及びその他の工事	1 家具、ユニット等の揮発性有機化合物対策	本章の項目及び特記事項の()内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(平成31年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。	9 鏡 (20.2.9)	額縁金属 ○ アルミ製 (表面処理の種類 ○ B-2 ○ B-1) 品質・規格 厚さ (mm) ※ 5 ○ 衝突防止表示 ※ 図示による (市販品 ○ ステンレス製 径 30 mm ○) ○ なし 法令に基づく表示 ※ 非常用出入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。	18 収納家具(木製)	品質・規格	2 路盤 (22.3.2) (22.3.3) (22.3.5)	路盤の厚さ mm 材料 ○ 再生クラッシュラン (RC-40, 30, 20) ○ クラッシュラン (C-40, 30, 20) ○ クラッシュ鉄鋼スチール (CS-40) 路盤締固め度の試験 ※ 行う		
	2 フリーアクセスフロア (20.2.2)	※ 建設技術評価制度「耐震型フリーアクセス」の技術評価を取得した製品とする。 施工箇所 寸法 (mm) フロア 耐震性能 所定荷重 帯電防止性能 漏えい抵抗	10 表示・標識 (20.2.10) (20.2.11)	室名札 厚さ(mm) 材 質 色 書 体 印刷等の種別 取付け形式 ○ 5 ○ アクリル板 ○ 角太ゴシック ○ シルク印刷 ○ 平付型 ○ ○ アルミ板 ○ 丸 ○ 曲面 ○ 持出型 外国語表現 ○ 行う (○ 英語 ○) 寸法 (mm) ○ 50×250 ○ 60×250 ○ 図示による	19 掲示板	品質・規格	3 アスファルト舗装 (22.4.2) ~ (22.4.6)	舗装の種類 表層(mm) 基層(mm) カラー舗装の種類 ※ アスファルト舗装 ※ 顔料混入加熱アスファルト混合物 アスファルト ○ 再生アスファルト (○ 60~80 ○ 80~100) ○ ストレートアスファルト 再生加熱アスファルト混合物の種類 区分 ○ 一般地域 ○ 寒冷地域 表層 ○ 密粒度アスファルト混合物 (13) ※ 密粒度アスファルト混合物 (13F) ○ 細粒度アスファルト混合物 (13)		
	3 移動間仕切 (20.2.3)	本章の項目及び特記事項の()内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(平成31年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。	11 ブラインド (20.2.12)	案内板(館内、各階、便所) 厚さ(mm) 材 質 色 書 体 印刷等の種別 取付け形式 ○ 5 ○ アクリル板 ○ 角太ゴシック ○ シルク印刷 ○ 平付型 ○ ○ アルミ板 ○ 丸 ○ 曲面 ○ 持出型 外国語表現 ○ 行う (○ 英語 ○) 寸法 (mm) ○ 600×600 ○ 100×600 ○ 200×200 ○ 図示による	20 カウンター	品質・規格	4 コンクリート舗装 (22.5.2) ~ (22.5.6)	構成 コンクリートの種類 部 位 厚さ(mm) 設計基準強度(N/㎡) スランプ(cm)		
			12 ロールスクリーン (20.2.13)	館名板等 品質・規格	21 洗面カウンター	材 種 ○ メラミン樹脂化粧板張り (芯材:集成材) ○ 人工大理石 (品質 図示) 奥行き (mm) ○ 約450 ○ 約600 ○	5 カラー舗装 (22.6.2) ~ (22.6.4)	種 類 部 位 配合その他 ※ 加熱系アスファルト混合物 ○ 車路 添加剤 ○ 着色骨材 ○ 自然石 ○ 歩行者 結合材 ○ アスファルト ○ 石油樹脂 (添加量) アスファルト混合物等の抽出試験 ○ 適用する ※ 適用しない 舗装の厚さ mm ○ 常温系ニート工法 ○ 常温系塗布工法		
			13 カーテン (20.2.14)	取付箇所 形 式 開閉操作方法 カーテン用きれ地の ひだの種類 シグナル プラグ 片引 引分 電動 ひも引 手引 種類・品質・特殊加工等 フラス 両つまみ プラグ	22 洗面カウンター	材 種 ○ アルミニウム又はアルミニウム合金の押し出し成形材 ○ ステンレス ○ 形式 ○ 片引き ○ 引分け (暗幕用は300 mm以上の召合せの重ね掛けとする。) 形状 ○ C型 ○ D型 ※ 角型 強さによる区分 ※ 10-90 ○ 仕上げ ※ アルマイト ○				
			13 カーテン (20.2.14)	22 洗面カウンター	材 種 ○ アルミニウム又はアルミニウム合金の押し出し成形材 ○ ステンレス ○ 形式 ○ 片引き ○ 引分け (暗幕用は300 mm以上の召合せの重ね掛けとする。) 形状 ○ C型 ○ D型 ※ 角型 強さによる区分 ※ 10-90 ○ 仕上げ ※ アルマイト ○					

11 舗装工事

6 透水性舗装 (22.7.2) ~ (22.7.6)

7 ブロック系舗装 (22.8.2) (22.8.3)

8 砂利敷き (22.9.2)

9 白線引き

舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○
 表層の厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない
 開粒度777μm 混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない

○ コンクリート平板舗装

種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目 地
※ 普通平板 (M)	○ カラー平板 (C)	※ 300角	※ 60
○ 洗出平板 (W)	○ 掘石 (S)	○	○ モルタル

品質・規格
 クッション材 ※ 砂 ○ 空練りモルタル

○ インターロッキングブロック舗装

種 類	部位	形状寸法 (mm)	厚さ (mm)	色及び表面加工等
※ 普通ブロック	車路		※ 80	※ 5.0
○ 京エコー			※ 60	※ 3.0
○ 透水性ブロック			○ 80	○
○ 植生ブロック			○ 60	
			※ 80	
			○ 100	

品質・規格
 クッション材 ※ 砂 ○ 空練りモルタル

○ 舗石舗装

種 類	形状寸法 (mm)	厚さ (mm)	工 法	基 層	基層の厚さ (mm)
○ 花崗岩		○ 80~100	○ ラウニ張り	○ コンクリート版	※ 70
○		○	○	○ 777μm 混合物	○ 50

品質・規格
 クッション材 ※ 砂 ○ 空練りモルタル

通 路 ※ A種 ○ B種
 建物周囲その他 ○ A種 ※ B種
 ※ 下敷きの使用材料は再生クラッシャーランとする

種 類 ○ 溶融式 ○ ペイント式 幅 (cm) ○ 15 ○

12 環境配慮改修工事

4 石綿粉じん濃度測定 (9.1.1)

○ 行う

測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)	備 考
除去作業前	除去作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点	
除去作業中	調査対象室外部付近	○ 1点 ○ 2点 ○ 点	
	除去作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点	
	排気口	各 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点	
	排気口	各 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点	
除去作業後	除去作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点	シート養生中
除去作業後	除去作業室内	○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点	シート撤去後
	調査対象室外部付近	○ 1点 ○ 2点 ○ 点	1週間以降

※ 周囲の状況等により上記によりがたい場合は、監督職員と協議する。

○ 行わない

測定方法
 ・ 自動測定器による測定

測定場所	測定方法
○ 排気口	粉じん相対濃度計 (デジタル粉じん計) ・ パーティクルカウンター
○ 集じん・排気装置の排出口 (除去作業室内)	繊維状粒子自動測定器 (777μm (M) モード) 等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定

・ JIS K 3850-11に基づいた測定

測定場所	ろ過フィルタ直径 (mm)	試料の吸引流量 (L/min)	試料の吸引時間 (min)
○ 排気口			
○ 集じん・排気装置の排出口 (除去作業室内)	25	5	30
○	47	10	120
○	47	10	240

測定機関 ※ (公社) 日本作業環境測定協会による「石綿含有の有無の判定及び石綿の含有率の測定が可能な石綿含有率分析可能機関」とする。

報告書提出部数 ※ 部 ○ 部

施工業者
 ※ 工事に相応した技術を有することを証明する資料をあらかじめ提出すること。
 ○ 「吹付石綿粉じん飛散防止処理技術」について (一財) 日本建築セメントの建設技術審査証明事業による建築物等の施工技術及び保全技術の審査証明を取得した工法の施工業者等。

除去を行う範囲
 ※ 図示による (仕上げ表による 床・壁・天井毎に種別を確認)
 ○ 全ての室 ○

除去工法
 ※ 改修標仕9.1.3(2)(7)(a)~(d)による
 ○

除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止
 ※ 密封処理 (二重袋梱包)
 隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機、除じん機フィルタ等についても密封処理とする。
 ※ 湿潤化
 ○ セメント固化
 ○ 溶融固化

除去物等の保管
 ※ 他の建設副産物等と分別して保管する。
 ※ 飛散防止措置を講ずる。
 ※ 石綿等の保管場所であることを表示を行う。

除去した石綿含有吹付け材等の処分方法
 ○ 埋立処分 (管理型最終処分場)
 ○ 中間処理 (溶融施設)

除去を行う範囲
 ※ 図示による
 ○

除去方法
 ※ 原形のまま手ばらし
 ○ 手ばらし以外 (この場合は改修標仕9.1.3(1)による隔離とする)
 ○

除去した石綿含有保温材の処分
 ○ 埋立処分 (管理型最終処分場)
 ○ 中間処理 (溶融施設)

12 環境配慮改修工事

7 石綿含有成形板の除去 (9.1.5)

除去を行う範囲
 ※ 図示による
 ○

除去の方法
 ※ 湿潤化したのちに手ばらし
 ○ 湿潤剤等の噴霧、散水等により十分に湿潤化した状態で破砕
 ○

除去した石綿含有成形板の処分
 ○ 石綿含有せつこうボード
 ※ 埋立処分 (管理型最終処分場)
 ○ 石綿含有せつこうボードを除く石綿含有成形板
 ○ 埋立処分 (安定型最終処分場)
 ○ 中間処理 (溶融施設)

除去を行う石綿成形板の仕様

種 類	厚さ (mm)	種 類	厚さ (mm)
○ 化粧石膏ボード	○ 9.5	○ 石綿ロックウール	○
○ ビニル床タイル	○ 2.0	○ 石綿スレート (外装・内装)	○
○ 石綿保温材	○	○ 押出成形セメント板	○
○ けいそう土保温材	○	○ 化粧石綿セメント板	○
○ 塩基性硫酸マグネシウム保温材	○	○ 石綿セメントけい酸加シム板	○
○ けい酸カルシウム保温材	○	○ 化粧石綿セメント板	○
○ 親水性バーライト保温材	○	○ 吸音穴あき石綿セメント板	○
○ 繊維混入けい酸カルシウム板	○	○	○

8 断熱アスファルト防水改修工事 (9.2.3)

工法の種類 ○ P1B1 ○ T1B1
 ○ P2A1 ○ M3D1
 ○ P0D1 ○ M4D1

9 外断熱改修工事 (9.3.2) ~ (9.3.4)

断熱材の種類 ○ 厚さ (mm) ○

断熱材の施工 ○ 断熱材製造所の仕様による ○

不陸等の下地調整 ○ 外装材製造所の仕様による ○

外装材 ○ 取付ける (種類 防火性能)

外装材の施工 ○ 断熱材製造所の仕様による ○

既存外壁 ○ 仕上材の撤去 ()
 ○ 下地面の清掃 ()
 ○ 下地の欠損部の改修 (4.1.4 [外装改修工法の種類] による)

施工 ※ 断熱材製造所の仕様による ○
 通気層 ○ 有 (厚さ mm) ○ 無
 建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 ○

10 ガラス改修工事 (9.4.2) (9.4.3)

複層ガラス
 材料板ガラスの種類及び厚さの組み合わせ並びに複層ガラスの厚さ
 ※ 建具表による

断熱性による区分
 ○ T1 ○ T2 ○ T3 ○ T4 ○ T5 ○ T6

日射取得性、日射遮へい性による区分
 ○ G ○ S

乾燥気体の種類
 ○ 空気 ○ アルゴン

上記以外は、改修特記仕様書第5章 建具改修工事による

11 断熱・防露改修工事 (9.5.2) (9.5.3)

材 料 (種 類)	そ の 他
○ ビーズ法® リスフレフォーム保温材又は断熱材	断熱材厚さ
○ 押出型® リスフレフォーム保温材又は断熱材	○ mm
○ 硬質ウレタンフォーム保温材又は断熱材	JIS A 9511 接着剤の
○ フォルマフォーム保温材又は断熱材 (※ F☆☆☆☆ ○)	JIS A 9521 放散量 ※ F☆☆☆☆
○	○
断熱材現場発泡工法	※ A種 1 ○ A種 1H ○ B種 1 JIS A 9526 吹付け厚さ ○ mm

※ 接着剤の放散量は6-1揮発性有機化合物に記載のとおりとする
 ※ 特定フロンを使用とする。
 ○ 断熱材後張り工法

断熱材の種類 ○
 断熱材の厚さ (mm) ○

12 環境配慮改修工事

12 屋上緑化 (9.6.2) ~ (9.6.4)

樹木の種類、寸法、数量等 ※ 図示による ○ 下表による

種 類	寸 法	数 量	備 考

芝・地被類の種類
 ※ 図示による
 ○ コウライシバ (※ 目地張り ○)
 ○ ノシバ (※ 目地張り ○)
 ○ セダム類 (○ カット ○ ふるい ○ プラグ苗 ○)

材料 ○ 見切材 ○ 舗装材
 ○ 排水孔 ○ 排水材

かん水装置 ○ 設置する (種類)
 ○ 設置しない

支柱材 ○ 杉(形丸太) ○ 竹 ○ ひのき ○ から松(皮はぎ)
 形式 ※ 図示による ○
 防腐処理方法 ○ 加圧式防腐処理丸太 ○

幹巻用材料 ○ 幹巻き用テープ ○ わら及びこも

既存保護層の撤去 ○ 行う (工法は3.2.3 [既存保護層等の撤去] による)
 ○ 行わない

新植芝及び地被類の枯損償 ※ 引渡しの日から 1年 ○ 引渡しの日から 年

既存舗装の撤去及び再利用 ※ 図示による ○

13 透水性アスファルト舗装改修工事 (9.7.2) ~ (9.7.5) (9.7.9)

路床の材料

種 別	材 料	厚 さ (mm)
○ 盛土	○ A種 ○ B種 ○ C種	○ 図示
○ 凍上抑制層	○ 再生クラッシャーラン G ○ クラッシャーラン	○ 図示
○ フィルター層	○ 切込み砂利 ○ 砂 ○	○ 図示

路床安定処理 ○ 適用する ○ 適用しない
 路床安定処理の方法 ○ 添加材料による安定処理
 ・ 路床安定処理用添加材料
 ○ 普通ポルトランドセメント ○ 高炉セメント B種
 ○ フライアッシュセメント B種
 ○ 生石灰 (○ 特号 ○ 1号) ○ 消石灰 (○ 特号 ○ 1号)

試験
 砂の粒度試験 ○ 行う ○ 行わない
 路床土の支持力比 (CBR) 試験 ○ 行う ○ 行わない
 現場 CBR 試験 ○ 行う ○ 行わない
 路床締固め度の試験 ○ 行う ○ 行わない

路盤
 路盤の厚さ ○ 図示 ○

路盤材料

種 別	材 料
○ 砕石	○ クラッシャーラン
	○ 粒度調整砕石
再生材	○ 再生クラッシャーラン
	○ 再生粒度調整砕石
	○ クラッシャーラン鉄鋼スラグ
	○ 粒度調整鉄鋼スラグ
	○ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ

舗装の構成 ○ 図示による ○
 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ○ 行う ○ 行わない

舗装の平坦性 ※ 著しい不陸がないもの ○

12 環境配慮改修工事

1 一般事項 (9.1.1)

○ 石綿含有吹付け材除去工事
 ○ 除去工法 ()
 ○ 封じ込み工法 ()
 ○ 囲い込み工法 ()
 ○ 石綿含有保温材除去工事
 ○ 石綿含有成形板除去工事

2 仕上げ工事 (9.1.1)

石綿含有建材除去後の仕上げ工事
 ※ 図示による ○

3 施工調査等 (9.1.1)

施工調査
 ○ 行う
 石綿の除去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を下記により行い、結果を図面により監督職員に提出する。
 調査範囲 ※ 図示による ○

調査事項
 ※ 石綿使用部位の確認
 ※ 石綿層の厚さの確認
 ※ 施工範囲と工事管理区分の確認
 ※ 更衣施設等の仮設計画
 ※ 廃棄物等の搬出方法
 ○ 行わない

石綿含有分析方法
 ○ 行う (分析結果を監督職員に提出する)
 ※ JIS A 1481に基づくこと

材 料 名	定 性 分 析	定 量 分 析
	○ (箇所数)) ○ (箇所数))	
	○ (箇所数)) ○ (箇所数))	
	○ (箇所数)) ○ (箇所数))	
	○ (箇所数)) ○ (箇所数))	

サンプル数 1箇所あたり3サンプル
 ○ 行わない
 既存の石綿含有建材の調査報告書の貸与 ○ あり ○ なし

12 環境配慮改修工事

5 石綿含有吹付け材の除去 (9.1.3)

6 石綿含有保温材の除去 (9.1.4)

12 環境配慮改修工事

11 断熱・防露改修工事 (9.5.2) (9.5.3)

断熱材
 打込み工法
 ○ ビーズ法® リスフレフォーム保温材又は断熱材
 ○ 押出型® リスフレフォーム保温材又は断熱材
 ○ 硬質ウレタンフォーム保温材又は断熱材 JIS A 9511
 ○ フォルマフォーム保温材又は断熱材 JIS A 9521 放散量 ※ F☆☆☆☆
 (※ F☆☆☆☆ ○)

断熱材現場発泡工法
 ※ A種 1 ○ A種 1H ○ B種 1 JIS A 9526 吹付け厚さ ○ mm
 (難燃性を有するものとする)

※ 接着剤の放散量は6-1揮発性有機化合物に記載のとおりとする
 ※ 特定フロンを使用とする。
 ○ 断熱材後張り工法

断熱材の種類 ○
 断熱材の厚さ (mm) ○

12 環境配慮改修工事

13 透水性アスファルト舗装改修工事 (9.7.2) ~ (9.7.5) (9.7.9)

路床の材料

種 別	材 料	厚 さ (mm)
○ 盛土	○ A種 ○ B種 ○ C種	○ 図示
○ 凍上抑制層	○ 再生クラッシャーラン G ○ クラッシャーラン	○ 図示
○ フィルター層	○ 切込み砂利 ○ 砂 ○	○ 図示

路床安定処理 ○ 適用する ○ 適用しない
 路床安定処理の方法 ○ 添加材料による安定処理
 ・ 路床安定処理用添加材料
 ○ 普通ポルトランドセメント ○ 高炉セメント B種
 ○ フライアッシュセメント B種
 ○ 生石灰 (○ 特号 ○ 1号) ○ 消石灰 (○ 特号 ○ 1号)

試験
 砂の粒度試験 ○ 行う ○ 行わない
 路床土の支持力比 (CBR) 試験 ○ 行う ○ 行わない
 現場 CBR 試験 ○ 行う ○ 行わない
 路床締固め度の試験 ○ 行う ○ 行わない

路盤
 路盤の厚さ ○ 図示 ○

路盤材料

種 別	材 料
○ 砕石	○ クラッシャーラン
	○ 粒度調整砕石
再生材	○ 再生クラッシャーラン
	○ 再生粒度調整砕石
	○ クラッシャーラン鉄鋼スラグ
	○ 粒度調整鉄鋼スラグ
	○ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ

舗装の構成 ○ 図示による ○
 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ○ 行う ○ 行わない

舗装の平坦性 ※ 著しい不陸がないもの ○

工事名	材料名	商品名	会社名	備考	工事名	材料名	商品名	会社名	備考	工事名	材料名	商品名	会社名	備考	工事名	材料名	商品名	会社名	備考					
屋根工事	金属屋根		元旦ビューティー工業		内・外装工事	点検口		ナカ工業		内・外装工事			天竜木材		雑工事	キッチン			サンウエーブ					
			淀川製鋼所					日本ビット					大建工業						クリナップ					
			三晃金属工業					マンテン											TOTO					
			セキノ興産																					
	非金属屋根		タキロン			タイル工事	タイル		INAX								洗面台			TOTO				
			三菱樹脂						TOTO												INAX			
			ダイブラ						ダントー												クリナップ			
	シート防水		早川ゴム			石工事	石		関ヶ原石材								便器			TOTO				
			日新工業						安藤石材店												INAX			
			ダイフレックス						矢橋大理石												KAKUDAN			
	種			積水化学工業			建具工事	アルミニウム製建具			三協立山アルミ		内装工事						化粧鏡			TOTO		
				松下電工							トステム												INAX	
			東洋化学					YKK										アサヒ衛陶						
基礎工事					木製建具				末永製作所		内装工事				イトーキ		タオル掛・紙巻器			TOTO				
															西尾家具						INAX			
									大建工業	既製品の場合					ホートク						アサヒ衛陶			
金属工事	製作金物		中村益造商店		ガラス				旭ガラス		内・外装工事						ウォールキャビネット			TOTO				
			中村金属製作所						日本板ガラス												INAX			
			竹内金物						セントラルガラス												クリナップ			
	グレーチング		カネソウ			建具金物				ユニオン									室内照明器具			松下電工		
			ダイクレ							美和ロック													東芝ライテック	
			アトラス							ゴール													ヤマギワ	
	既製品手摺			ナカ工業		吹付工事			近住化学			内・外装工事					ユニットバス			TOTO				
				アトラス					エスケー化研												INAX			
				YM工業					アイカ												クリナップ			
	アルミパネル			三協立山アルミ			内装工事			菊水化学工業								トイレブース・間仕切			小松ウォール			
				トステム						吉野石膏												文化シッター		
				YKK						ロンシール工業												コマニー		
	軽鉄下地			マンテン					ワーロン								ロールブラインド			立川プラインド工業				
				三洋工業					日東紡												ニチベイ			
				日本フェラス工業					ニチラス												トソー			
	ビクチャーレール			フクビ化学工業				東リ								カーテン			サンゲツ					
				中村多喜弥商店				ABC商会												住之江織物				
				大建工業				川島織物												川島織物				
	カーテンレール			住之江織物				大建工業								床暖房			松下電工					
				川島織物				フクビ化学工業												大建工業				
				フクビ化学工業				ブリジストン												三菱電機				
								タジマ												日本コスモテック				
							東レ																	
				サンゲツ				大日本印刷																
			SINCOL				アイカ工業	タフウォールS																
			朝日ウッドテック				朝日ウッドテック																	

注記 対象となる工事種目のみ参考にしてください

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

1:1000 SCALE	SCALE	SCALE	SCALE
メーカーリスト			
DW.	CK.	NO.	DATE
		A-11	03-09

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

設計概要		外部仕上表			
工事名称	令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校トイレ改修工事	屋根		雨樋	
工事場所	京都府船井郡京丹波町大朴段ノ垣内6番地	軒裏		ヒサシ	
主要用途	中学校	外壁	2F	犬走り	
用途地域	指定無し		1F	ポーチ	
工事期間	工事請負契約締結日～令和 年 月 日 (ただし、検査・手直し等含む)	基礎・中木		スロープ	
工事規模	鉄筋コンクリート造3階建 延面積1747.8㎡	建具・硝子			
工事種別	改修工事	注記事項		防火・耐火関係の事項	その他
工事範囲	本設計図書に示したる全ての範囲 [建築・電気・機械]				

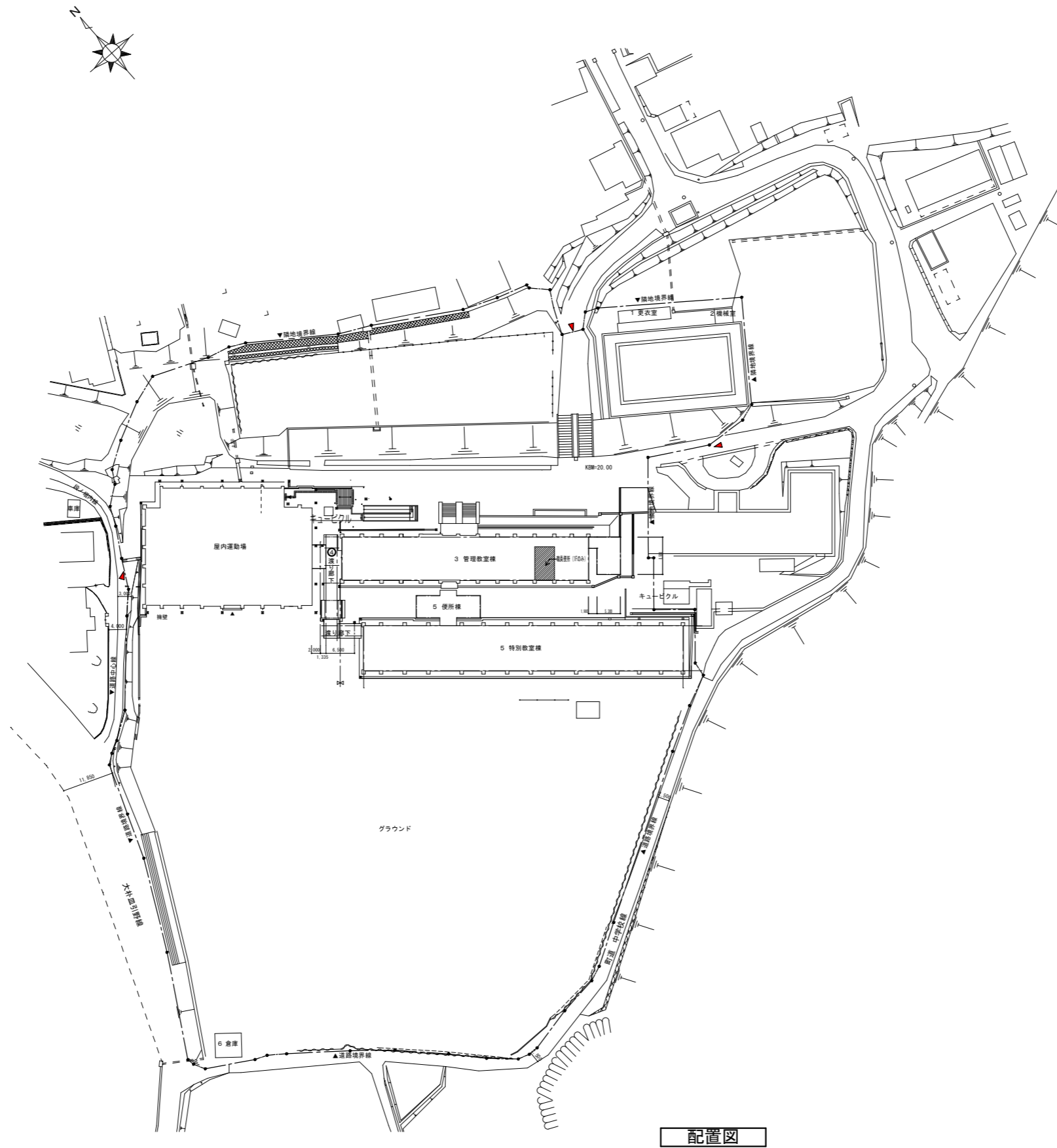
内部仕上表																
階	室名	床		床高	巾木	腰壁		腰高	壁		天井		天井高さ	廻り縁	備考	
		施工範囲	仕上			施工範囲	仕上		施工範囲	仕上	施工範囲	仕上				
1階のみ	改修後 職員用トイレ	全面 改修	長尺塩ビシートt=2.0(抗菌・防汚仕様)、一部ステンレス見切#30 下地:モルタル床t=20(現状仕上)			全面 改修	メラミン化粧合板t=3 下地:シーリング石膏ボード(GB-S) t=12.5+LG665 腰壁天端:密木修正材t=25 SOP塗		全面 改修	ビニルクロス貼 下地:シーリング石膏ボード(GB-S)t=12.5+LG665	全面 改修	化粧石膏ボード厚t=9.5 900角 既存天井材撤去し、天井下地は既存のものを使用する	F.L.+2505	塩ビ床目 既存廻り縁撤去	トイレブース TB-GPR、カームドア(小松ウオール)同等品可	
	改修前 職員用トイレ	解体 無し	磁器モザイクタイル貼		ソフト巾木6.0	解体 無し	モルタル塗壁DP塗		解体 無し	モルタル塗壁DP塗	解体 無し	ケイカル板t=40P塗			旧トイレブース撤去	
	改修後 職員用洗面所	改修 なし	現状のまま		現状のまま		改修 有り	DP塗装		改修 有り	DP塗装	改修 有り	DP塗装			大型化粧鏡取替
	改修前 職員用洗面所	解体 無し	長尺塩ビシート				解体 無し			解体 無し		解体 無し				

特記事項	令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図				設計・監理	一級建築士事務所
	SCALE	SCALE	SCALE	SCALE	野中建築設計事務所	
	設計概要	外部仕上表	内部仕上表		1級建築士第147931号 野中健一	
DW.	CK.	NO.	DATE	A-12	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408	
			03-09			



附近見取図

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図 1:800 SCALE SCALE SCALE SCALE				設計・監理 一級建築士事務所 野中建築設計事務所 1級建築士第147931号 野中健一
附近見取図 DW.	CK.	NO. A-13	DATE 03-09	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



配置図

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

1:800 SCALE SCALE SCALE SCALE

配置図

DW. CK. NO. DATE

A-14 03-09

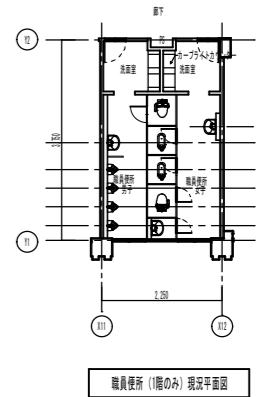
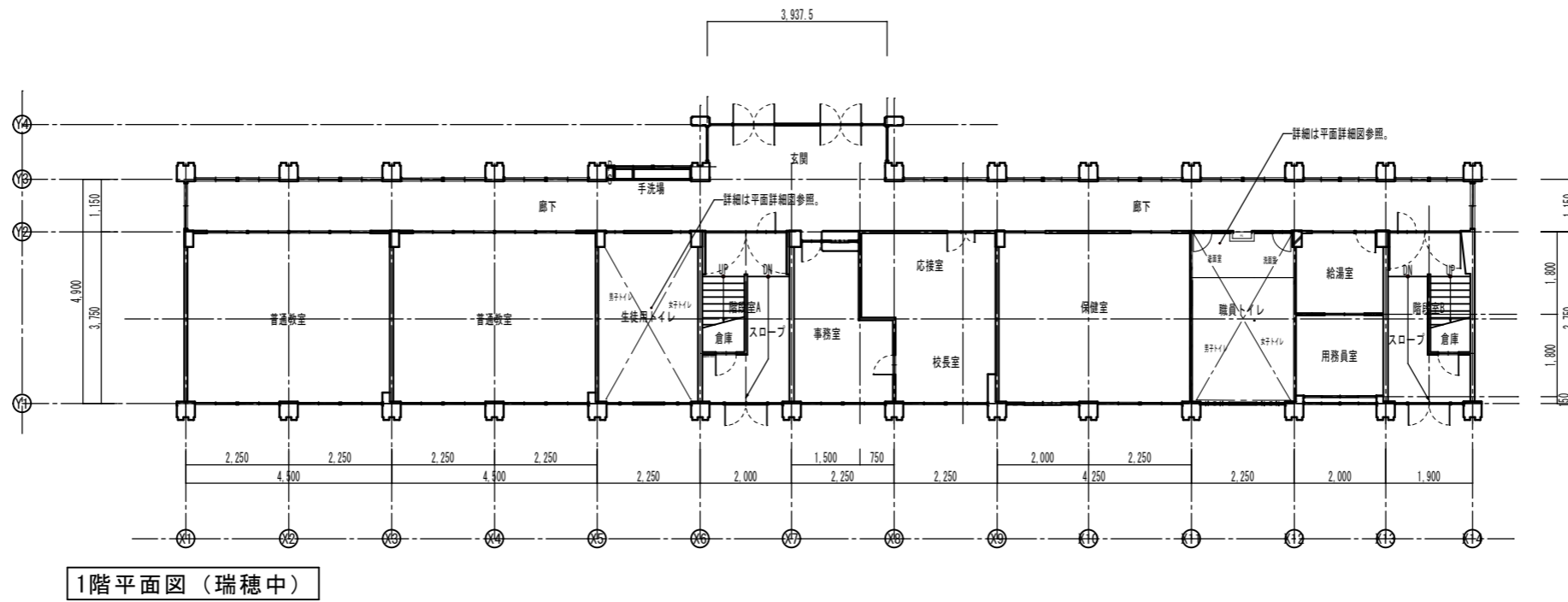
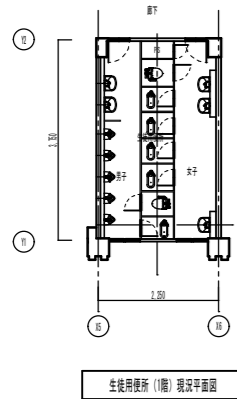
設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

校舎1階平面図

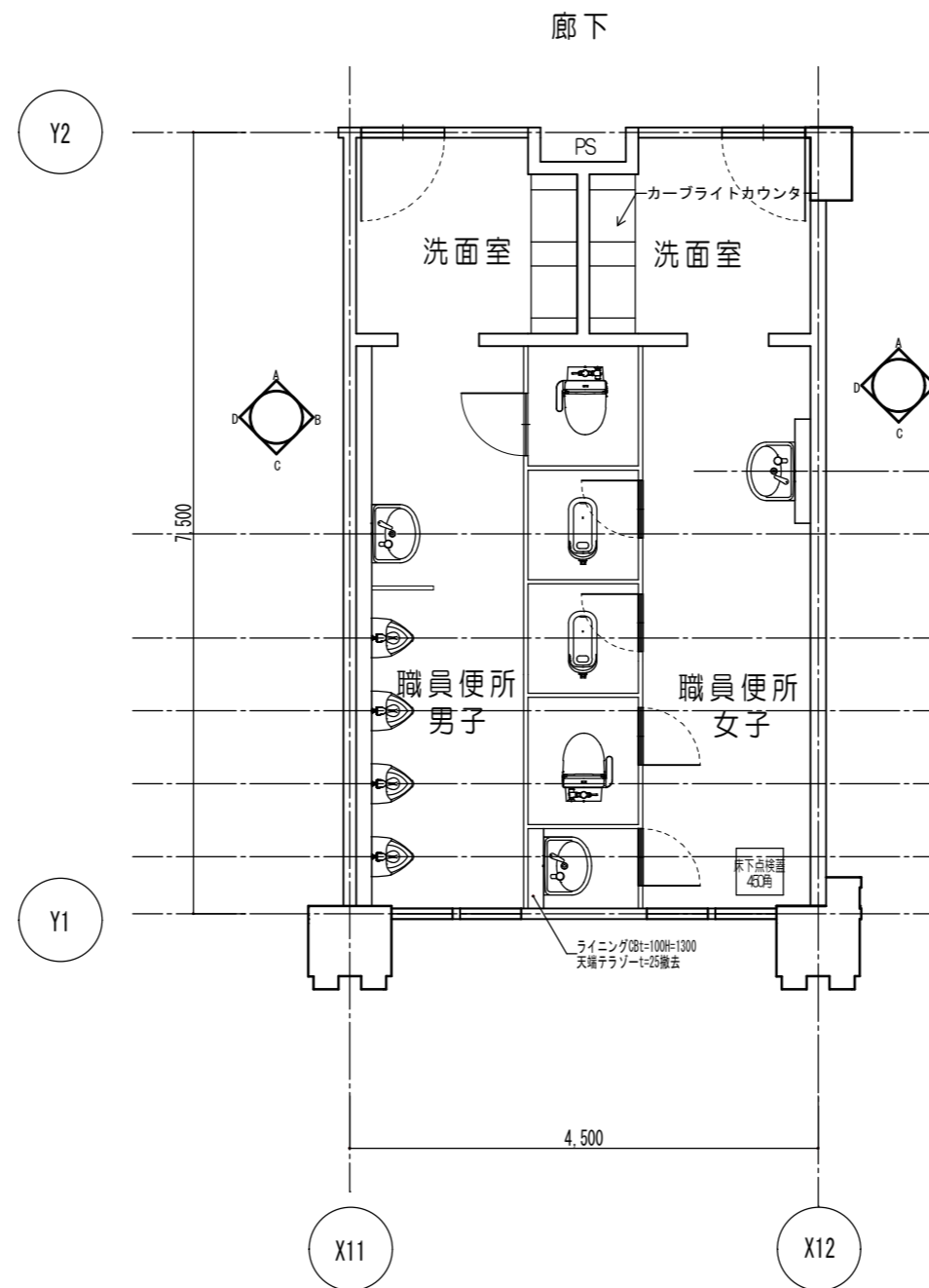
DW. CK. NO. A-15 DATE 03-09

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

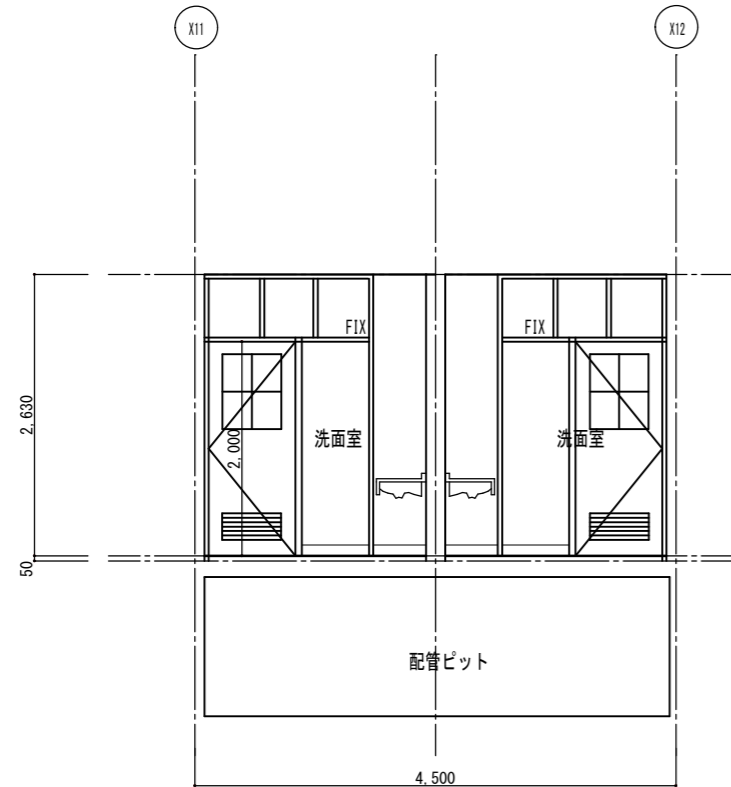
〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



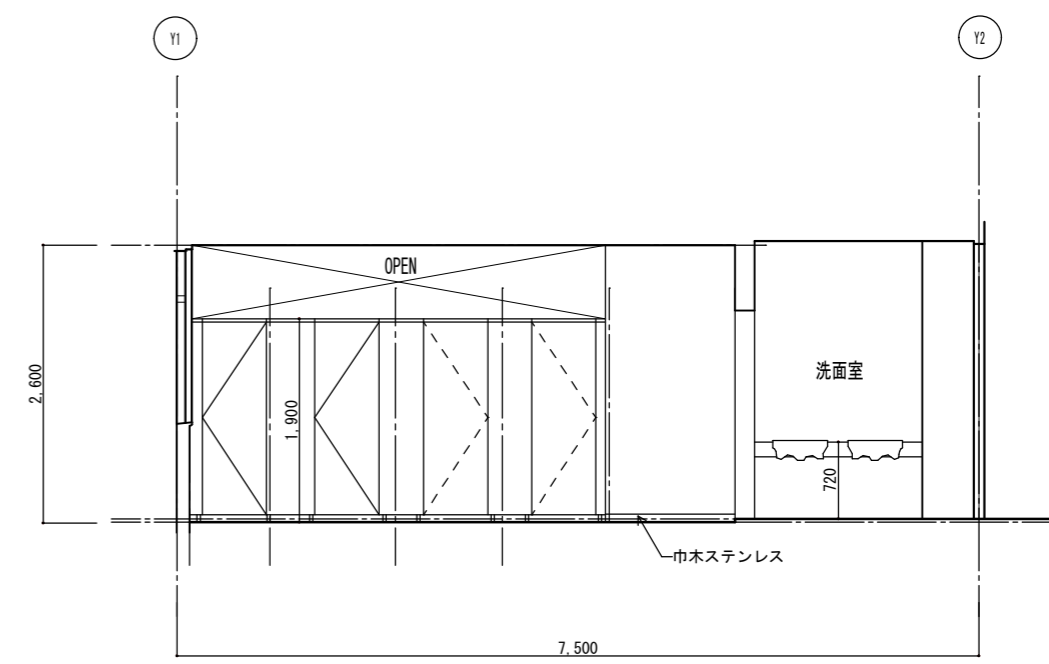
撤去内容
衛生間機器
照明、換気機器
トイレブース
天井材(下地共)

職員便所 (1階のみ) 瑞穂中学校

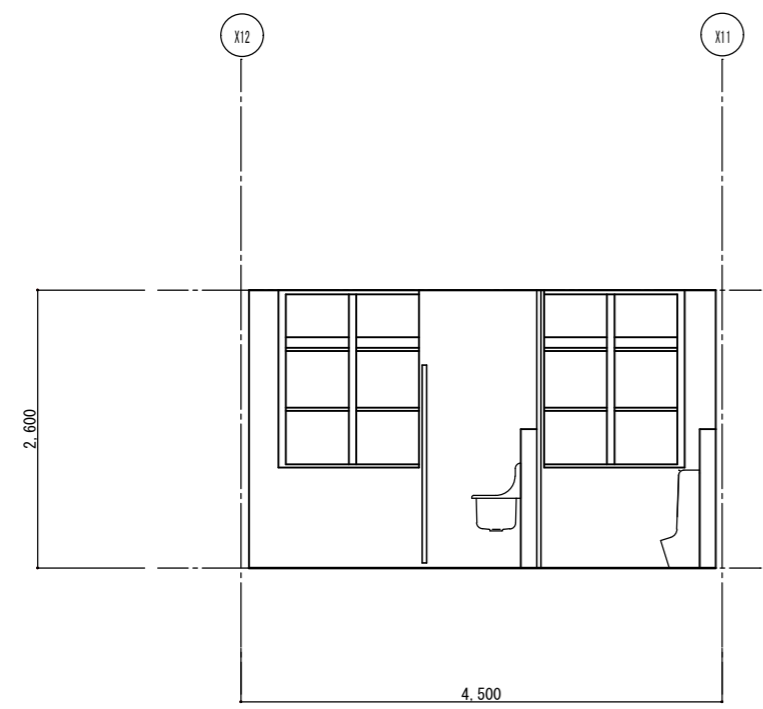
令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所
改修前トイレ1階~3階(生徒用・職員用)平面図				野中建築設計事務所
DW.	CK.	NO. A-16	DATE 03-09	1級建築士第147931号 野中健一
				〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL. 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



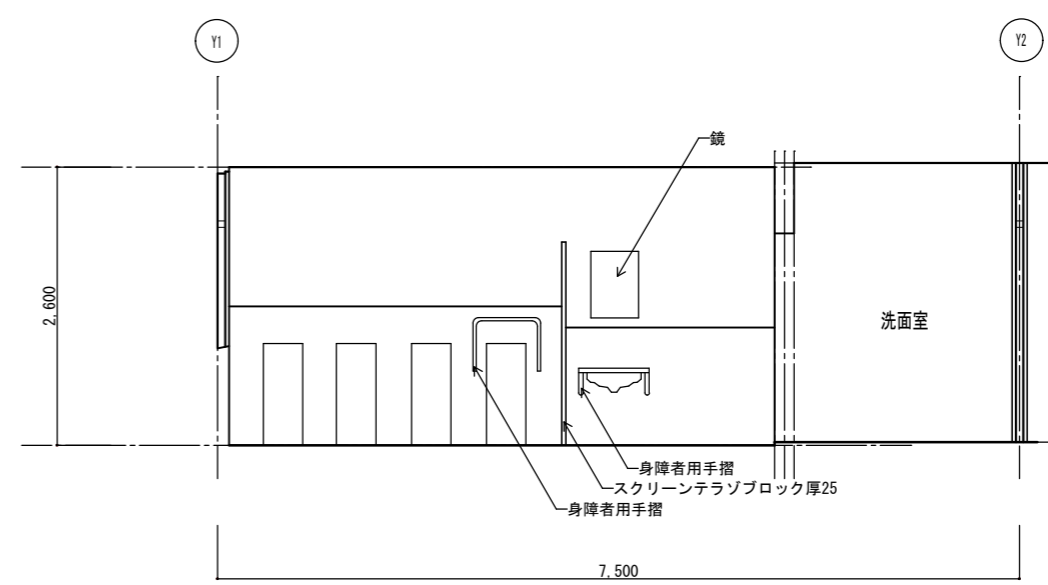
職員便所男女共通洗面室A面



職員女子便所D



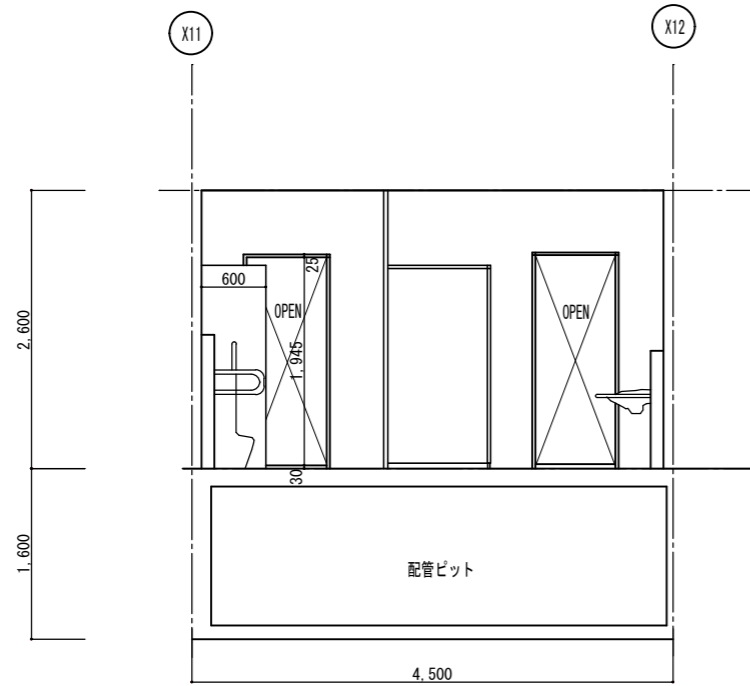
職員便所男女共通洗面室C面



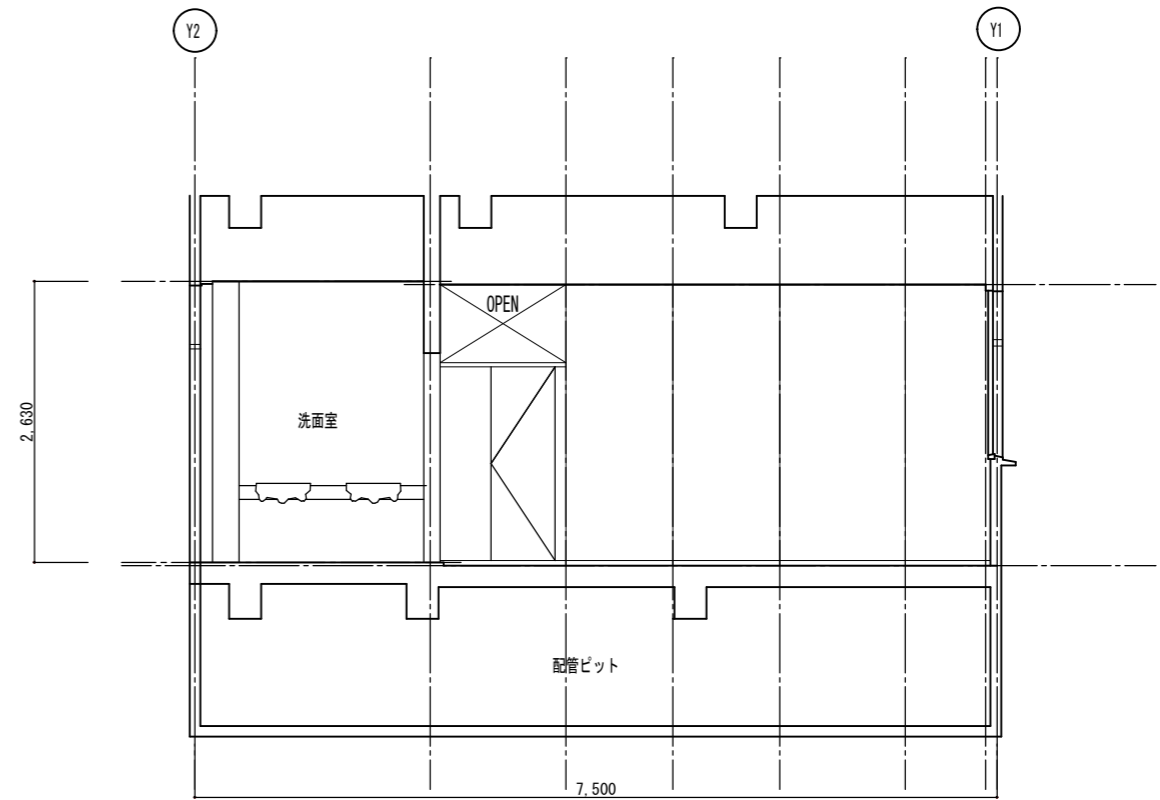
職員男子便所D

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図			
1:50 SCALE		SCALE	
改修前トイレ1階(職員用)展開図1			
DW.	CK.	NO. A-17	DATE 03-09

設計・監理 一級建築士事務所
野中建築設計事務所
 1級建築士第147931号 野中健一
 〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



職員便所男女共通A面



職員男子便所B面

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

改修前トイレ1階（職員用）展開図2

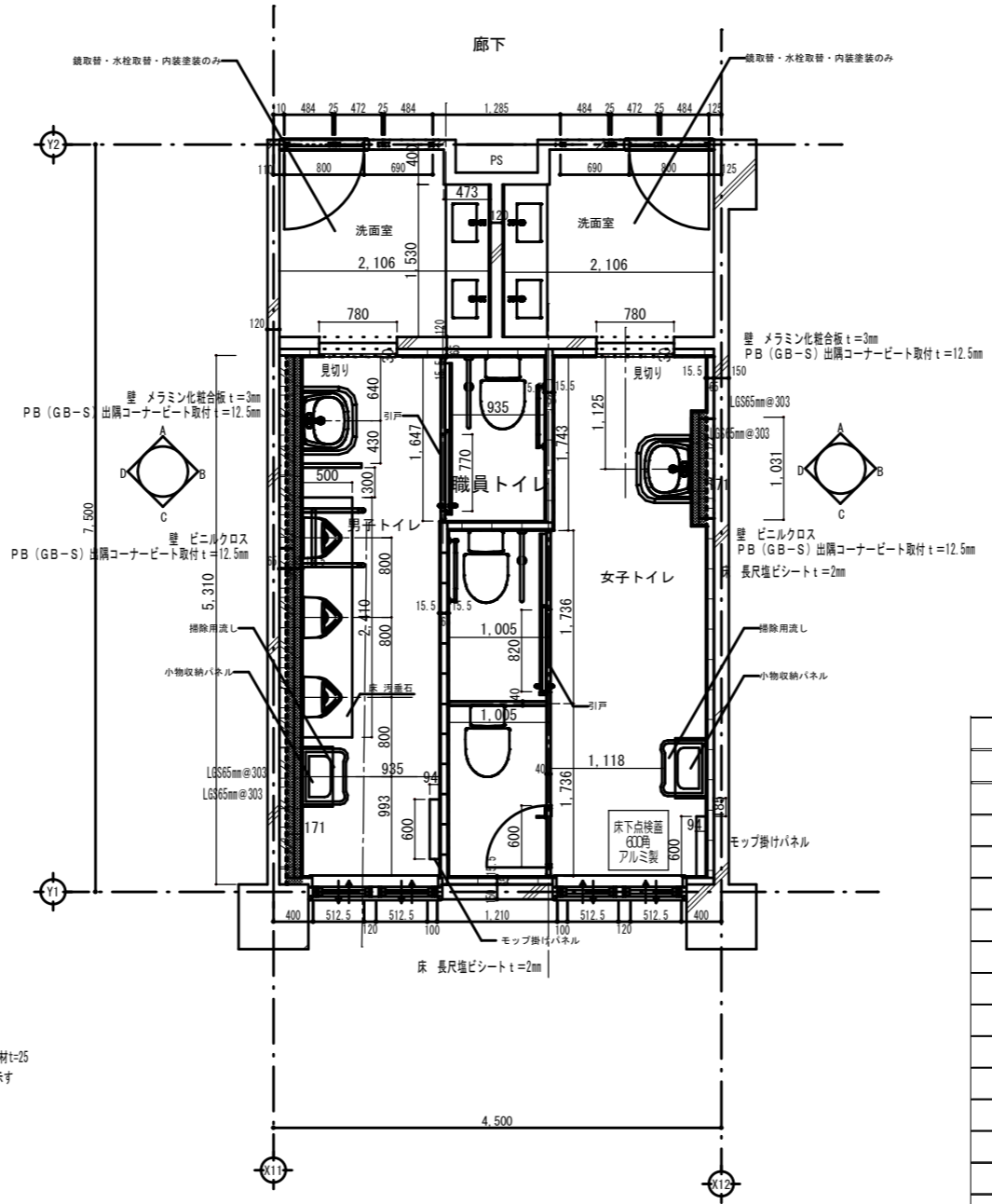
DW.	CK.	NO.	DATE
		A-18	03-09

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



職員トイレ平面詳細図 1/50

機器参考品番			
機器	品番	メーカー	備考
洋便器	CS597BS	TOTO	蓋なし
タンク	SH596BAYR (蓋固定)	TOTO	
ウォシュレット	TCF5534AU	TOTO	
紙巻器	YH702	TOTO	
小便器	UFS900R	TOTO	
手洗器	L210C	TOTO	水栓はレバーハンドル、自動水栓各1とする
掃除用流し	SK22A	TOTO	
小物収納パネル	UTR421S	TOTO	
モップ掛けパネル	UTR422S	TOTO	
L型手摺	T114CL9R	TOTO	
P型手摺	T114CP22R	TOTO	
小便器用手摺	T114CU22R	TOTO	
洗面器・手洗器用手摺	2460-34	KAKUDA I	
鏡	YM4560F	TOTO	450×600 (生徒用)
大型化粧鏡 (瑞穂中職員トイレ)	フリーサイズ大型鏡	TOTO	1,550×1,050

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

改修後トイレ1階 (職員用) 平面詳細図

DW.	CK.	NO.	DATE
		A-19	03-09

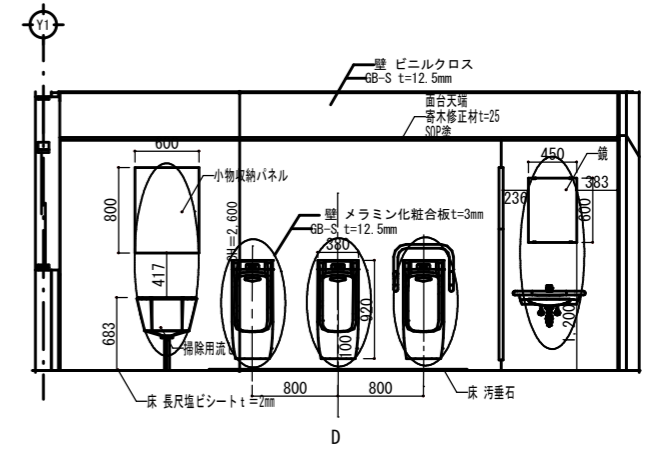
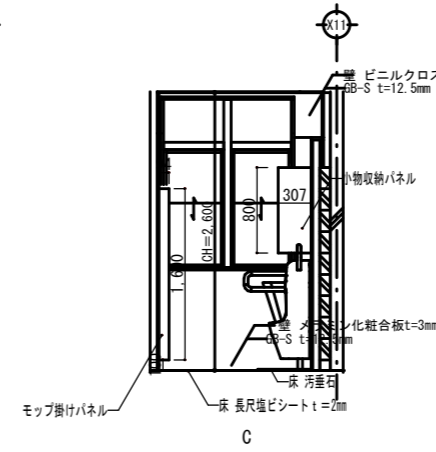
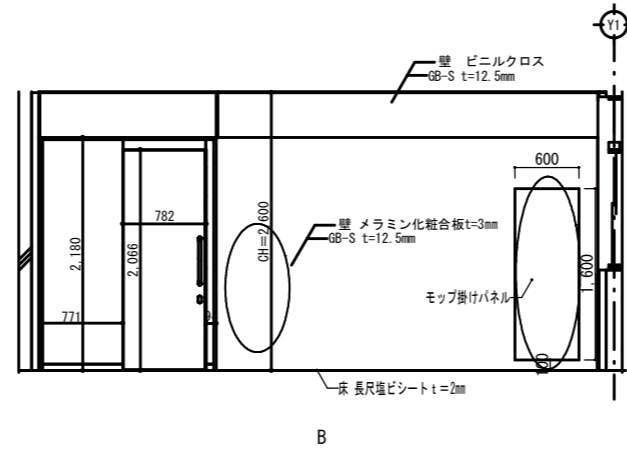
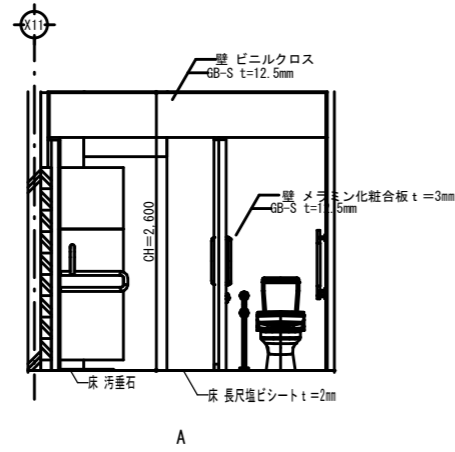
設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

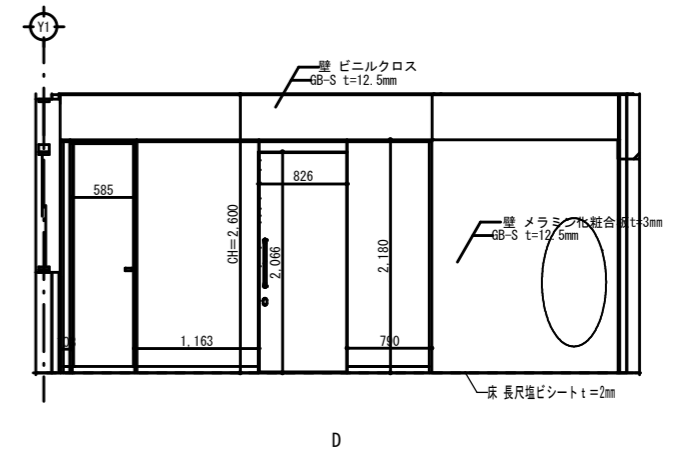
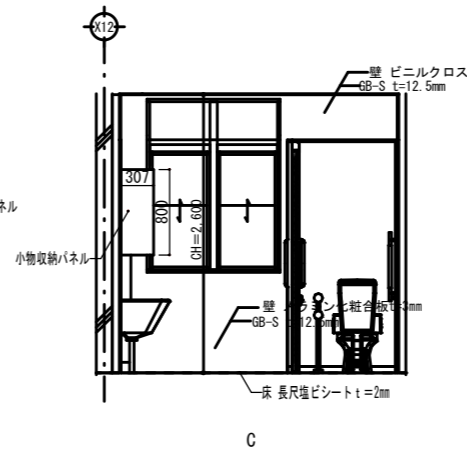
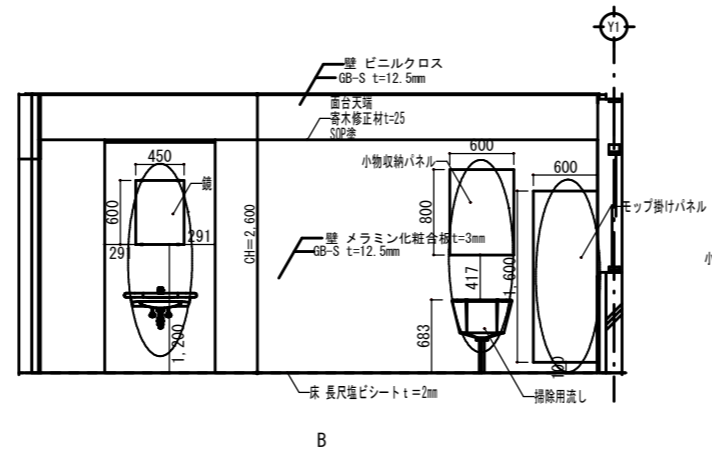
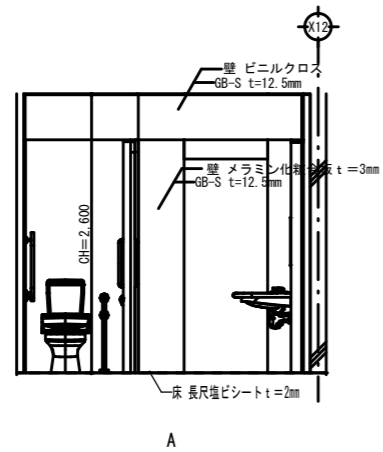
天井	化粧石膏ボード t=9.5mm
廻縁	塩ビ製廻縁
壁	メラミン化粧合板 t=3mm
	ビニルクロス
巾木	ソフト巾木H=60
床	長尺塩ビシート t=2mm
備考	



瑞穂中職員男子トイレ1階 展開図



天井	化粧石膏ボード t=9.5mm
廻縁	塩ビ製廻縁
壁	メラミン化粧合板 t=3mm
	ビニルクロス
巾木	ソフト巾木H=60
床	長尺塩ビシート t=2mm
備考	



瑞穂中職員女子トイレ1階 展開図

注記 GB-Sの出隅にはジョイナーを取り付けること

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

1:50 SCALE SCALE SCALE SCALE
改修後トイレ1階(職員用)展開図

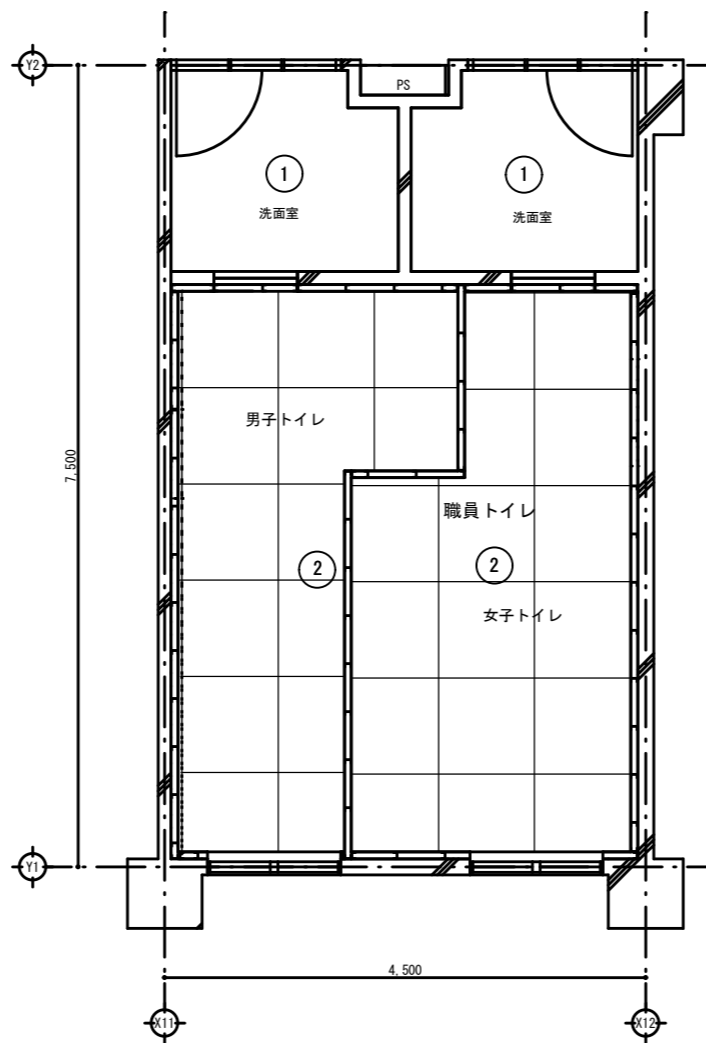
DW. CK. NO. A-20 DATE 03-09

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



天井伏図仕上表	
①	現状仕上材DP再塗装
②	化粧石膏ボード9.5 900角

瑞穂中職員トイレ天井伏図 1/50

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

1:50 SCALE SCALE SCALE SCALE

改修後トイレ1階(職員用)天井伏図

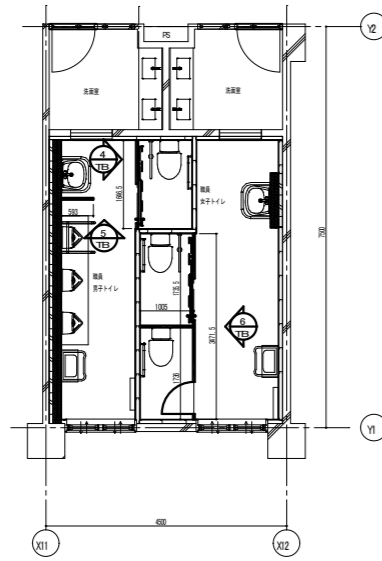
DW.	CK.	NO. A-21	DATE 03-09
-----	-----	-------------	---------------

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

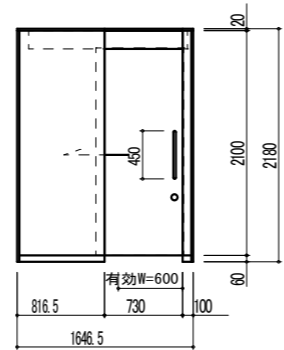
1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

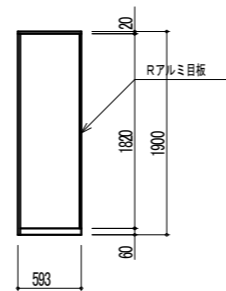


職員用建具配置図 1/100

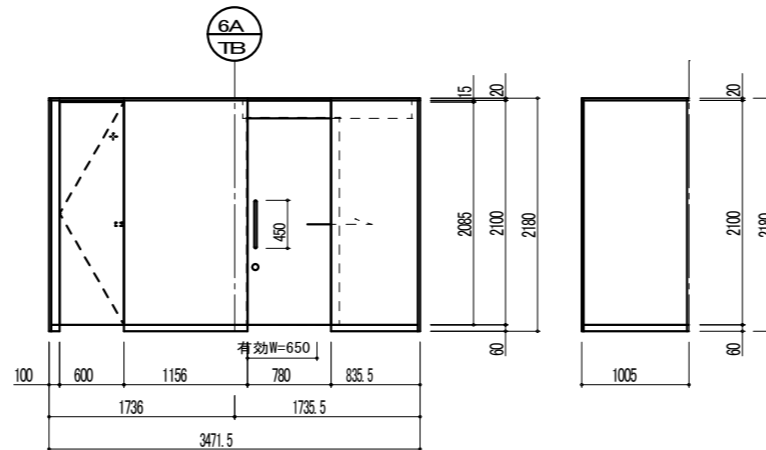
4
TB



5
TB



6
TB



TB姿図 1/50

◇仕様表

(小松ウオール サニティTB-GPRタイプ同等品可)

項目	部材	材 料 (板厚mm)
パネル	パネル表面材	高圧メラミン樹脂化粧板(下地:パーティクルボード9T)
	芯 材	ペーパーコア
	目板/戸当り	アルミ押出型材 (アルマイトクリア処理仕上)
付属品	巾木/床レール	ステンレス 0.8mm (ヘアライン仕上)
	笠木	アルミ押出型材 (アルマイトクリア処理仕上)
	壁面レール/コーナーカバー	アルミ押出型材 (アルマイトクリア処理仕上)
	ヒンジ	中心吊グレビティヒンジ
	ロック	スライドロックSK
	その他金物	戸当り帽子掛けSK
	カーム	パネル表面材(ドアパネル)
	芯 材(ドアパネル)	ペーパーコア
	フロントゴム	ポリ塩化ビニル(PVC)
	ベース板	亜鉛めっき鋼板2.3mm
	点検カバー	冷間圧延鋼板1.2mm (焼付塗装仕上)
	ロック	非常解錠付樹脂製サムターン(SLB-203W)
	引手	ステンレス鏡面ハンドルφ25

注記 LG865スタッド#303とする

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

設計・監理 一級建築士事務所

1:100 SCALE 1:50 SCALE 1:100 SCALE

野中建築設計事務所

改修後建具配置図 改修後建具表各階共通 改修後TB姿図

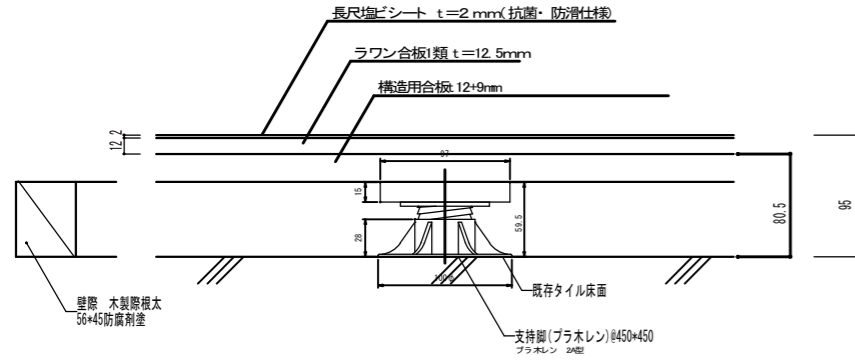
1級建築士第147931号 野中健一

D.W. CK. NO. DATE

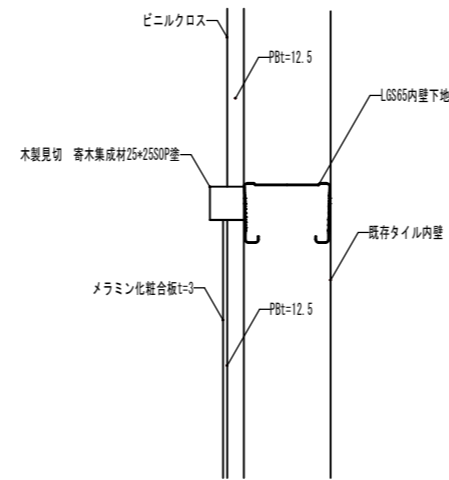
〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

A-22

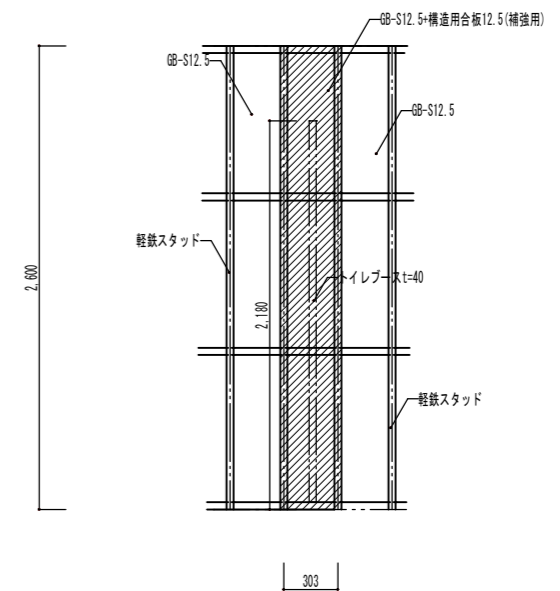
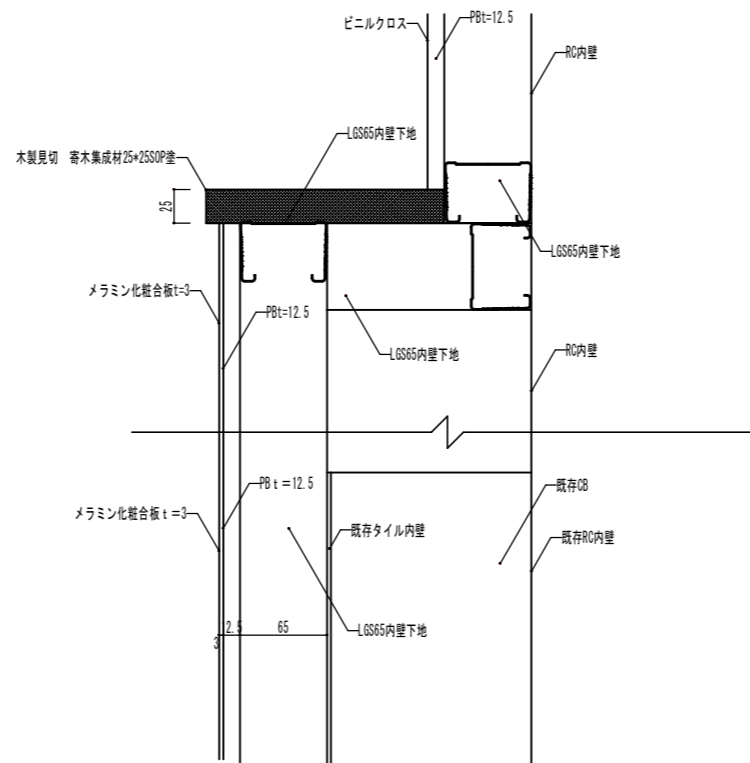
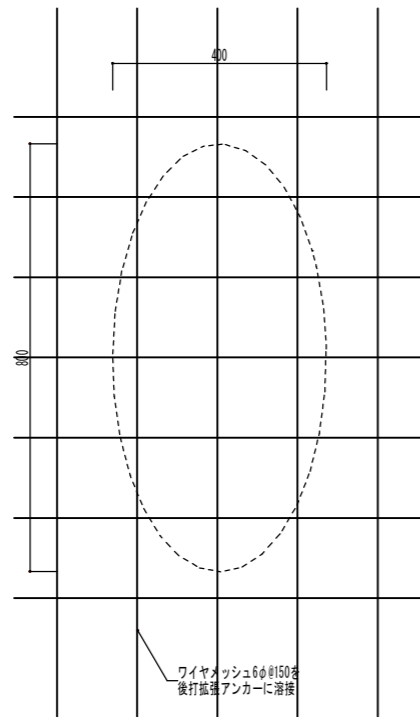
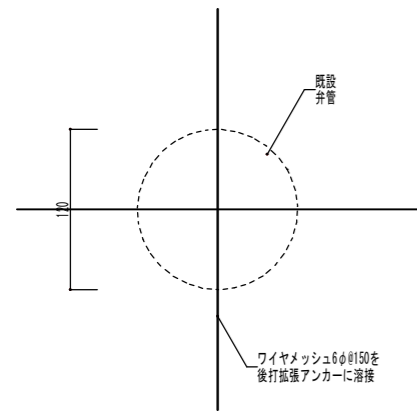
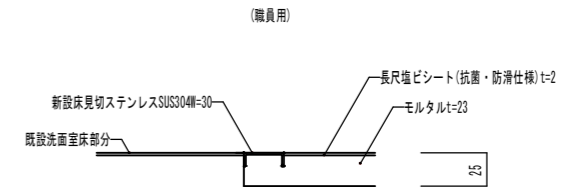
03-09



注記 現状の高さに合わせ



注記 木製見切の巾は、既存タイル貼面台の出巾に応じて変化させる。平面詳細図参照



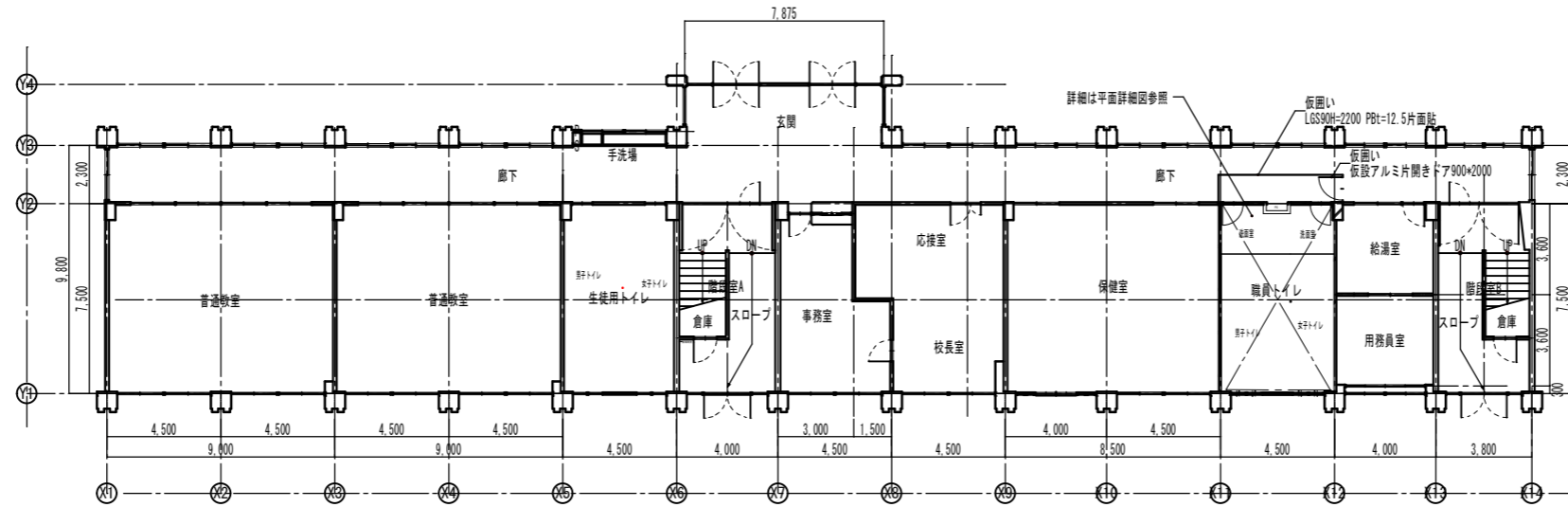
特記事項

部分詳細図	DW.	CK.	NO.	DATE
			A - 23	03-09

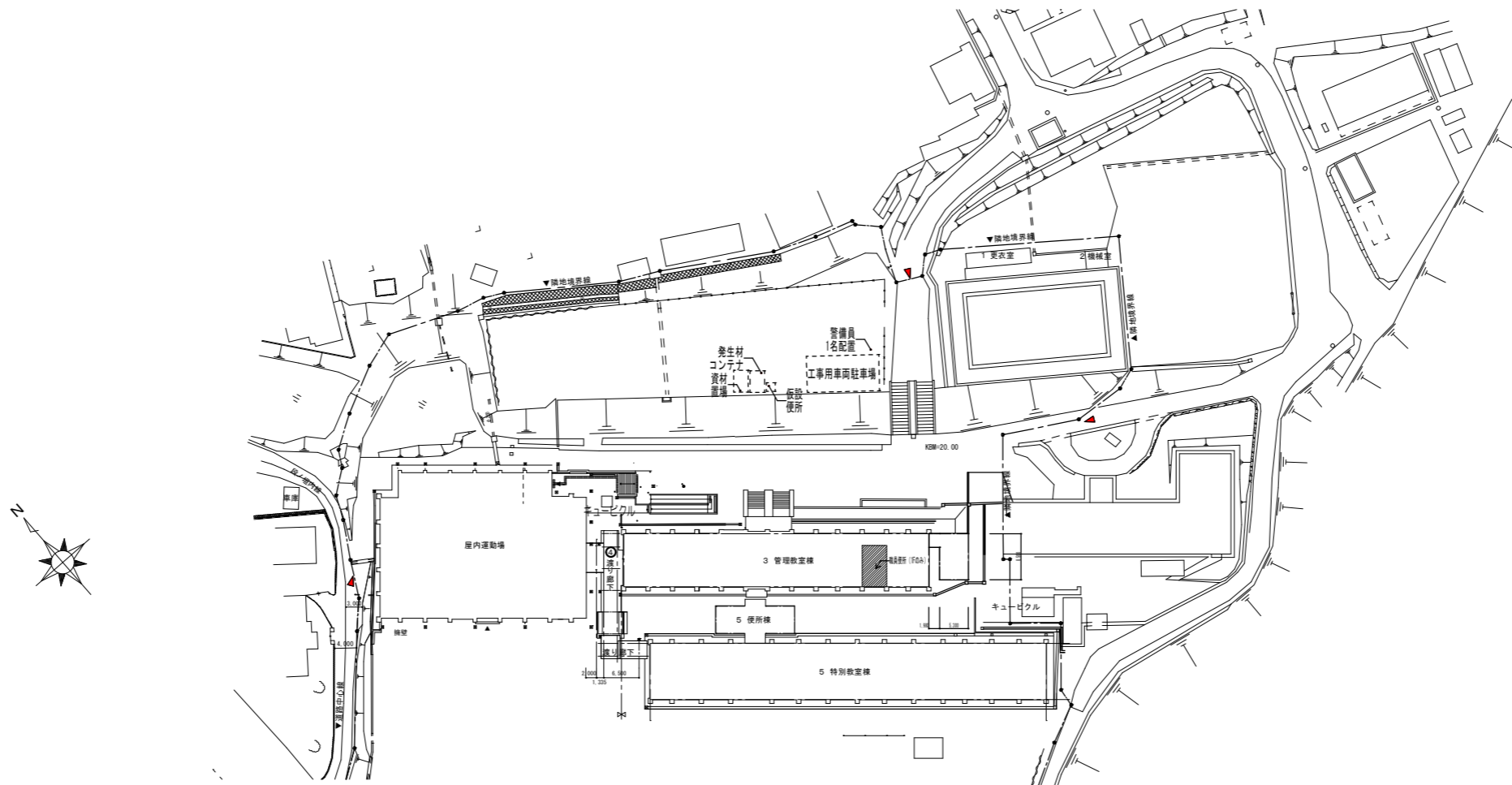
令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

SCALE	SCALE	SCALE	SCALE
-------	-------	-------	-------

設計・監理 一級建築士事務所
野中建築設計事務所
 1級建築士第147931号 野中健一
 〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



管理教室棟 1階仮設計画図



外部仮設計画図

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図			
1:200 SCALE		1:600 SCALE	
1階仮設計画図		屋外仮設計画図	
DW.	CK.	NO. A-24	DATE 03-09

設計・監理 一級建築士事務所
野中建築設計事務所
1級建築士第147931号 野中健一
〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

【工事概要】

Table with 2 columns: 1 工事場所 (Construction Site), 2 建物概要 (Building Overview). Includes details like 船井郡京丹波町大朴段ノ垣内6番地 and 京丹波町立瑞穂中学校及び和知中学校トイレ改修工事実施設計図.

3 工事科目 (Construction Items)

Table with 2 columns: 工事科目 (Construction Item), 建物名称 (Building Name). Lists various electrical and construction items with checkboxes for completion.

【特記事項】

- 1 一般事項 (General Items)
1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁官庁官庁の「公共建築工事標準仕様書...」
2) 工事種目に機械設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。

Main specification table with 2 columns: 項目 (Item), 特記事項 (Remarks). Contains detailed technical requirements for equipment, materials, and construction methods.

Table with 2 columns: 項目 (Item), 特記事項 (Remarks). Contains detailed technical requirements for equipment, materials, and construction methods.

Table with 2 columns: 項目 (Item), 特記事項 (Remarks). Contains detailed technical requirements for equipment, materials, and construction methods.

Project information block including: 令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図, 野中建築設計事務所, 1 級建築士 147931号 野中健一, 〒622-0014 京都府南丹市園部町上町南2-20

章	項目	特記事項	事項
電力貯蔵設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
	○直流電源装置	用途 ○建築基準法用 ○消防法用 ○受変電設備専用 その他 ○過放電防止保護装置(直流不足電圧継電器)の設定電圧は、90Vとする。	
発電機	○交流無停電電源装置(UPS)	用途() 方式 ○一般形 ○簡易形	
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
発電機	○形式	○オープン形 ○簡易形 ○キュービクル	
	○連続運転可能時間	○10時間(乙) ○72時間(甲) ○	
発電機	○発電機	電気方式 三相3線式 電圧 0210V ○6.6kV ○415V 定格出力 kVA以上 力率 0.8	
	○原動機	種別 ○ガスタービン ○ディーゼル機関 ○ガスエンジン ○マイクロガスタービン ○燃料電池 ○コージェネレーション 定格出力 kW(PS)以上 始動方式 ○電気式 ○空気式 冷却方式 ○ラジエーター式 ○水循環式 現地負荷試験 ○行う ○行わない	
発電機	○燃料	種類 ○重油 ○軽油 ○灯油 ○ガス() ○燃料小出槽 注 ○主燃料槽 注	
	○監視方式	○警報盤による代表監視 ○中央監視盤による監視	
設備	○太陽光発電装置	太陽電池 アレイ 設置可能建築面積 系統連系 ○受動 ○能動 パワコンディショナ出力 相 線式 V kW以上 逆潮流 ○有 ※無 交流出力電圧 ○100V ○200V 出力電気方式 ○三相3線式 ○単相3線式 ○単相2線式	
	○外部移報	○有 ○無	
通信機設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線	
構内交換設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
	○保安器用接地	○本工程 ○別途工事	
情報表示設備	○形式	○電子交換機 ○ボタン電話装置	
	○工事種類	○マルチサイン装置 ○出退表示設備 ○時刻表示設備	
情報表示設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
	○親時計及び付属装置	OCR -P M OCW -P M ○プログラムタイマ(○カード式 ○キー式 ○)	
情報表示設備	○子時計	特記なきものは ○SWA ₃₃ -G ₂ B ₂ ○	
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
設備音響	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線	
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
拡声設備	○増幅器	用途 ○全館放送用(○一般放送 ○非常放送) ○ローカル放送用 ○自動放送はアッテネーターを経由した回路とする。	
	○スピーカ	特記なきものは ○SC ₅ H ₁ -1V ₃ -M ○	
誘導支援設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
	○工事内容	○音声誘導装置 検出方式(○磁気式 ○無線式 ○画像認識) ○インターホン ○電話式 ○相互式 ○テレピンインターホン ○親機に子機カメラ角度調整機能(上下)を設ける。 ○トイレ等呼出し装置 ○1室 ○3室 ○5室 ○ 呼出しボタン ○壁付ボタン(フルスイッチの長さは0.2m以上とする) ○壁付押しボタン(押しボタンの長さは1.2m以上とする) ○通話機能 ○受付呼出し装置 ○誘導音	
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
	○アンテナ	○UHF用 ○BS用 ○CS用 ○AM用 ○FM用 ○CATV	
テレビ共同受信設備	○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ○配管用ステンレス鋼管 ○一般構造用炭素鋼管(溶融亜鉛メッキ仕上げ) ○圧力配管用炭素鋼管(溶融亜鉛メッキ仕上げ)	
	○電界強度測定	電界強度及び面質は、最上階が打上ったときに、アンテナ取付予定位置、またその周辺で測定し、その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 測定チャンネルは、監督職員と協議する。	

章	項目	特記事項	事項
監視カメラ	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
	○画像	○カラー ○白黒	
監視カメラ	○伝送方式	○アナログ伝送方式 ○ネットワーク伝送方式 ○デジタル同軸伝送方式	
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
監視カメラ	○車両検出方式	○ループコイル方式 ○光線方式	
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
監視カメラ	○工事種類	○機械警備用配管 ○防犯装置 ○入退室管理制御装置	
	○自動火災報知装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○受信機 ○形 級 回路 ○壁掛形 ○自立形 ○単独形 ○複合形 ○副受信機 窓 ○盤面に消火ポンプ運転表示灯を設ける。 ○光警報装置 ○ ○消火ポンプ始動 ○消火栓箱内押ボタン ○発信機と連動(総合盤に始動表示灯を設ける。) ○機器収容箱 ○消火栓一体形 ○単独形	
報知設備	○自動閉鎖装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○連動制御器 回路【予備電源(蓄電池)内蔵】 ○単独 ○自火報受信機と一体	
	○自動閉鎖装置	○防火戸用【DC24V 0.6A以下電磁式またはラッチ式】 ○防煙ダンパ用 【別途工事 瞬時通電式又は電動式 DC24V 0.6A以下 遠方復帰機構(電動式)DC24V 0.7A以下】 ○防火シャッター用 【別途工事 DC24V 0.6A以下】	
報知設備	○非常警報装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○電気方式 DC24V ○電源装置 ○非常電源(蓄電池) ○自動火災報知設備と兼用	
	○ガス漏れ火災警報装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○受信機 ○単独形 ○自火報受信機と一体 ○ガスの種類 ○都市ガス(13A) ○液化石油ガス	
報知設備	○諸警報表示	受信機に諸警報表示窓(窓)を設ける。	
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
報知設備	○監視方式	○警報盤 ○監視制御装置	
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
医療関係設備	○非接地電源用分電盤	キャビネット ○鋼製 ○ステンレス製	
	○オースコール装置	トイレ及び浴室等の呼出ボタン ○有線式 ○無線式 ○防滴 ○防湿	
医療関係設備	○その他	○オプション等の仕様は、監督職員の指示による。	
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
構内配線	○電気方式	高圧 ○三相3線式 6kV 低圧 ○三相3線式 200V ○ ○単相3線式 100/200V ○単2線式 (○100V ○200V)	
	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ○波打硬質合成樹脂管(FEP) ○ポリエチレン被覆管(PLP) ○埋設深さ 特記なきものはGL(舗装がある場合は、舗装下面)から300mm以上とする。 ○架空線 電柱 ○遠心カプレストレストコンクリートポール	
構内配線	○区分開閉器	○高圧負荷開閉器 7.2kV 300A 用途 ○架空引込用 ○地中引込用 構造 ○耐中塩じん用 ○耐重塩じん用 形式 ○引外し装置付き(SOG形) ○引外し装置なし ○避雷器内蔵 ○制御電源用変圧器内蔵	
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は電力とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合は、接地を省略してもよい。	
構内配線	○余長	高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1ヶ所以上で3m余長をとる。	
	○端子、高圧ケーブル端未処理	○一般用 ○前塩用 ○重前塩用	
構内配線	○避雷器	○屋外形 ○耐塩形	
	○装柱材	○一般用 ○耐塩形	
構内配線	○外灯	基礎 ○本工程 ○別途工事 ○外灯ホルの材質が鋼製(SPC)の場合で特記がない場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗装とする。	
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付	
構内配線	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ○波打硬質合成樹脂管(FEP) ○ポリエチレン被覆管(PLP) ○埋設深さ 特記なきものはGL(舗装がある場合は、舗装(表層)下面)から300mm以上とする。 ○架空線 電柱 ○遠心カプレストレストコンクリートポール	
	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は通信とする。 ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合は、接地を省略してもよい。	

章	項目	特記事項	事項
電波障害調査	○調査範囲	○測定のみ ○対策工事実施設計書作成まで	
	○測定時期	○工事前 ○工事中 ○完成後	
電波障害調査	○測定箇所	箇所	
	○測定内容	受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。	

別表 1 付属品・予備品

○イーサーキャビネット	箱	○キーボックス	○テスター	○マンホールフック
○工具箱(ドライバー、モンキーレンチ、組スプナー、ハンマー)				
受変電設備・盤	ランプ及びヒューズの予備品は、20%とする。			

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

電気設備特記仕様書(No-2)

MM SCALE	SCALE	SCALE
DW.	CK.	NO.
		E-02
		DATE 03-09

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

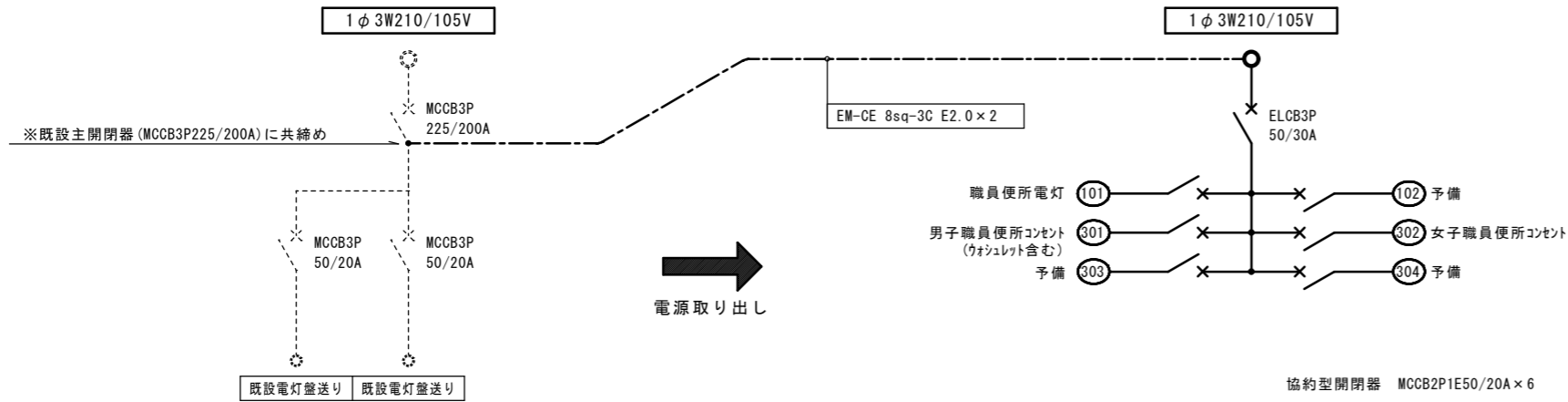
〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

1階電灯盤送り（既設配電盤） 電源取り出し工事

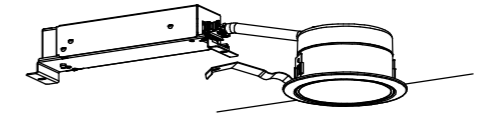
（1階職員用便所用分電盤 LS-1-1） 鋼板製鍵付 露出型

照明器具姿図

新設トイレ用分電盤

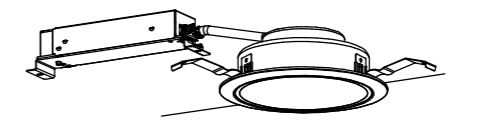


A-LED
LEDタウライト
LRS1-05(公共施設型番)



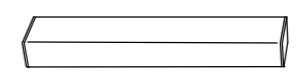
LED内蔵<ワンコア(ひと粒)タイプ>、電源ユニット内蔵、一般光色タイプ
5000K、Ra85、拡散タイプ
光源遮光角15度、光源寿命40000時間(光束維持率85%)
器具光束:610lm、消費電力:4.2W、電圧:100-242V
反射板(上部):プラスチック(ホワイト)
反射板(下部):鋼板(ホワイトつや消し仕上)
枠:鋼板(ホワイトつや消し仕上)、埋込穴φ100

B-LED
LEDタウライト
LRS1-08(公共施設型番)



LED内蔵<ワンコア(ひと粒)タイプ>、電源ユニット内蔵、一般光色タイプ
5000K、Ra85、拡散タイプ
光源遮光角15度、光源寿命40000時間(光束維持率85%)
器具光束:1045lm、消費電力:7W、電圧:100-242V
反射板(上部):プラスチック(ホワイト)
反射板(下部):鋼板(ホワイトつや消し仕上)
枠:鋼板(ホワイトつや消し仕上)、埋込穴φ150

C-LED
LEDウォールライト
LBF3MP/RP-2-06(公共施設型番)



LED内蔵、電源ユニット内蔵
防湿型・防雨型
5000K、Ra83、光源寿命40000時間(光束維持率85%)
器具光束990lm、消費電力10W、電圧100~242V
本体:ステンレス、カバー:ポリカーボネート(乳白)
天井直付型・壁直付型、保護等級:IP23

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

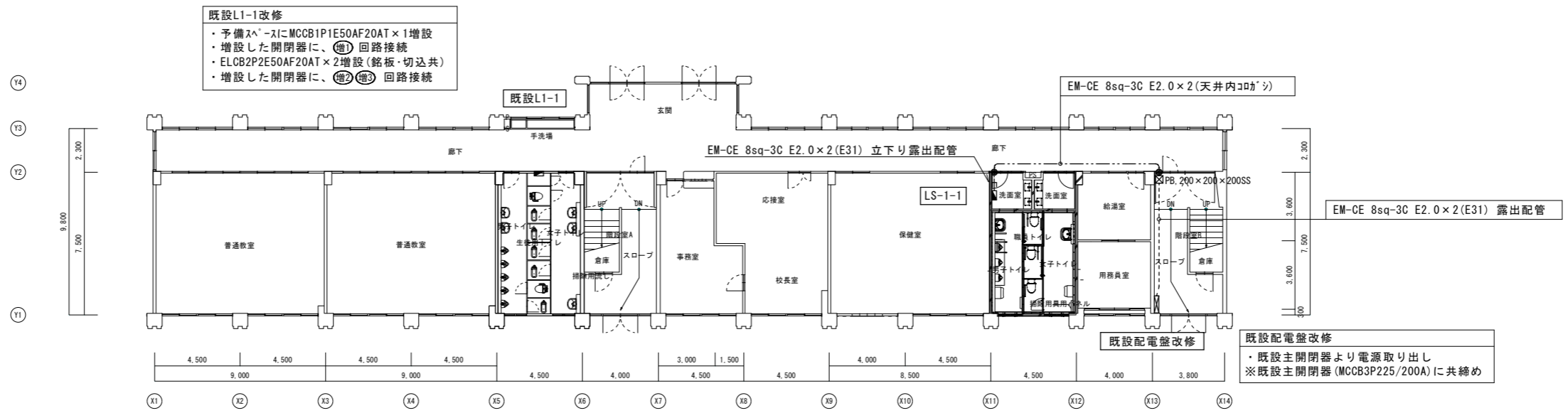
NO. SCALE	SCALE	SCALE	SCALE
電灯分電盤改修設備工事			
D.W.	CK.	NO.	DATE
		E-03	03-09

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

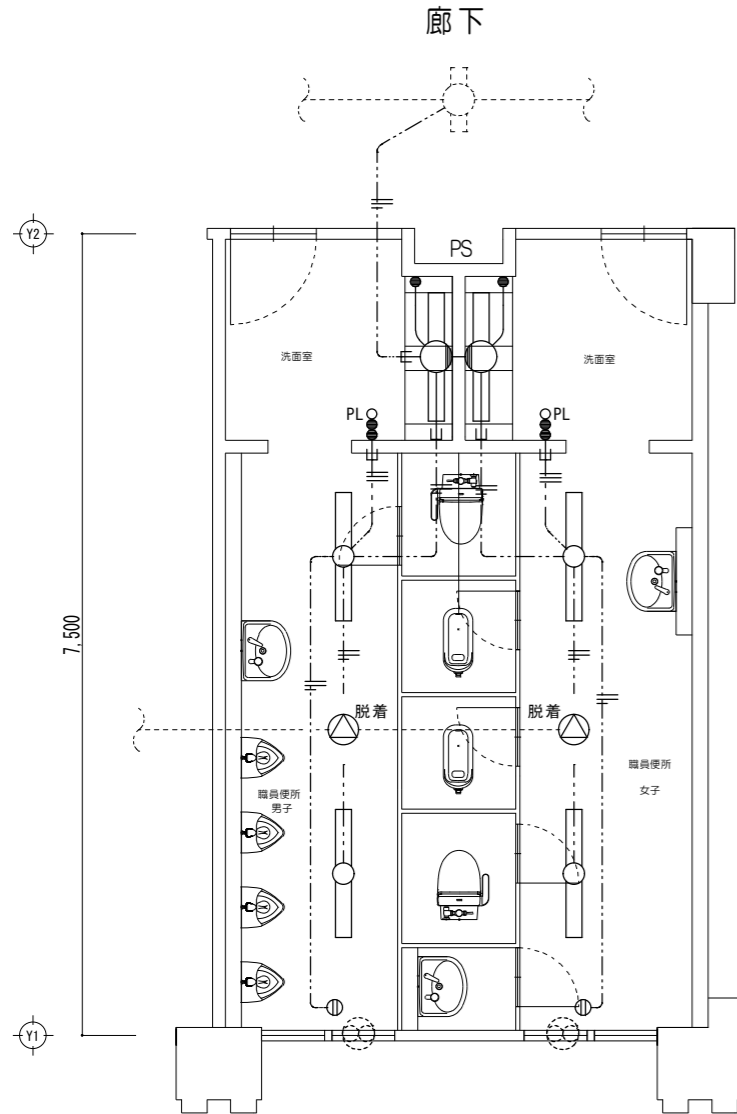
1:200 SCALE	SCALE	SCALE	SCALE
D.W.	CK.	NO.	DATE
		E-04	03-09

設計・監理 一級建築士事務所
野中建築設計事務所
 1級建築士第147931号 野中健一
 〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

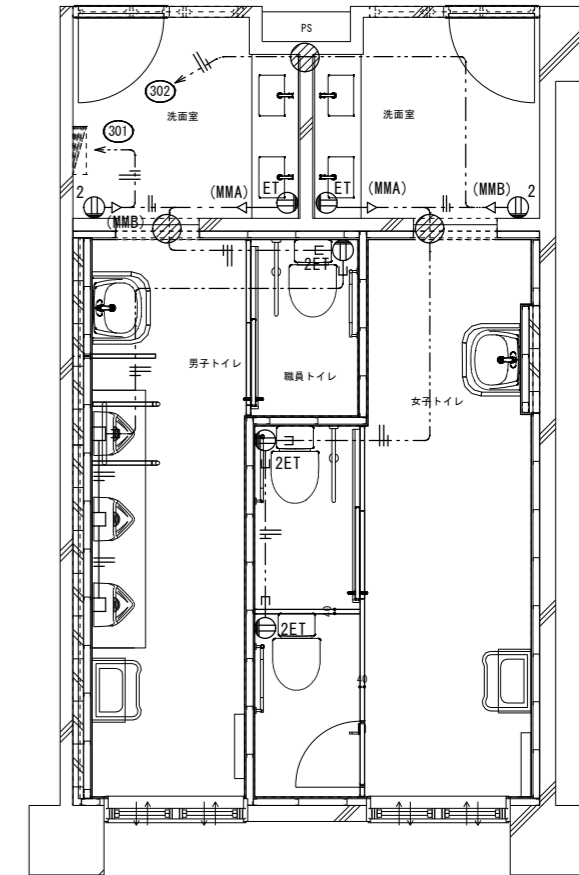
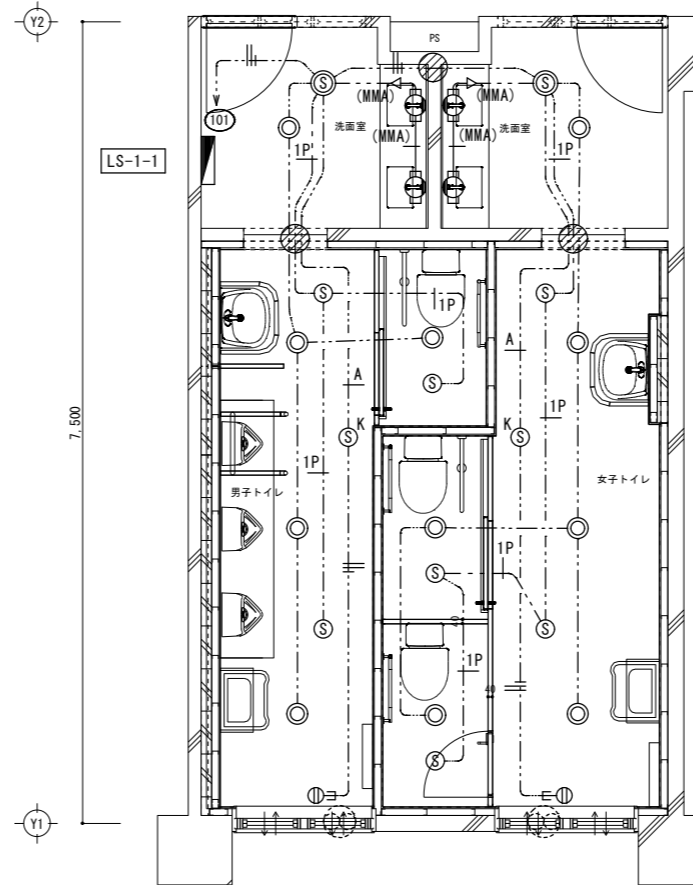
職員便所現況及び撤去図(1階)

職員便所電灯改修図(1階)

職員便所コンセント改修図(1階)



男子トイレ		女子トイレ	
A-LED	× 1	A-LED	× 2
B-LED	× 4	B-LED	× 4
C-LED	× 2	C-LED	× 2



注記) 図中明記なき配管配線は下記に準ずる。

----	VVF 1.6-2C×1	(天井内コカ)
----	VVF 1.6-3C×1	(天井内コカ)
----	VVF 1.6-3C(1E)×1	(天井内コカ)
----	VVF 1.6-3C×1	(E19)壁面立下り
○	逆富士型ベースライト	FL40W×1
●	埋込スイッチ	1P15A×1
●●	埋込スイッチ	1P15A×2+PLS4A×1

1. 図中記載の全ての機器及び配線を撤去する。
2. 壁面埋込の配管は配線抜き取り撤去とする。
3. 施工に先立ち現地調査を行ない、設計図に記載のない既設の機器、不使用で不要なもの、設計図の内容と異なるもの等がある場合は、対応方法を監督員と協議すること。

注記) 明記なき配管配線は、下記に準ずる。

【照明設備】		
----	EM-EEF1.6-2C	(天井内隠ぺい)
↓(MMA)	EM-EEF1.6-2C	(ダブルA型)
----	EM-EEF1.6-3C(1E)	(天井内隠ぺい)
↓A	EM-EEF1.6-3C(1E)	(天井内隠ぺい)
↓IP	EM-CPEE1.2-1Pr	(天井内隠ぺい)
↓IP	EM-CPEE1.2-1Pr	(天井内隠ぺい)
【コンセント設備】		
----	EM-EEF2.0-3C(1E)	(天井内隠ぺい)
----	EM-EEF2.0-3C(1E)	(PF16)(隠ぺい)

・二重天井内及び壁立下り部分はケーブルコカ工事とする。
 ・図中 ⊙ 表示は、既設壁貫通処理(復旧共)を示す。

機器凡例

⊙	熱線センサー自動スイッチ(親機)	(WTK24818:ハ'ナソニック相当品)
⊙K	熱線センサー自動スイッチ(換気扇遅れoff機能付)	(WTK2604:ハ'ナソニック相当品)
⊙	熱線センサー自動スイッチ(子機)	(WTK2910K:ハ'ナソニック相当品)
⊙K	熱線センサー自動スイッチ(換気扇用子機)	(WTK29318:ハ'ナソニック相当品)
←(MMA)	ダブルA型	(附属品共)
←(MMB)	ダブルB型	(附属品共)

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

1:50 SCALE	SCALE	SCALE	SCALE
職員トイレ撤去改修図			
D.W.	CK.	NO.	DATE
		E-05	03-09

設計・監理 一級建築士事務所
野中建築設計事務所
 1級建築士第147931号 野中健一
 〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

章	項	特 記 事 項											
空 気 調 和 設 備	○鋼板製煙道	厚さ	○3. 2mm ○4. 5mm										
	○ばい煙濃度計		○ばい煙濃度計の取付座 ○ばいじん量測定口										
		○伸縮継手	○挿入口										
		○ファン付 ○ファンなし	(電源は熱源機器付属制御盤より取出し、配管配線共本工事に含む)										
調 和 設 備	○瞬間流量計	○固定形 個 ○兼脱可能形 (測定用タッピング 個 本体 個)											
	○保温 (図面特記部分は除く)	1) 冷媒管の保温外装は下記による。 ・屋内 隠ぺい部 ○不要 ○必要 露出部 ○保温化粧ケース (塩化ビニル樹脂製) ○ ・屋外 ○ステンレス鋼板 ○保温化粧ケース (○樹脂製 ○アルミ合金製 ○ステンレス鋼板製 ○溶融亜鉛メッキ鋼板製) ・保温化粧ケースの下部カバー ○必要 ○不要											
		2) ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 3) 加温用給水水槽の保温は膨張タンクに準ずる。 4) トラフ内の油管はプラスチックテープ1/2重ね1回巻きとする。											
換 気 設 備	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法 (○共振フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法) ○スパイラルダクト											
	○ダクトの分岐方法	給気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式											
	○厨房排気ダクトの板厚	厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>ダクトの長辺</th> <th>板厚</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>450mm以下</td> <td>0. 6mm</td> </tr> <tr> <td>450mmを超え1200mm以下</td> <td>0. 8mm</td> </tr> <tr> <td>1200mmを超え1800mm以下</td> <td>1. 0mm</td> </tr> <tr> <td>1800mmを超えるもの</td> <td>1. 2mm</td> </tr> </tbody> </table>		ダクトの長辺	板厚	450mm以下	0. 6mm	450mmを超え1200mm以下	0. 8mm	1200mmを超え1800mm以下	1. 0mm	1800mmを超えるもの	1. 2mm
ダクトの長辺	板厚												
450mm以下	0. 6mm												
450mmを超え1200mm以下	0. 8mm												
1200mmを超え1800mm以下	1. 0mm												
1800mmを超えるもの	1. 2mm												
排 煙 設 備	○排気フード	1) 排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ○ステンレス鋼板 (補強共) ○亜鉛鉄板 2) 排気フード廻りに取付ける幕板は、上記フードと同材質とする。 ○本工事 ○別途工事 3) グリスフィルターの予備 ○不要 ○必要											
	○保 温	浴室・厨房 (多湿箇所) の外気取入ダクトの保温 ○不要 ○必要 外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 全熱交換器までの外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 全熱交換器以降の外気取入ダクトの保温 (空調を行っている室について) ○不要 ○必要 保温を行う場合の様子は標準仕様書第2編第3章第1節による。											
		○廊下 ○事務室 ○図示 ○最大面積 m ²											
排 煙 設 備	○ダクトの種類	○高圧1ダクト ○高圧2ダクト											
	○ダクトの工法	○アングルフランジ工法											
	○ダクトの材料	○亜鉛鉄板製 ○普通鋼板製											
	○排煙口	1) 形 状 ○スリットフェース形 ○パネル形 ○ダンパー形 2) 排煙口の開放 ○手動 (○機械式 ○電気式) ○煙感知器連動 3) 復帰装置 ○手元復帰式 (○手動式 ○電気式) ○遠方復帰式 4) ダンパー本体及び操作箱との渡り配線は本工事とし、それ以降の制御配管配線は別途工事とする。											
○保温	床下及び階内の保温 ○不要 ○必要 (図示) ※図面による。												
衛生器具設備	●小便器用節水装置	電気供給方式	●AC電源 ○乾電池 ○水流弁充電電池										
	●自動水栓	電気供給方式	●AC電源 ○乾電池 ○水流弁充電電池										
	○大便秘器洗浄弁	操作方式	○手動式 ○電気開閉式 (○センサー式 ○タッチスイッチ式)										
	○水石けん入れ ○身障者用器具	○手洗器一体型 ○手洗器分離型 ○ 1) 大便秘器洗浄弁 ○センサー式 ○タッチスイッチ式 ○レバー式 2) 洗面器の水栓は自動水栓とする。											
給 水 設 備	●給水方式	○水道直結方式 ●高置タンク方式 ○増圧ポンプ方式 (水道用直結加圧形ポンプユニット) ○ポンプ直送方式 (小型給水ポンプユニット)											
	●配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管	○ステンレス鋼管 (SUS304) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) ○ビニル管 (H I V P) ○ポリ粉末ライニング鋼管 (SGP-PA、SGP-FPA) ●塩ビライニング鋼管 (SGP-VA、SGP-FVA) ○										
		地中配管 [屋内]	○ステンレス鋼管 (SUS316) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン二層管 (50φ以下) (※2種 ○1種) (ポリエチレン管の接合方法は ○電気融着 ○メカニカル) ○ビニル管 (H I V P) ○ポリ粉末ライニング鋼管 (SGP-PD、SGP-FPD) ○塩ビライニング鋼管 (SGP-VD、SGP-FVD) ○										
		地中配管 [屋外]	○ステンレス鋼管 (SUS316) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン二層管 (50φ以下) (※2種 ○1種) ○ビニル管 (H I V P) ○ポリ粉末ライニング鋼管 (SGP-PD、SGP-FPD) ○塩ビライニング鋼管 (SGP-VD、SGP-FVD) ○										
○緊急遮断弁装置	○要 ○不要 駆動方式 ○電気式 ○機械式												
○量水器	○現地表示式 (直読式) ○遠隔表示式												

章	項	特 記 事 項	
給 水 設 備	○水栓柱	○合成樹脂製 (70×70×1300H) ○ステンレス製 () ○アルミニウム合金製 () 特記なき場合、水栓取付け高さは約600とする。	
	○管の埋設深さ	1) 一般敷地 ○300mm ○ 2) 構内車両通路 ○600mm ○ 3) 寒冷地では凍結深度以上とする。	
備 考	○加入金・負担金	○不要 ○必要 (○別途 ○本工事)	
	○本管引込工事	○本工事 ○別途工事	
排 水 設 備	●排水方式	汚水と雑排水 [屋内] 汚水・雑排水と雨水 [屋外] ポンプ排水	●分流式 ○合流式 ○分流式 ○合流式 ○有り (○雑排水 ○汚水 ○雨水 ○湧水 ○浄化槽2次側) ○なし
	●放流式	汚水 雑排水 雨水ポンプアップ 湧水ポンプアップ	●直放流水管 ○浄化槽 ○ ●直放流水管 ○浄化槽 ○別途樹・側溝 ○直放流水管 ○雨水側溝 ○雨水樹 ○直放流水管 ○雨水側溝 ○雨水樹
	●配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内雑排水管	○排水用塩ビライニング鋼管 ○鋼管 (SGPW) (○ねじ接合 ○MDジョイントによる接合) ●ビニル管 (V P) ○耐火二層管 ○
		屋内汚水排水管	○排水用塩ビライニング鋼管 ●ビニル管 (V P) ○RF-V P ○耐火二層管 ○
給 湯 設 備	通気管	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-V P) ○鋼管 (SGPW) (○ねじ接合 ○MDジョイントによる接合) ●ビニル管 (V P) ○耐火二層管 ○	
		地中配管 [屋内]	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 (REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 (RS-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-V P) ○ビニル管 (V P) ○ビニル管 (V U) ○
	地中配管 [屋外]	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 (REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 (RS-VU) ○ビニル管 (V P) ○ビニル管 (V U) ○コンクリート管	
	鋼管製のポンプアップ排水用の配管は、塩ビライニング鋼管 (SGP-VA、SGP-FVA) (地中配管はSGP-VD、SGP-FVD) とし、継手はフランジ又はハウジング形継手とする。	○必要 (図示箇所に取付ける) ○不要	
消 火 設 備	○消火設備の種類	○屋内消火栓 ○スプリンクラー ○泡消火 ○不活性ガス消火 () ○連絡送水管 ○	
	○表示灯	屋内消火栓箱には、消火ポンプ運転表示灯取付用口を設ける。	
	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管	○配管用炭素鋼管 (白) ○圧力配管用炭素鋼管 (白) ○
	○保温	屋内外地中配管	○外面被覆鋼管 (SGP-V S)
ガ ス 設 備	○ガスの種類	○都市ガス (発熱量 ○45. 000kJ/N m ³ ○ KJ/N m ³) ○液化石油ガス (○50kg 本立 ○20kg 本立)	
		○ガスメーター	親メーター ○貸与品 ○購入 子メーター ○購入 ○貸与品
	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管	○配管用炭素鋼管 (白) ○ ○
設 置 備 考	○地中埋設管の接合法	○OSGM工法 ○ネジ工法 ○PE管工法	
		○溶接工法	
	○負担金	○不要 ○必要 (○別途 ○本工事)	
○本管接続工事	○本工事 ○別途工事		
○掘削工法	○パーカッション式 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマー式		
○孔口保護管	○口径保護管 () m		
○ケーシング材質	○配管用炭素鋼管 (黒管) ○配管用ステンレス鋼管		

章	項	特 記 事 項	
井 設 備	○掘削工法	○回転振動式 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマー式 ○ロータリーパーカッション式	
		安全装置の適用は図面による。	
設 備		○ユニット形 ○現場施工形 ○小規模合併処理 (別紙参照) ○合併処理 (別紙参照)	
設 備	○形式	○ユニット形 ○現場施工形	
	○処理方法	○小規模合併処理 (別紙参照) ○合併処理 (別紙参照)	
撤 去 工 事	○保温材	保温材は、配管・ダクト等より分離する。 ダクト及び配管等の支持金物及び吊り金物は本工事で撤去する。	
	○支持金物等	○金属材料 (●機器類 ●ダクト ●配管 ○その他の金属) の処理は (○物品管理者に引き渡し ●構外搬出適切処理) とする。 ○特別管理産業廃棄物 ○ () の処理は (○別途 ○構外搬出適切処理) とする。 ●上記以外のもの ○ () の処理は (○別途 ●構外搬出適切処理) とする。	

別表 1 付属品・予備品

○工具箱 (ドライバー、モンキーレンチ、組スパー、ハンマー)
○マンホールフック ○パイプレンチ ○ポンププライヤー ○ラバーカップ (大、小)
○イージーキャビネット 箱 ○キーボックス
○盤類予備品 (ランプ及びヒューズの100%)

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

機械設備工事 特記仕様書 (2)

DW.	CK.	NO.	DATE
		M-02	03-09

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

器具リスト								
器具名	品番	器具名	附属品	備考	1 階			TOTAL
					職員男子便所	職員女子便所		
洋風便器	CS597BS	TOTO	SH596BAYR, TCF5534AU, YH702	他附属品一式共	1	2		3
小便器	UFS900R	TOTO	AC100V, 節水タイプ	他附属品一式共	3			3
手洗器	L210C	TOTO	TENA41A, TLDP2201J, TL250D	他附属品一式共	1	1		2
掃除用流し	SK22A	TOTO	T23AEQ20C, TN114, T37SGEP	他附属品一式共	1	1		2
小物収納パネル	UTR421S	TOTO	掃除用流しセットアクセサリ		1	1		2
モップ掛けパネル	UTR422S	TOTO	掃除用流しセットアクセサリ		1	1		2
手すり	T114CL9R	TOTO	L型		1	1		2
手すり	T114CU22R	TOTO	小便器用		1			1
手すり	2460-34	カクダイ	洗面器・手洗器用		1	1		2
手すり	T114CP22R	TOTO	腰掛便器用		1	1		2
化粧鏡	YM4560F	TOTO	耐食鏡, 450×600		1	1		2
大型鏡	MMA1A1550A1050W	TOTO	1550×1050		1	1		2
混合水栓	TKS05310J	TOTO	台付き2穴	【既設混合水栓取替え（水のみ使用）※洗面器本体は既設利用】	2	2		4

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20

TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

機械設備工事 器具リスト(衛生設備)

DW.

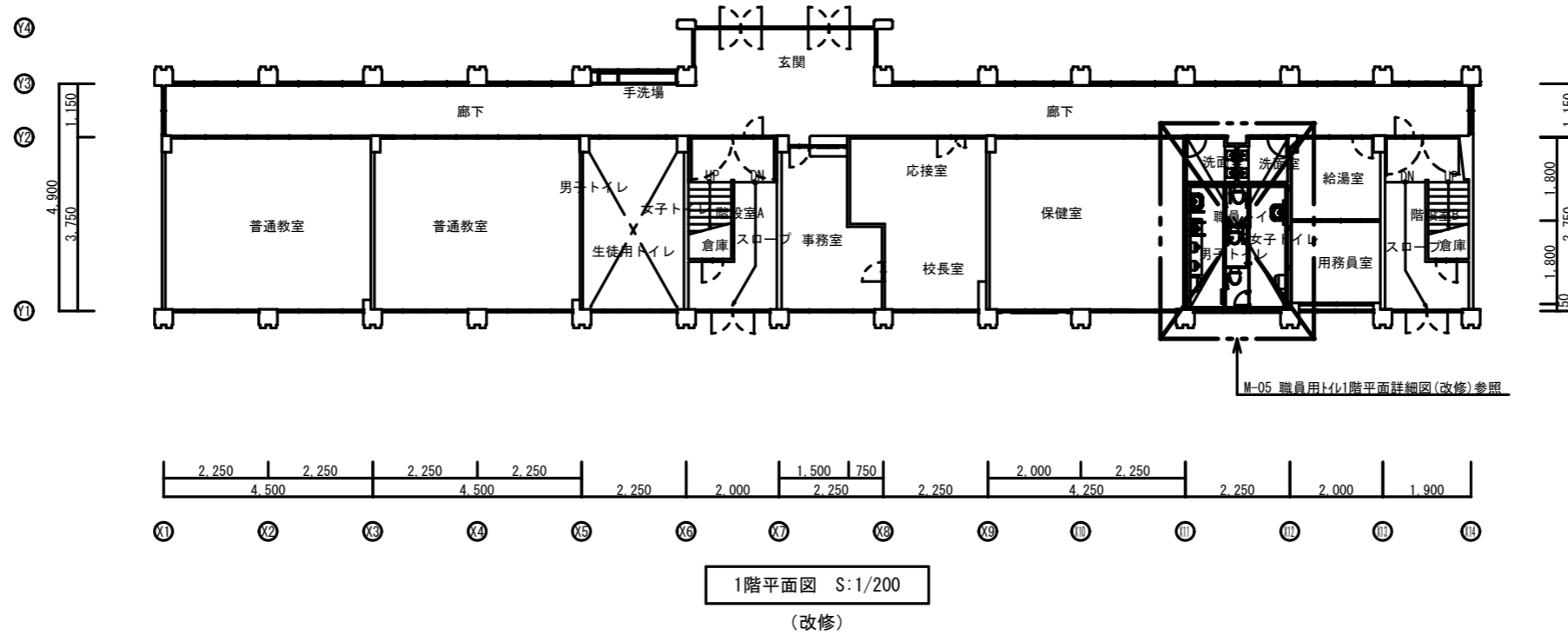
CK.

NO.

M-03

DATE

03-09



令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

設計・監理 一級建築士事務所

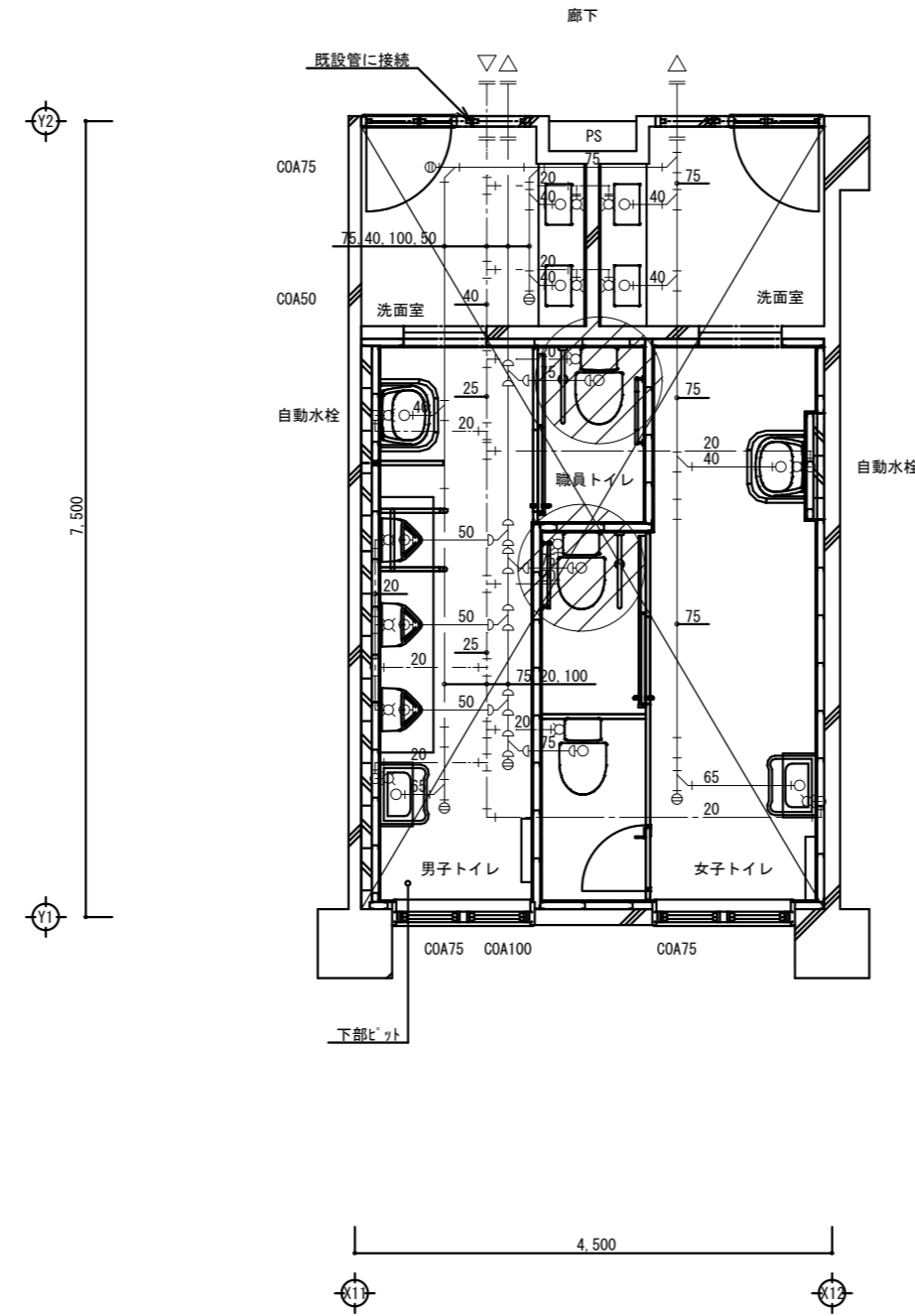
機械設備工事 1階平面図(改修)(衛生設備)

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

DW. CK. NO. M-04 DATE 03-09

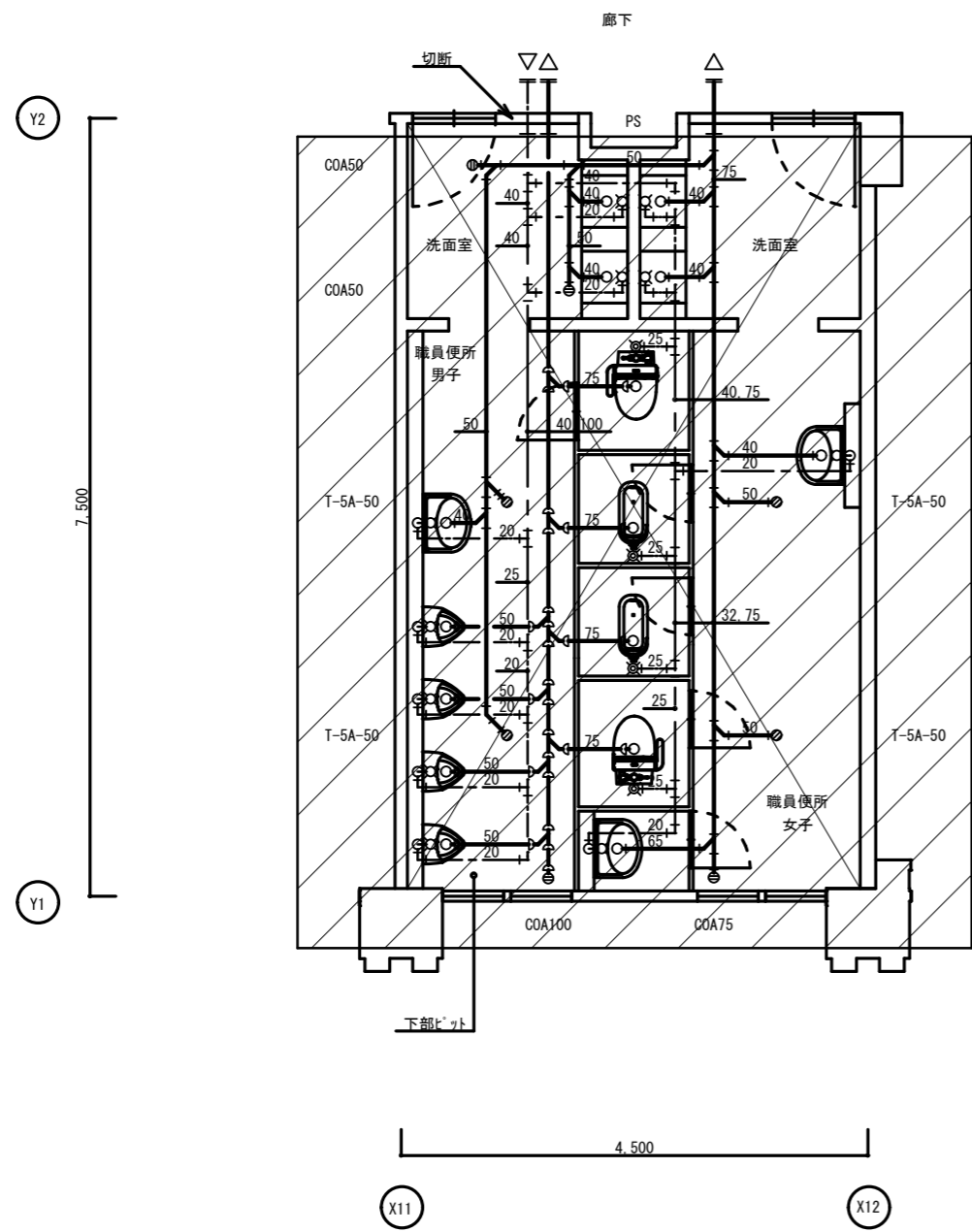
〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



職員用トイレ1階平面詳細図 S:1/50
(改修)

注記事項: 1. 既設躯体の貫通は「イモト」カッターにて行い、穴明け(補修共)は全て本工事にて行う事。
2. 〇の範囲の大便器及び洋式便器は温水洗浄便座付とする。

令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図				設計・監理 一級建築士事務所
機械設備工事 職員用トイレ1階平面詳細図(改修) (衛生設備)				野中建築設計事務所
1:50 SCALE				1級建築士第147931号 野中健一
DW.	CK.	NO. M-05	DATE 03-09	〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20 TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408



職員用便所1階平面詳細図 S:1/50
(現況)

撤去リスト：衛生

名称	1階			合計
	職員男子便所	職員女子便所		
洋風便器 (FV式)	1	1		2
和風便器 (FV式)		2		2
小便器 (FV式)	4			4
手洗器	1	1		2
掃除用流し		1		1
化粧鏡	2	2		4
混合水栓	2	2		4

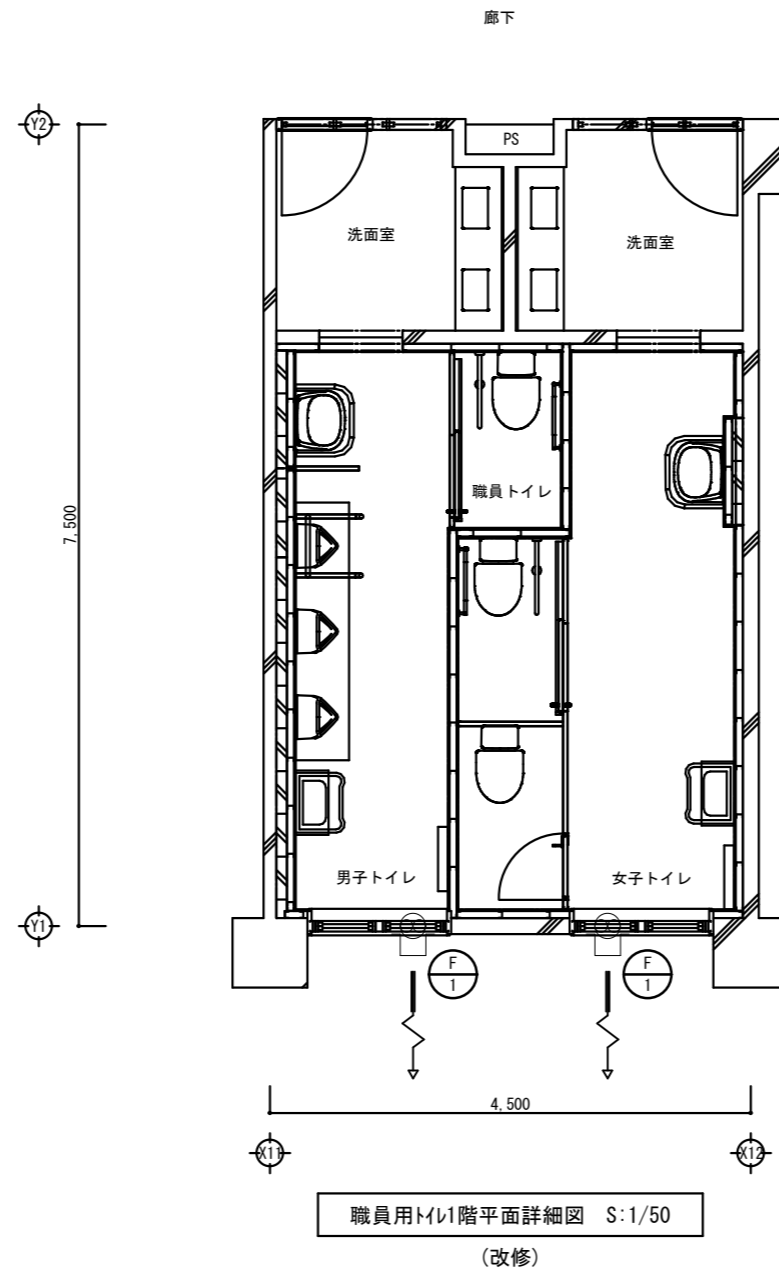
注記事項

1. 既設機器・配管 (露出・インペイ部共) の撤去は全て本工事とする。(図中 部分)
2. 本参考図は解体工事において、特に留意すべき主要部分のみを記載しているものである。
図中明記なくとも、一般的に建築物に付属している諸設備については撤去を行い、適切に処分する事。

機器リスト：換気					
記号	機器名称	機器仕様	電源	台数	備考
F-1	換気扇	学校用標準換気扇 窓枠据付け格子タイプ 250φ 電気式シャッター 755CMH × 38W × 43dB SUS製ウェザーカバー共	1φ100V	2	EX-25SC4-S (三菱電機 同等品)



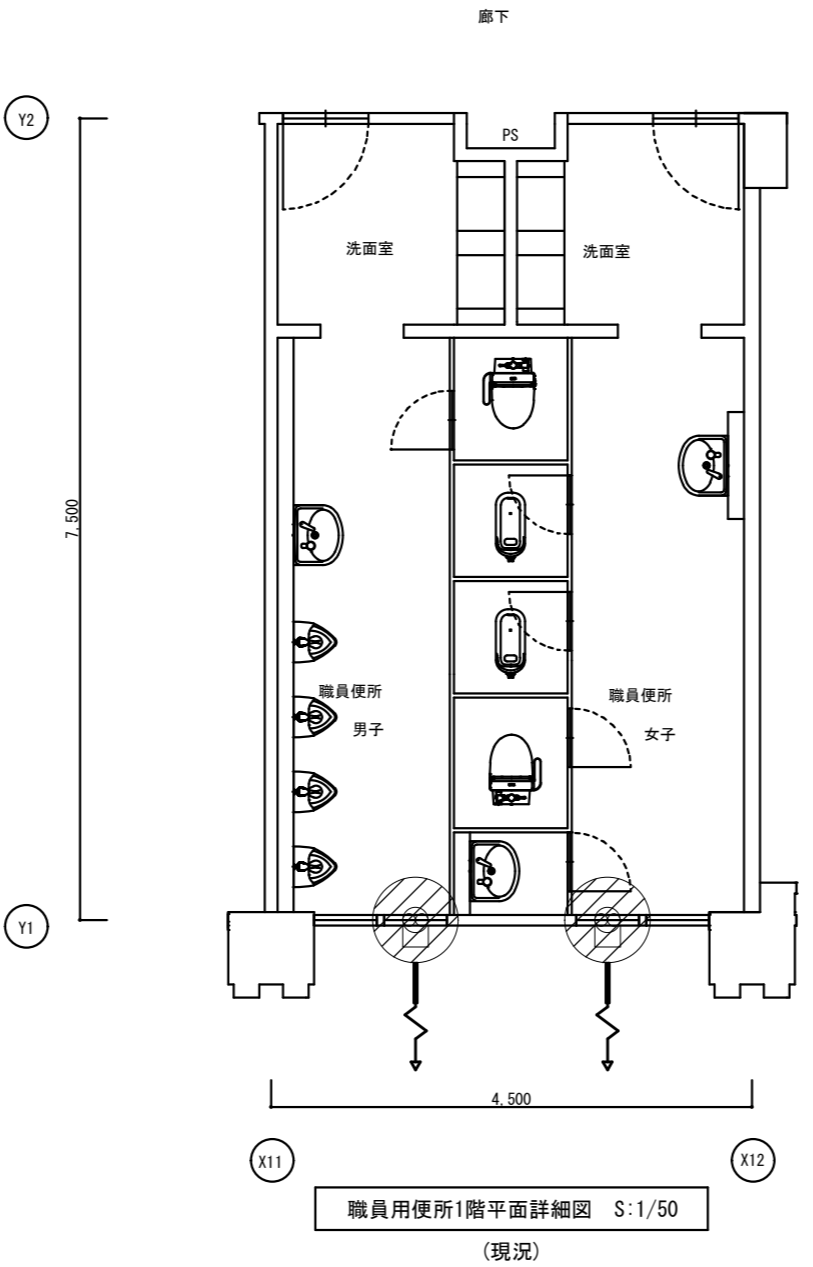
注記事項
1. 屋外露出部分のベンドキャップ・ガラリ等はSUS仕様（防虫網・水切付）とする。
2. 換気扇の能力特性はJISC 9603による。
3. 換気扇の能力特性はJIS B 8330による。



令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図			設計・監理 一級建築士事務所
機械設備工事 職員用トイレ1階平面詳細図(改修) (換気設備)			野中建築設計事務所
1:50 SCALE			1級建築士第147931号 野中健一
DW.	CK.	NO. M-07	DATE 03-09
〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20			TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408

撤去リスト：換気					
名称	1階				合計
	職員男子便所	職員女子便所			
壁付扇 (250φ)	1	1			2

注記事項
1. 撤去 機器、 冷風 ダクトを示す。



令和4年度 京丹波町立瑞穂中学校職員用トイレ改修工事 設計図

機械設備工事 職員用トイレ1階平面詳細図(現況)(換気設備)

DW. CK. NO. M-08 DATE 03-09

設計・監理 一級建築士事務所

野中建築設計事務所

1級建築士第147931号 野中健一

〒622-0014 京都府南丹市園部町上本町南2-20
TEL 0771-62-0288 FAX 0771-62-0408